

特記仕様書

工事名称	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事（建築主体工事）
工事場所	三原市本郷北三丁目
工事内容	三原市立本郷小学校の屋内運動場における、長寿命化改修工事を行う。 [工事概要] ・建築一式工事 （1）屋内運動場 内部・外部改修工事 鉄骨造、地上2階、延床面積925㎡ （2）渡り廊下 改修工事 （3）スロープ 改修工事
準則	公共建築工事標準仕様書(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編)、公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編)、建築物解体工事共通仕様書（各 最新版 国土交通省官房官庁営繕部監修）に基づき施工する。
別途発注工事	・本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事（設備工事）
支払条件等	前払金及び中間前金払・部分払等の支払については、令和8年度は請負代金額の10分の4以内の額とする。
関係法令等	本工事については、次の関係法令その他の規定等に基づき施工すること。 ・建築基準法、同施行令、同施行規則 ・消防法、同施行令、同施行規則 ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律、同法施行令、同法施行規則 ・労働安全衛生法、同法施行令、同法施行規則 ・建設業法、同施行令、同施行規則 ・建設工事公衆災害防止対策要綱 ・石綿障害予防規則 ・大気汚染防止法、振動規制法及び土壌汚染対策法 ・建設工事に係る再資源化等に関する法律、同法施行令、同施行規則 ・その他関係法令
工事保険等	受注者は、本工事において第三者に危害を与えた損害を補填する保険又はその他必要とする建設工事に関連する保険等に加入しなければならない。
疑義変更	・本設計図書は、設計の大意を示すものであり、詳細部等について技術的必要事項は明記なくとも完全に施工すること。 ・別途発注工事の設計図書について、取り合いなどの整合を確認すること。 ・施工に際して疑義が生じた場合、または軽微な変更を必要とする場合には、速やかに監理者と協議し、監督員の指示により施工すること。ただし、これらにおいて請負代金額の増減はなきものとする。 ・本設計図書と不整合が確認されて設計変更（増額）が必要な場合は、その変更数量が確認できる根拠としての写真などの記録が存在し、かつ監督員に承認されたもの以外は認められない。
提出書類	・施工に先立ち、工事工程表、仮設計画図及び監督員の指示する書類を提出し、監督員の承認を受けること。 ・商品名及び製造者名が記載された材料については、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督員の承諾を受けること。 ・設計図書に定める品質及び性能を有することについて、証明となる資料を提出して監督員の承諾を受けること。
工期	本工事は請負契約締結の後、令和10年2月28日をもって工期とする。 このうち検査期間として13日間を見込んでいる。（工事の完成通知予定日は令和10年2月15日。） （現場の作業完了予定見込み：令和9年11月12日）

留意事項

- ・入札に先立ち、現地調査を十分に行うこと。質疑がある場合は入札前に確認すること。
- ・図面について、設計者からの設計意図等の説明が必要な場合は申し出ること。
- ・作業日は、原則、月曜日から金曜日とし、土曜日及び日曜日は休工期とする。
- ・行政機関の休日に関する法律（昭和63年法律第91号）に定める行政機関の休日に工事の施工を行わない。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りではない。
- ・本工事は「発注者指定型」による週休2日適用工事の対象工事であり、「三原市週休2日適用工事等実施要領（建築工事）」（令和7年6月24日改定）により工事を行うこと。
- ・工事着手前までに「週休2日適用工事」または「週休2日交代制適用工事」に取り組むことを工事打合せ簿にて提出すること。
- ・「週休2日適用工事」または「週休2日交代制適用工事」である旨の表示を工事現場に設置すること。
- ・月単位の週休2日適用工事を達成できなくなった場合は、対象期間中の現場閉所（現場休息）の状況に応じた補正係数により労務費を減額する。
- ・本工事は居ながら工事を基本とし、必要に応じて施設使用者の通行制限を行うこととする。工事の詳細については、事前に施設管理者等への説明を行って承諾を得ること。
- ・デジタル化を積極的に推進すること。
- ・生成AIを積極的に活用して工事を進めること。提出書類については、必ず生成AIによるチェックを行った上で提出すること。
- ・定例会議の頻度と方法は協議による。方法は現場事務所での現地開催を基本とし、一部Web会議（現場事務所と市役所を想定）併用とする。現場でのWeb会議の環境設定（受注者側がホスト。Web会議の使用料、現場の通信費等を含む。Web会議用カメラ、マイク、スピーカーなどの周辺機器を含む。）は、工事に含む。
- ・紙資料の削減を目的として、電子機器の利用を主とすること。
- ・定例会の資料は、電子データを原則とすること。
- ・受注者は各定例会の前日までに必要な資料を所定の場所に提出すること。
- ・受注者は各定例会後の5日以内に議事録を作成して、所定の場所に提出し、出席者に内容を共有すること。
- ・現場事務所には、HDMI規格により出力できるモニター（50インチ以上）を設置すること。
- ・現場事務所内は、無線通信（会議にて同時接続10台以上）が可能な環境とすること。
- ・工事着手の10日より前に住民説明会を開催し、工事の概要を説明すること。日時や場所等については発注者との協議により決定する。
- ・工事期間中も一部の学校行事については屋内運動場を利用する必要があるため、倉庫(C)を除く屋内運動場2階部分及び中2階屋内運動場ギャラリーの改修工事については、令和9年4月12日から令和9年11月12日までの期間内に工事を行い、完成させること。
- ・工事期間中もプールを利用する必要があるため、ポーチ及び西外部階段Bを除く屋内運動場の外部改修については令和9年5月31日までに工事を行い、完成させること。また、外部足場解体後、渡り廊下から1階ピロティを経由してプールに至るまでの経路には安全通路を設けること。
- ・工事期間中も校舎から屋内運動場及びプールに至る移動経路として渡り廊下を利用する必要があるため、渡り廊下の改修工事については、令和9年7月26日から令和9年10月8日までの期間内に工事を行い、完成させること。
- ・騒音・振動等の発生が予想される作業を含めた工事全般について、学校と協議の上でなるべく児童・生徒等に配慮した作業計画すること。授業時間等に十分配慮して作業すること。
- ・使用する塗料は原則として水性塗料とするなど、学校に配慮すること。
- ・着手にあたり、工事着手前の周辺道路や近隣敷地の状況を写真等により記録しておくこと。
- ・近隣住民等の安全はもとより、丁寧な説明と施工により、関係者の理解と協力を得ながら実施すること。苦情等が発生した場合には誠意をもってこれに対応すること。
- ・近隣において、その他の工事が行われている場合は、取り合い工事及び工程等の調整を行うこと。
- ・近隣住民等への支障を最小限とするため、騒音・振動・粉塵等の対策については最大限配慮した施工方法を採用すること。
- ・使用する建設機械については、原則、「低騒音型、低振動型建設機械」として国土交通省の指定を受けた機械を選定して使用すること。これが確認できる資料を施工計画書で示すこと。なお、事情により使用が難しい場合は監督員との協議を行うこと。
- ・解体工事・アンカー工事等の騒音・振動・粉じん等の発生が予想される工種については、施工時間及び施工方法を最大限配慮した計画により作業を行うこと。
- ・粉塵の発生が予想される工事は、確実に散水を行う等して、周辺環境への粉塵飛散がないように作業をすること。
- ・騒音計・振動計・デジタル粉塵計・表示盤等を設置し、常時監視をしながら作業を行うこと。
- ・騒音計・振動計の表示盤は、近隣に対して1カ所以上を掲示すること。
- ・騒音測定については、騒音規制法(特定建設作業)の測定方法により測定して、工事中の作業音は許容限度である85デシベルを厳守すること。

- ・振動測定については、振動規制法(特定建設作業)の測定方法により測定して、工事中の作業振動は許容限度である75デシベルを厳守すること。
- ・施工箇所周囲の備品・機器等については、粉塵対策として養生及び清掃等を確実に行うこと。養生や移動を行う場合は、事前に施設管理者または所有者に連絡すること。
- ・近隣家屋・敷地または周辺道路に対して、工事による汚れ・損傷・粉じん等を与えた場合は、受注者が責任をもって、速やかに清掃及び補修等を行うこと。誠意をもって対応し、現状復旧に努めること。
- ・周辺道路の保全及び清掃については常に注意を払って監視をし、定期的に清掃を行うこと。
- ・敷地境界付近には仮囲い(高さ2m以上)を設置すること。
- ・第三者災害防止及び飛散防止対策のために、必要に応じて監督員が指示する範囲にバリケード等を設置すること。
- ・工事期間中は、工事用出入口に交通誘導員を常時配置し、付近の交通の安全を図ること。その他、必要な場所に交通誘導員を配置し、事故及び危険防止に努めること。
- ・交通誘導員は本工事で見込んでいる。実施数量が設計数量に満たない場合は設計変更(減額)の対象とする。
- ・工事車両の通行については、近隣住民及び通学児童等の安全を最優先すること。
- ・工事車両は、幅員の広い道路の通行を基本とし、住宅地内などの狭い道を抜け道として使用しないこと。工事車両の周辺の通行経路については、工事着手前に発注者の了承を得ること。
- ・工事車両は、原則、敷地南側の通用門からの出入りとする。大型車両や特殊車両の進入等、やむを得ず敷地西側の校門から出入りを行う場合は、あらかじめ搬入時刻、車両台数等について発注者の了承を得ること。
- ・工事車両の出入りについては、児童の通学時間帯である午前7時40分から午前8時15分及び午後3時40分から午後4時00分を除く時間帯とし、児童との接触事故を防止するため、交通誘導員を配置し誘導を行わせること。
- ・特殊車両の搬出入の有無については、あらかじめ発注者に報告すること。
- ・特殊車両の搬出入を夜間や早朝に行う必要がある場合は、発注者との協議の上で、事前に近隣住民等へ案内文のポスティング等を行うこと。
- ・工事車両は、場内を5km/h以下で徐行すること。場内に注意喚起表示を行うこと。
- ・場内に喫煙所を設ける場合は、施設使用者と近隣住民へ配慮し、設置位置と使用方法を協議してから設けること。また、使用方法を作業員に周知徹底すること。
- ・工事区域内の残置する設備配管・配線等については、事前に位置を確認してから作業を行うこと。事前調査記録を作成すること。
- ・工事に支障となる遊具、記念碑等の移設が必要な場合は、事前に関係者と移設場所・方法・時期等を協議の上で実施すること。
- ・工事中の雨水・湧水・洗浄水等の排水については、ノッチタンクによる汚泥等の処理を行う等した上で、適切に排水すること。定期的にpHを測定し、必要に応じて適宜中和を行うこと。
- ・受注者事務所、休憩所及び便所等は関係法令に従って設けること。
- ・仮囲い、足場、山留、型枠支保工、構台等の仮設については、施工者が計算等により責任をもって決定し、計画通りに施工すること。仮設置期間は日常点検を行い、記録に残すこと。
- ・図面等に示されている仮設等についても、必ず受注者で安全性や施工性等を検証すること。受注者が責任をもって設置、施工すること。
- ・足場設置期間中は、シート等の飛散が無いように定期的に点検を行うこと。
- ・台風等の強風等異常気象が見込まれる場合は、事前に足場等の養生シートを折りたたむなど対策を施すこと。また、必要に応じて現場巡視と災害防止対策を行うこと。
- ・足場については、交差筋交い及び外部シートとは別に、高さ15センチメートル以上の幅木を外部・内部の両側に設置すること。(※労働安全衛生法の基準以上の足場とし、安全に配慮する。)
- ・足場については、必要に応じて朝顔を設置すること。
- ・足場については「手すり先行工法等に関するガイドライン」における「手すり先行工法等に関する基準」、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する施工方法にて設置、解体をすること。(親網は手摺とは扱わない。)
- ・外部足場等に過剰な宣伝広告はしないこと。
- ・工事関係者の駐車場については、屋内運動場の1階ピロティ部分の一部を足場の設置に影響のない範囲で使用することを想定している。
- ・工事に係る電気、水道及び下水道使用料金等は受注者の負担とする。
- ・工事の要求に必要な仮設は、工事を含むものとする。
- ・重機が転倒しないように事前検討を行い、安全に作業を行うこと。
- ・配筋検査は、受注者による自主検査を行ったうえ、監理者及び監督員による検査を受検すること。なお、これらの検査は、種類・径・数量についての全数検査を行うこと。
- ・配筋検査前に、上記内容はもとより、継手定着長さ・位置、かぶり厚さ、鉄筋のあき寸法など、設計図書通りに施工されていることを確認してから検査に臨むこと。

- ・コンクリートの調合は、標準仕様書に基づき構造体強度補正を見込む。(原則、外構工事を含む。無筋コンクリートは除く。)
- ・コンクリート打設後の所定期間中は、散水等による湿潤養生を適切に行うこと。
- ・木工事で使用する木材の産出地は、原則、広島県産材(可能な範囲で三原市産材)とすること。
- ・工事完了後に、木工事で使用する木材の産出地について、数量を整理して提出すること。
- ・家具については転倒防止対策のため、床及び壁へ固定すること。
- ・雨水の浸入を防止する部分、屋根、外壁又はこれらの開口部に設ける戸、枠その他の建具周り等からの雨水の浸入に関する瑕疵については、引渡しの日翌日から10年間責任を負うこと。このことについて、保証書を作成して提出すること。(改修工事については、本工事の範囲)
- ・図面に水勾配がある箇所については、施工図に勾配のパーセントを記載すると共に、完成図にも勾配のパーセントを計測して記載すること。計測する箇所については監督員と協議すること。
- ・塗装の下塗り、中塗り、上塗りは原則的に色を塗り分けること。
- ・鍵のプランについては、協議の上で同一キーとする箇所を確認すること。
- ・シリンダーキーについては、既存のグランドマスターキー及びマスターキーに取り込むこと。
- ・既存壁紙(クロス)撤去については、既存壁紙(クロス)の裏紙が残らないように処理し、完全に撤去すること。
- ・改修した防火設備の作動状況の確認及び運動する煙感知器等の作動状況の確認については、資格者(建築基準法第12条4項)による総合試験とすること。
- ・外壁劣化状況の調査費用は本工事で見込んでいる。
- ・「①建築物を解体する作業を伴う建設工事であって、当該作業の対象となる床面積の合計が80㎡以上であるもの」、「②建築物を改造し、または補修する作業を伴う建設工事であって、当該作業の請負代金の合計額が100万円以上であるもの」、「③工作物を解体し、改造し、または補修する作業を伴う建設工事であって、当該作業の請負代金の合計額が100万円以上であるもの」については、事前調査結果を労働基準監督署及び広島県東部厚生環境事務所環境管理課に石綿等に関する事項を報告すること。
- ・石綿含有建材の調査(書面・目視調査、分析調査調査及び検体採取を含む)について、工事着手前までに一般建築物石綿含有建材調査者、または特定建築物石綿含有建材調査者が行うこと。
- ・その他石綿の飛散防止等については、改正大気汚染防止法及び施行令(令和3年4月1日施行)に基づくこと。
- ・石綿含有分析調査は試料採取と分析調査費を見込んでいる。分析は定性(JIS A 1481-1。含有の場合は、含有する層の判定も行う。)による。(4検体)
- ・作業員に対して、新規入場教育時に石綿含有建材の使用位置を確認させること。
- ・石綿則に基づく事前調査のアスベスト分析マニュアル(最新版)に基づくこと。
- ・石綿含有建材の除去専門業者については、建設技術審査証明協議会による「建設技術審査証明事業」の提出、又は本工事に相応した技術を有することが分かる施工実績証明等が確認できること。
- ・石綿含有建材の除去作業者については、一般健康診断・石綿健康診断・じん肺健康診断の3種類を定期的に受診していることが確認できること。
- ・石綿を含有する建築物の解体等を行う際には届出を行うこと。レベル1・2については「工事計画届」「特定粉じん排出等作業届書」「事前届出の実施」「建築物解体等作業届」等遅滞なく提出すること。
- ・PCB含有シーリング材の撤去については、「PCB含有ポリサルファイド系シーリング材撤去工事標準施工要領書」に沿って撤去すること。
- ・請負契約の締結後から現場施工に着手するまでの期間(現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間)については、現場代理人及び主任(監理)技術者の専任を要しない。なお、現場施工に着手する日については、監督職員との打合せにおいて定める。
- ・仮使用申請、道路使用、道路改築申請等の工事に必要な各種手続きは、受注者の負担により遅滞なく行うこと。
- ・その他、工事に伴う官公庁等への手続きは、受注者により遅滞なく行うこと。この時、各種申請手数料等が発生した場合は受注者の負担とする。
- ・本工事は別途契約の工事と施工上密接に関連するため、本工事の受注者が調整を行うこと。
- ・工程計画、取り合い工事及び工事用車両の出入り等については、当該別途契約の工事関係者と互いに協力し合い、相互の工事を考慮した上で十分調整し、工事の円滑な施工に務めること。
- ・足場、交通誘導員、工事関係者駐車場用地等は、建築主体工事に見込んでいるが、別途発注工事業者も使用できるものとする。(維持管理上必要な費用は、各業者で協議の上分担すること。)
- ・品質証明員(技術士、1級施工管理技士もしくは1級建築士の資格を有するもので、当該工事に従事していない者)を定める場合は、「総合施工計画書」に品質証明計画と品質証明員の氏名・資格を記載し、資格証明書の写しを添付すること。
- ・品質証明員を定める場合は、品質証明員が関係書類、出来形、品質等の確認を工事全般に行うこと。また、社内検査を実施し、報告書等を適宜提出すること。

- ・大雨等の警報が発令した場合、また台風及び強風等による自然災害の発生が予測される場合は、現場代理人等は現場事務所等へ待機のうえ、現場及び周囲の巡回を行うとともに必要に応じて対策を講じ報告すること。
- ・本工事の外注資材、労務等の調達については、極力、三原市内に主たる営業所を有する業者に発注すること。困難な場合は、あらかじめ理由を添えて発注者の承認を受けること。（理由については、三原市内に主たる営業所を有する業者に発注できない具体的な理由を明記すること。）
- ・熱中症対策として、従業員及び作業員が必要に応じて水分を補給できるよう作業所に給水設備を設置すること。
- ・広島県工事中情報共有システムを利用すること。なお、本工事にシステム利用料金を見込む。
- ・各工程の状況（写真、進捗率等を月2回程度）を工事中情報共有システムの連絡事項にて報告すること。
- ・工事書類については、工事中情報共有システムの決裁データ等を整理して、CD-R又はDVD-R（2部）にて提出すること。
- ・書面での提出が必要なもの（建退共の掛金収納書、試験結果、保証書等）については、PDFを工事中情報共有システムで提出し、別に書面提出ファイルとしてまとめて提出すること。
- ・請負代金額300万円以上の工事について、建設業退職金共済事業部の「建設業退職金共済制度事務処理手引き（令和7年10月改訂版）」に基づき、「掛金収納書提出用台紙」及び「建設業退職金共済制度掛金充当実績総括表」を提出すること。
- ・完成写真（竣工写真）の撮影を外注する場合は、撮影データを三原市が利用することについての承諾書を提出すること。（押印した原本）
- ・製本図面（A3縮小版・二つ折り）として完成図を3部提出すること。
- ・以下の設計図面は、A2判をA3判に縮小している。（縮小率約70.7%）

本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事 (建築主体工事)

図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	縮尺
【意匠図】							
A-00	表紙・図面リスト	-	A-30	西外部階段 B 平面・断面詳細図	1/10, 1/50	A-60	安全通路架設計画図 (参考図)
A-01	改修工事特記仕様書-1	-	A-31	鉄骨外部階段 断面詳細図	1/50	A-61	全体工程表 (参考)
A-02	改修工事特記仕様書-2	-	A-32	改修前後 2階平面詳細図	1/50		
A-03	改修工事特記仕様書-3	-	A-33	改修前 2階展開図	1/50		
A-04	改修工事特記仕様書-4	-	A-34	改修後 2階展開図	1/50		
A-05	改修工事特記仕様書-5	-	A-35	改修前後 1・2階便所平面詳細図	1/50		
A-06	改修工事特記仕様書-6	-	A-36	改修前 1・2階便所展開図	1/50		
A-07	改修工事特記仕様書-7	-	A-37	改修後 1・2階便所展開図	1/50		
A-08	改修工事特記仕様書-8	-	A-38	2階屋内運動場 展開図 (1)	1/100		
A-09	改修工事特記仕様書-9	-	A-39	2階屋内運動場 展開図 (2)	1/100		
A-10	外壁改修工事特記仕様書-1	-	A-40	2階ｽﾀｰｼﾞ 展開図	1/100		
A-11	外壁改修工事特記仕様書-2	-	A-41	2階床伏図・断面詳細図	1/20, 200		
A-12	外壁改修工事特記仕様書-3	-	A-42	1階天井伏図	1/100		
A-13	工事区分表	-	A-43	2階天井伏図	1/100		
A-14	付近見取図・配置図	1/500	A-44	R階天井伏図	1/100		
A-15	外部仕上表 (1)	-	A-45	建具表 (1)	1/100		
A-16	外部仕上表 (2)	-	A-46	建具表 (2)	1/100		
A-17	外部仕上表 (3)	-	A-47	建具表 (3)	1/100		
A-18	内部仕上表 (1)	-	A-48	部分詳細図 (1)	1/10, 20		
A-19	内部仕上表 (2)	-	A-49	部分詳細図 (2)	1/10		
A-20	1階平面図・建具配置図	1/100	A-50	部分詳細図 (3)	1/5, 10, 20, 50		
A-21	2階平面図・建具配置図	1/100	A-51	部分詳細図 (4)	1/5, 10, 20		
A-22	ｷﾞﾔｰﾘｰ平面図・建具配置図	1/100	A-52	屋内運動場ｺｰﾄﾞﾗｲﾝ図	1/100		
A-23	屋根伏図	1/100	A-53	渡り廊下 平面図・天井伏図・屋根伏図・断面図	1/100		
A-24	立面図	1/200	A-54	スロープ 平面図・立面図・断面図	1/30, 100		
A-25	断面図	1/200	A-55	(参考図1) 屋内運動場 体育器具用基礎図・ﾊﾞｽｹｯﾄ台撤去図	1/20, 30, 200		
A-26	断面詳細図 (1)	1/50	A-56	(参考図2) 屋内運動場 防球ｷｯﾄ詳細図	1/50		
A-27	断面詳細図 (2)	1/50	A-57	(参考図3) ﾏﾞｰｼﾞ 器具平面図・断面図	1/30, 50		
A-28	断面詳細図 (3)	1/50	A-58	(参考図4) ﾏﾞｰｼﾞ ｴﾆｯﾄｷﾞﾔｰﾘｰ・ﾋｯﾄ内詳細図	1/20		
A-29	西外部階段 A 平面・断面詳細図	1/50	A-59	仮設計画図 (参考図)	1/500		

事業年度 年度 令和 年月	設計 三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 表紙・図面リスト	(A3版=71%縮小)	図番 A-00
---------------------	-----------------	---	---	---	----	----	----------	---------------------------	--	---------------------	-------------	------------

<p>3 防水改修工事</p> <p>1 降雨等に対する養生方法</p> <p>2 既存防水の処理</p> <p>3 既存下地の処理</p> <p>4 アスファルト防水</p>	<p>※ 改修標準仕様書3.1.3(5) (7)～(9)による。</p> <p>[3.1.3]</p>	<p>(試験方法)</p> <p>(1) 寸法の測定方法 (厚さ) 供試体の周辺から20mm以上内側の四隅を0.05mmまで測定できる測定器で測り、4点の平均値を求めてパネルの厚さとする。 (幅) 供試体を平らな台に置き、供試体のほぼ中央1箇所の幅寸法を、JIS B 7512「鋼製定規」に規定する目量が1mmの1級コンベックスルーラー又は、JIS B 7516「金属性直尺」に規定する目量が1mmの1級直尺を用いて測定する。 (2) 曲げ強度試験は、JIS A 1408「建築物ポード類の曲げ及び衝撃試験方法」による。試験体は3号試験体とする。幅及び厚さは製品寸法とし、支持スパン長さは400mmとする。試験方法は試験体の表面からスパン中央全幅に集中荷重を載荷し、試験体が破壊した時の最大荷重を測定する。同時に破壊時の中央部のたわみ量について、変位計を用いて測定する。測定項目については、凍結融解試験前、同試験100、200、300サイクル完了後の合計項目に亘って測定する。(産業系パネルI類は200サイクルまでとする。)なお、荷重を加える時の平均速度は、1～3分間で予定最大荷重に達する程度とする。 (3) 吸水率試験は、JIS A 5430「繊維強化セメント板」に準じて行う。 (4) 凍結融解試験は、JIS A 1321「建築物の内装材料及び工法の凍結融解試験方法」に準じて行う。 (5) 吸水による長さ変化率試験は、試験体(幅40mm×長さ160mm×素材厚さ)を乾燥機に入れ、その温度を60±3℃に保ち24時間経過した後取り出してJIS K 8123「塩化カルシウム(試験)」に規定する塩化カルシウム又は JIS K 1464「工業用乾燥剤」に規定する品質に適合するシリカゲルで湿潤したデシケータに入れ、常温まで冷却する。次に、試験体の縦線間隔が140mmになるように縦線を刻む。その後、1/150mm以上の精度をもコンパレータを用いて縦線間の長さ(L1)を測定し、それを基準(L1)とする。次に試験体の長さを水平にこぼ立てし、その上端が水平下約30mmとなるように保持して、常温の水中に浸せきする。24時間経過した後、試験体を水中から取り出して湿布で表面に付着した水を拭き取り、再び縦線間の長さ(L2)を測定する。 吸水による長さ変化率(ΔL)は、次式によって求める。 $(\Delta L) = (L2 - L1) / L1 \times 100$ ΔL: 吸水による長さ変化率(%) L1: 乾燥時の縦線間の長さ(mm) L2: 吸水時の縦線間の長さ(mm) (6) 耐凍結融解性能試験は、JIS A 5422「産業系サイディング」の気中凍結水中融解法によって行う。100、200、300各サイクル完了時の曲げ強度測定及び外觀の状態を観察する。(産業系パネルII類は200サイクルまでとする。) 凍結融解操作の試験条件は、試験片の切断小口面をあらかじめシールし、5～35℃の清水中に24時間浸せきさせた後、凍結融解試験装置の槽内に設置し、-20±3℃の気中から約2時間の凍結20±3℃の水中で約1時間の融解を行う約3時間を1サイクルとする。 (7) 耐衝撃性能試験は、JIS A 1408「建築物ポード類の曲げ及び衝撃試験方法」の衝撃性能試験に準じて行う。試験体の支持装置は、記号S2対辺単純支持方法による。試験体の大きさは、4号(長さ400mm、幅300mm)とする。おもりは、鋼製のなす形おもりとし、記号(W1-1000)、質量1.000gとする。試験体を支持装置で支持して、堅固な床に水平に置き、おもりを試験体のほぼ中央の鉛直上1.0mから試験体の弱点部に自然落下させ、裏面に達する穴の「有・無」を確認する。金属複合板の残留変形量は、最大くぼみ深さを測定する。</p>	<p>5 改質アスファルトシート防水</p> <p>屋根露出防水 防水層の種類 [3.4.2、3]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">工法</th> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">断熱材</th> <th colspan="2">仕上塗料</th> <th rowspan="2">高日射反射率防水</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">・MA4S</td> <td rowspan="3">・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-J2</td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3">※製造所の仕様</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・M3AS</td> <td rowspan="2">・AS-T3 ・AS-T4</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">※製造所の仕様</td> </tr> <tr> <td>・POAS</td> <td>・AS-J1 管理・特別教室棟 ・AS-J3</td> <td>※製造所の仕様</td> </tr> <tr> <td>・M3AS1 ・M4AS1 ・POAS1</td> <td>・AS-I-T1 ・AS-I-J1</td> <td></td> <td>JIS A 9521(建築物用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材(種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材2種2号 (厚さ) ※25mm・50mm</td> <td></td> <td></td> <td>※製造所の仕様</td> <td>脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない 防湿層 ・設ける ・設けない</td> </tr> </tbody> </table> <p>改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による ・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※ R種 材料構成による区分 ※ R種 厚さ (mm以上)</p> <p>粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による ・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※ R種 厚さ (mm以上)</p> <p>部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による ・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※ R種 厚さ (mm以上)</p> <p>立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法 ※ アルミニウム製 L=30×15×2.0mm程度</p> <p>絶縁断熱工法の防水湿シート ・設置する ・設置しない</p> <p>6 合成高分子系ルーフィングシート防水 [3.5.2～4] [表3.5.1～3]</p> <p>防水層の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">工法</th> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">断熱材</th> <th colspan="2">仕上塗料</th> <th rowspan="2">高日射反射率防水</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">・POS ・S4S</td> <td rowspan="3">・S-F1</td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3">脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・S-F2 ・S-M1</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">※製造所の仕様</td> </tr> <tr> <td>・S-M2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※製造所の仕様</td> </tr> <tr> <td>・S3S</td> <td>・S-F1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>脱気装置 ・設ける ・設けない</td> </tr> <tr> <td>・MAS</td> <td>・S-M1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>脱気装置 ・設ける ・設けない</td> </tr> <tr> <td>・POS1 ・SSSI ・S4SI ・MAS1</td> <td>・SI-F1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない</td> </tr> <tr> <td>・SI-F2 ・SI-M1</td> <td>・SI-F2 ・SI-M1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>脱気装置 ・設ける ・設けない</td> </tr> <tr> <td>・SI-M2</td> <td>・SI-M2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>脱気装置 ・設ける ・設けない</td> </tr> </tbody> </table> <p>S-F1、S-M1、S-F2、S-M2の仕様 ※ 非歩行用 ・ 軽歩行用 SI-F1、SI-F2、SI-M1及びSI-M2における防湿用フィルムの設置 ※ 設置しない ・ 設置する SI-M2の絶縁用シートの材質 ※ 発泡ポリエチレンシート S-M2及びSI-M2の立上り部の工法 ※ 接着工法(立ち上がり面のシートの厚さ ※ 1.5mm) ・ 機械的固定工法</p>	工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料		高日射反射率防水	備考	種類	使用量	・MA4S	・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-J2						※製造所の仕様	・M3AS	・AS-T3 ・AS-T4			※製造所の仕様	・POAS	・AS-J1 管理・特別教室棟 ・AS-J3	※製造所の仕様	・M3AS1 ・M4AS1 ・POAS1	・AS-I-T1 ・AS-I-J1		JIS A 9521(建築物用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材(種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材2種2号 (厚さ) ※25mm・50mm			※製造所の仕様	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない 防湿層 ・設ける ・設けない	工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料		高日射反射率防水	備考	種類	使用量	・POS ・S4S	・S-F1						脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない	・S-F2 ・S-M1				※製造所の仕様	・S-M2				※製造所の仕様	・S3S	・S-F1						脱気装置 ・設ける ・設けない	・MAS	・S-M1						脱気装置 ・設ける ・設けない	・POS1 ・SSSI ・S4SI ・MAS1	・SI-F1						脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない	・SI-F2 ・SI-M1	・SI-F2 ・SI-M1						脱気装置 ・設ける ・設けない	・SI-M2	・SI-M2						脱気装置 ・設ける ・設けない	<p>7 塗膜防水 [3.6.2、3]</p> <p>防水層の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">工法</th> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th colspan="2">仕上塗料</th> <th rowspan="2">高日射反射率防水</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・POX</td> <td>※X-1 ・X-2 ・X-1H ・X-2H</td> <td></td> <td>※2成分形アクリルウレタン樹脂系 ・ふっ素樹脂系 ・アクリルシリコン樹脂系</td> <td>※主材料の製造所の仕様</td> <td>・適用する ・適用しない</td> <td>脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない</td> </tr> <tr> <td>・L4X</td> <td>※X-1 ・X-2 ・X-1H ・X-2H</td> <td></td> <td>コン樹脂系</td> <td>※主材料の製造所の仕様</td> <td>・適用する ・適用しない</td> <td>脱気装置 ・設ける ○設けない</td> </tr> <tr> <td>・P1Y</td> <td>※Y-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>保護層 ・設ける ・設けない</td> </tr> <tr> <td>・P2Y</td> <td>※Y-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>保護層 ・設ける ・設けない</td> </tr> </tbody> </table> <p>X-1(絶縁工法)の脱気装置の種類 ※ 主材料の製造所の仕様 X-1(絶縁工法)の脱気装置の設置数量 ※ 主材料の製造所の仕様 (個)</p> <p>8 シーリング [3.7.2、3、3.7.7]</p> <p>シーリング改修工法の種類 ○ シーリング充填工法 ・ シーリング再充填工法 ・ 拡幅シーリング再充填工法 ・ プリッジ工法 ・ ボンドブレード張り ・ エッジング材張り シーリング材の種類、施工箇所 下表以外は、改修標準仕様書表3.7.11による</p> <p>9 とい [3.8.2、3]</p> <p>この材質 ・ 配管用銅管 ○ 硬質ポリ塩化ビニル管 ・ ルーフドレン ・ 表面処理鋼板(表面及び裏面の塗膜の種類)</p>	工法	種別	施工箇所	仕上塗料		高日射反射率防水	備考	種類	使用量	・POX	※X-1 ・X-2 ・X-1H ・X-2H		※2成分形アクリルウレタン樹脂系 ・ふっ素樹脂系 ・アクリルシリコン樹脂系	※主材料の製造所の仕様	・適用する ・適用しない	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない	・L4X	※X-1 ・X-2 ・X-1H ・X-2H		コン樹脂系	※主材料の製造所の仕様	・適用する ・適用しない	脱気装置 ・設ける ○設けない	・P1Y	※Y-2					保護層 ・設ける ・設けない	・P2Y	※Y-2					保護層 ・設ける ・設けない
	工法	種別	施工箇所					断熱材	仕上塗料			高日射反射率防水	備考																																																																																																																																		
				種類	使用量																																																																																																																																										
	・MA4S	・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-J2						※製造所の仕様																																																																																																																																							
									・M3AS	・AS-T3 ・AS-T4			※製造所の仕様																																																																																																																																		
														・POAS	・AS-J1 管理・特別教室棟 ・AS-J3	※製造所の仕様																																																																																																																															
	・M3AS1 ・M4AS1 ・POAS1	・AS-I-T1 ・AS-I-J1		JIS A 9521(建築物用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材(種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材2種2号 (厚さ) ※25mm・50mm			※製造所の仕様	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない 防湿層 ・設ける ・設けない																																																																																																																																							
	工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料		高日射反射率防水	備考																																																																																																																																							
					種類	使用量																																																																																																																																									
	・POS ・S4S	・S-F1						脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない																																																																																																																																							
・S-F2 ・S-M1												※製造所の仕様																																																																																																																																			
													・S-M2				※製造所の仕様																																																																																																																														
・S3S	・S-F1						脱気装置 ・設ける ・設けない																																																																																																																																								
・MAS	・S-M1						脱気装置 ・設ける ・設けない																																																																																																																																								
・POS1 ・SSSI ・S4SI ・MAS1	・SI-F1						脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない																																																																																																																																								
・SI-F2 ・SI-M1	・SI-F2 ・SI-M1						脱気装置 ・設ける ・設けない																																																																																																																																								
・SI-M2	・SI-M2						脱気装置 ・設ける ・設けない																																																																																																																																								
工法	種別	施工箇所	仕上塗料		高日射反射率防水	備考																																																																																																																																									
			種類	使用量																																																																																																																																											
・POX	※X-1 ・X-2 ・X-1H ・X-2H		※2成分形アクリルウレタン樹脂系 ・ふっ素樹脂系 ・アクリルシリコン樹脂系	※主材料の製造所の仕様	・適用する ・適用しない	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない																																																																																																																																									
・L4X	※X-1 ・X-2 ・X-1H ・X-2H		コン樹脂系	※主材料の製造所の仕様	・適用する ・適用しない	脱気装置 ・設ける ○設けない																																																																																																																																									
・P1Y	※Y-2					保護層 ・設ける ・設けない																																																																																																																																									
・P2Y	※Y-2					保護層 ・設ける ・設けない																																																																																																																																									
<p>2 大雨等に対する養生方法</p> <p>3 既存防水の処理</p> <p>4 既存下地の処理</p> <p>5 アスファルト防水</p>	<p>※ 改修標準仕様書3.1.3(5) (7)～(9)による。</p> <p>[3.1.3]</p>	<p>(試験方法)</p> <p>(1) 寸法の測定方法 (厚さ) 供試体の周辺から20mm以上内側の四隅を0.05mmまで測定できる測定器で測り、4点の平均値を求めてパネルの厚さとする。 (幅) 供試体を平らな台に置き、供試体のほぼ中央1箇所の幅寸法を、JIS B 7512「鋼製定規」に規定する目量が1mmの1級コンベックスルーラー又は、JIS B 7516「金属性直尺」に規定する目量が1mmの1級直尺を用いて測定する。 (2) 曲げ強度試験は、JIS A 1408「建築物ポード類の曲げ及び衝撃試験方法」による。試験体は3号試験体とする。幅及び厚さは製品寸法とし、支持スパン長さは400mmとする。試験方法は試験体の表面からスパン中央全幅に集中荷重を載荷し、試験体が破壊した時の最大荷重を測定する。同時に破壊時の中央部のたわみ量について、変位計を用いて測定する。測定項目については、凍結融解試験前、同試験100、200、300サイクル完了後の合計項目に亘って測定する。(産業系パネルI類は200サイクルまでとする。)なお、荷重を加える時の平均速度は、1～3分間で予定最大荷重に達する程度とする。 (3) 吸水率試験は、JIS A 5430「繊維強化セメント板」に準じて行う。 (4) 凍結融解試験は、JIS A 1321「建築物の内装材料及び工法の凍結融解試験方法」に準じて行う。 (5) 吸水による長さ変化率試験は、試験体(幅40mm×長さ160mm×素材厚さ)を乾燥機に入れ、その温度を60±3℃に保ち24時間経過した後取り出してJIS K 8123「塩化カルシウム(試験)」に規定する塩化カルシウム又は JIS K 1464「工業用乾燥剤」に規定する品質に適合するシリカゲルで湿潤したデシケータに入れ、常温まで冷却する。次に、試験体の縦線間隔が140mmになるように縦線を刻む。その後、1/150mm以上の精度をもコンパレータを用いて縦線間の長さ(L1)を測定し、それを基準(L1)とする。次に試験体の長さを水平にこぼ立てし、その上端が水平下約30mmとなるように保持して、常温の水中に浸せきする。24時間経過した後、試験体を水中から取り出して湿布で表面に付着した水を拭き取り、再び縦線間の長さ(L2)を測定する。 吸水による長さ変化率(ΔL)は、次式によって求める。 $(\Delta L) = (L2 - L1) / L1 \times 100$ ΔL: 吸水による長さ変化率(%) L1: 乾燥時の縦線間の長さ(mm) L2: 吸水時の縦線間の長さ(mm) (6) 耐凍結融解性能試験は、JIS A 5422「産業系サイディング」の気中凍結水中融解法によって行う。100、200、300各サイクル完了時の曲げ強度測定及び外觀の状態を観察する。(産業系パネルII類は200サイクルまでとする。) 凍結融解操作の試験条件は、試験片の切断小口面をあらかじめシールし、5～35℃の清水中に24時間浸せきさせた後、凍結融解試験装置の槽内に設置し、-20±3℃の気中から約2時間の凍結20±3℃の水中で約1時間の融解を行う約3時間を1サイクルとする。 (7) 耐衝撃性能試験は、JIS A 1408「建築物ポード類の曲げ及び衝撃試験方法」の衝撃性能試験に準じて行う。試験体の支持装置は、記号S2対辺単純支持方法による。試験体の大きさは、4号(長さ400mm、幅300mm)とする。おもりは、鋼製のなす形おもりとし、記号(W1-1000)、質量1.000gとする。試験体を支持装置で支持して、堅固な床に水平に置き、おもりを試験体のほぼ中央の鉛直上1.0mから試験体の弱点部に自然落下させ、裏面に達する穴の「有・無」を確認する。金属複合板の残留変形量は、最大くぼみ深さを測定する。</p>	<p>6 合成高分子系ルーフィングシート防水 [3.5.2～4] [表3.5.1～3]</p> <p>防水層の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">工法</th> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">断熱材</th> <th colspan="2">仕上塗料</th> <th rowspan="2">高日射反射率防水</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">・MAC</td> <td rowspan="3">・C-1 ※C-2 ・C-3 ・C-4</td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3">※製造所の仕様</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・MD</td> <td rowspan="2">・D-1</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない</td> </tr> <tr> <td>・POD</td> <td>※D-2</td> <td></td> <td></td> <td>※製造所の仕様</td> </tr> <tr> <td>・POD1 ・MD1 ・M4D1</td> <td>・D1-1 ※D1-2</td> <td></td> <td>JIS A 9521(建築物用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材(種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材2種2号 (厚さ) ※25・50</td> <td></td> <td></td> <td>※製造所の仕様</td> <td>脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない</td> </tr> </tbody> </table> <p>改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書表3.3.7から表3.3.9による ・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※ R種 材料構成による区分 ※ R種 厚さ (mm以上)</p> <p>部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書表3.3.8から表3.3.9による ・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※ R種 材料構成による区分 ※ R種 厚さ (mm以上)</p> <p>脱気装置の種類 ※ アスファルトルーフィング類の製造所の指定 脱気装置の設置数量 ※ アスファルトルーフィング類の製造所の指定 (個)</p> <p>屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフトレンドリ及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 ※ 図示</p> <p>屋内防水</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> <th>保護層</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・P1E</td> <td>・E-1</td> <td></td> <td>・設ける</td> </tr> <tr> <td>・P2E</td> <td>※E-2</td> <td></td> <td>・設けない</td> </tr> </tbody> </table> <p>E-1の場合で工程3を行う部位(※貯水槽、浴槽等常時水に接する部位) 保護層 ・ 設ける(※図示) ・ 設けない</p> <p>立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法 ※ アルミニウム製 L=30×15×2.0mm程度 屋上排水溝 ・ 図示</p>	工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料		高日射反射率防水	備考	種類	使用量	・MAC	・C-1 ※C-2 ・C-3 ・C-4						※製造所の仕様	・MD	・D-1			脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない	・POD	※D-2			※製造所の仕様	・POD1 ・MD1 ・M4D1	・D1-1 ※D1-2		JIS A 9521(建築物用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材(種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材2種2号 (厚さ) ※25・50			※製造所の仕様	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない	工法	種別	施工箇所	保護層	・P1E	・E-1		・設ける	・P2E	※E-2		・設けない	<p>7 塗膜防水 [3.6.2、3]</p> <p>防水層の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">工法</th> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th colspan="2">仕上塗料</th> <th rowspan="2">高日射反射率防水</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・POX</td> <td>※X-1 ・X-2 ・X-1H ・X-2H</td> <td></td> <td>※2成分形アクリルウレタン樹脂系 ・ふっ素樹脂系 ・アクリルシリコン樹脂系</td> <td>※主材料の製造所の仕様</td> <td>・適用する ・適用しない</td> <td>脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない</td> </tr> <tr> <td>・L4X</td> <td>※X-1 ・X-2 ・X-1H ・X-2H</td> <td></td> <td>コン樹脂系</td> <td>※主材料の製造所の仕様</td> <td>・適用する ・適用しない</td> <td>脱気装置 ・設ける ○設けない</td> </tr> <tr> <td>・P1Y</td> <td>※Y-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>保護層 ・設ける ・設けない</td> </tr> <tr> <td>・P2Y</td> <td>※Y-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>保護層 ・設ける ・設けない</td> </tr> </tbody> </table> <p>X-1(絶縁工法)の脱気装置の種類 ※ 主材料の製造所の仕様 X-1(絶縁工法)の脱気装置の設置数量 ※ 主材料の製造所の仕様 (個)</p> <p>8 シーリング [3.7.2、3、3.7.7]</p> <p>シーリング改修工法の種類 ○ シーリング充填工法 ・ シーリング再充填工法 ・ 拡幅シーリング再充填工法 ・ プリッジ工法 ・ ボンドブレード張り ・ エッジング材張り シーリング材の種類、施工箇所 下表以外は、改修標準仕様書表3.7.11による</p> <p>9 とい [3.8.2、3]</p> <p>この材質 ・ 配管用銅管 ○ 硬質ポリ塩化ビニル管 ・ ルーフドレン ・ 表面処理鋼板(表面及び裏面の塗膜の種類)</p>	工法	種別	施工箇所	仕上塗料		高日射反射率防水	備考	種類	使用量	・POX	※X-1 ・X-2 ・X-1H ・X-2H		※2成分形アクリルウレタン樹脂系 ・ふっ素樹脂系 ・アクリルシリコン樹脂系	※主材料の製造所の仕様	・適用する ・適用しない	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない	・L4X	※X-1 ・X-2 ・X-1H ・X-2H		コン樹脂系	※主材料の製造所の仕様	・適用する ・適用しない	脱気装置 ・設ける ○設けない	・P1Y	※Y-2					保護層 ・設ける ・設けない	・P2Y	※Y-2					保護層 ・設ける ・設けない																																																						
工法	種別	施工箇所	断熱材					仕上塗料				高日射反射率防水	備考																																																																																																																																		
				種類	使用量																																																																																																																																										
・MAC	・C-1 ※C-2 ・C-3 ・C-4						※製造所の仕様																																																																																																																																								
								・MD	・D-1			脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない																																																																																																																																			
													・POD	※D-2			※製造所の仕様																																																																																																																														
・POD1 ・MD1 ・M4D1	・D1-1 ※D1-2		JIS A 9521(建築物用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材(種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材2種2号 (厚さ) ※25・50			※製造所の仕様	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない																																																																																																																																								
工法	種別	施工箇所	保護層																																																																																																																																												
・P1E	・E-1		・設ける																																																																																																																																												
・P2E	※E-2		・設けない																																																																																																																																												
工法	種別	施工箇所	仕上塗料		高日射反射率防水	備考																																																																																																																																									
			種類	使用量																																																																																																																																											
・POX	※X-1 ・X-2 ・X-1H ・X-2H		※2成分形アクリルウレタン樹脂系 ・ふっ素樹脂系 ・アクリルシリコン樹脂系	※主材料の製造所の仕様	・適用する ・適用しない	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない																																																																																																																																									
・L4X	※X-1 ・X-2 ・X-1H ・X-2H		コン樹脂系	※主材料の製造所の仕様	・適用する ・適用しない	脱気装置 ・設ける ○設けない																																																																																																																																									
・P1Y	※Y-2					保護層 ・設ける ・設けない																																																																																																																																									
・P2Y	※Y-2					保護層 ・設ける ・設けない																																																																																																																																									

10	アルミニウム製窓木	<p>といたけ物及び足金物の材質、形状及び取付間隔 ※ 改修標準仕様書表3.8.2により、溶融亜鉛めっきを行ったもの</p> <p>多量地域 適用する 適用しない 防露材のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆</p> <p>既存のその他の撤去及び降雨等に対する養生方法 ※ 図示 銅管製以外の防露巻き ※ 改修標準仕様書表3.8.4による たてい受金物の取付け ※ 図示</p> <p>種類 ・ オープン形式 (・ 押出250形 ・ 押出300形 ・ 押出350形) ・ 板材折曲げ形 (・ オープン形式 ・ シール形式) 本体幅 () mm 板厚 (※ 2.0mm) mm 表面処理 種別 () 種 色合等 ・ 標準色 () ・ 特注色 () 既存窓木の撤去 ・ 行う (範囲 ※ 図示) 行わない</p> <p>下地補修の工法 ※ 図示 板材折曲げ形の窓木の取付け方法 ※ 図示 窓木の固定金具の工法等 1章 17 適用区分による風圧力の (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法</p>	[3. 9. 2、3]
----	-----------	---	---------------

防水改修フロー及び数量
・ 既存保護層の補修及び処置



シーリング改修		シーリング再充填工法	
mm × mm	mm × mm	mm × mm	mm × mm
0m	0m	0m	0m

①	ポリマーセメントモルタル	(品質・性能) [4. 2. 2]																		
	<table border="1"> <tr><th>項目</th><th>品質・性能</th></tr> <tr><td>だれ</td><td>下がり量 (mm) 5以内</td></tr> <tr><td></td><td>表面の状態 ひび割れの発生が無いこと。</td></tr> <tr><td>曲げ強さ (N/mm2)</td><td>6.0以上</td></tr> <tr><td>圧縮強さ (N/mm2)</td><td>20.0以上</td></tr> <tr><td>接着強さ (N/mm2)</td><td>標準条件 1.0以上</td></tr> <tr><td></td><td>特殊条件 湿潤時 0.8以上</td></tr> <tr><td></td><td>低温時 0.5以上</td></tr> <tr><td>透水性</td><td>表面のぬれ、水滴の付着が無いこと。</td></tr> <tr><td>その他</td><td>1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルジョンは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。</td></tr> </table>	項目	品質・性能	だれ	下がり量 (mm) 5以内		表面の状態 ひび割れの発生が無いこと。	曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上	圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上	接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上		特殊条件 湿潤時 0.8以上		低温時 0.5以上	透水性	表面のぬれ、水滴の付着が無いこと。	その他
項目	品質・性能																			
だれ	下がり量 (mm) 5以内																			
	表面の状態 ひび割れの発生が無いこと。																			
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上																			
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上																			
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上																			
	特殊条件 湿潤時 0.8以上																			
	低温時 0.5以上																			
透水性	表面のぬれ、水滴の付着が無いこと。																			
その他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルジョンは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。																			

②	ポリマーセメントスラリー	(品質・性能) [4. 2. 2]										
	<table border="1"> <tr><th>広がり速度 (cm/s)</th><th>長さ変化率 (収縮) (%)</th><th>引張接着性 (N/mm2)</th><th>曲げ性能 (材齢28日) (N/mm2)</th><th>吸水性 (%)</th><th>耐久性 (劣化曲げ強さ) (N/mm2)</th></tr> <tr><td>3以上</td><td>3以下</td><td>0.5以上</td><td>5.0以上</td><td>15以下</td><td>5.0以上</td></tr> </table> <p>保水係数 0.35~0.55 粘調係数 0.50~1.00</p>	広がり速度 (cm/s)	長さ変化率 (収縮) (%)	引張接着性 (N/mm2)	曲げ性能 (材齢28日) (N/mm2)	吸水性 (%)	耐久性 (劣化曲げ強さ) (N/mm2)	3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15以下
広がり速度 (cm/s)	長さ変化率 (収縮) (%)	引張接着性 (N/mm2)	曲げ性能 (材齢28日) (N/mm2)	吸水性 (%)	耐久性 (劣化曲げ強さ) (N/mm2)							
3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15以下	5.0以上							

③	吸水調整材	改修標準仕様書表4.3.2による [4. 3. 5]
	既調合モルタル	モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。 [4. 3. 5]

④	既調合モルタル	(品質・性能)																		
	<table border="1"> <tr><th>項目</th><th>品質・性能</th><th>項目</th><th>品質・性能</th></tr> <tr><td>保水率</td><td>70.0%以上</td><td>長さ変化率</td><td>0.20%以下</td></tr> <tr><td>単位容積質量</td><td>1.80kg/g/L以上</td><td>曲げ強さ</td><td>4.0N/mm2以上</td></tr> <tr><td>接着強さ</td><td>標準時 0.60N/mm2以上</td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>湿冷繰り返し後 0.40N/mm2以上</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(試験方法) (1) 試料の調製 製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用いる。 練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。 (2) 保水率の試験方法 JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス (縦150mm、横150mm、厚さ5mm) の上にJIS P3801「ろ紙 (化学分析用)」に規定する5Aろ紙 (直径11cm) をのせ、その中央部に真ちゅう製リングを置く (内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm) を設置し、(1) で調製した試料を平滑に詰込む。 その後、直ちにリングを上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がり最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さsをギスを用いて、1mmの単位まで測定する。 試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。 保水率=50÷平均値×100 (注) 50: リング型わくの直径 mm (3) 単位容積質量の試験方法 JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。 (4) 接着強さ (標準時) の試験方法 イ) 適用タイルが「モザイクタイル」の場合 (試験体の作製) JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿を行い直ちに(1) で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付けする。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押し出し又はプレス成形による施すの150角ユニットタイル</p>	項目	品質・性能	項目	品質・性能	保水率	70.0%以上	長さ変化率	0.20%以下	単位容積質量	1.80kg/g/L以上	曲げ強さ	4.0N/mm2以上	接着強さ	標準時 0.60N/mm2以上				湿冷繰り返し後 0.40N/mm2以上	
項目	品質・性能	項目	品質・性能																	
保水率	70.0%以上	長さ変化率	0.20%以下																	
単位容積質量	1.80kg/g/L以上	曲げ強さ	4.0N/mm2以上																	
接着強さ	標準時 0.60N/mm2以上																			
	湿冷繰り返し後 0.40N/mm2以上																			

4	外壁複合改修構工法	<p>(外のり寸法約300mm×300mm) を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿気養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) JIS A 6909「建築用仕上塗材」の7.10付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に連するまで切り込みを入れ、樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さエポキシ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。 (全てが0.6N/mm2以上を確保していること) また、試験後の部材破断位置の表示を下記の中から選び明記する。 T : タイルの母材破断 TM : 既調合モルタルとタイルの界面破断 M : 既調合モルタルの母材破断 MG : 既調合モルタルと下地板の界面破断 G : 下地板の母材破断</p> <p>ロ) 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合 (試験体の作製) JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿を行い直ちに(1) で調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付けする。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押し出し又はプレス成形による施すの「小口タイル108mm×60mm×12mm) を4枚2列、計8枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿気養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) 「モザイクタイル」の場合と同様に行う。</p> <p>(5) 接着強さ (湿冷繰返し) の試験方法 (試験体の作製) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々(4) 接着強さ (標準時) の試験方法の「試験体」と同様とする。 (湿冷繰返し試験) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」に規定する7.11湿冷繰返し試験に準じて行う。 試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに-20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加熱し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及びぬれの有無を目視によって調べる。 (湿冷繰返し後の接着強さ試験方法) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々湿冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。(全てが0.4N/mm2以上を確保していること)</p> <p>(6) 長さ変化率の試験方法 JIS A6203「セメント混和用ポリマーディスパーゼーション及び再乳化粉末樹脂」9.9 長さ変化率に準ずる。</p> <p>(7) 曲げ強さの試験方法 JIS A6916「建築用下地調整塗材」の7.11 曲げ強さ試験に準ずる。 試験室の状態 : 試験室は温度20±2℃、湿度65±10%とする。</p>	[4. 1. 4] [4. 2. 4、5、6、7]
---	-----------	--	-------------------------------

①	ひび割れ部改修工法	※ 樹脂注入工法 [4. 1. 4] [4. 2. 4、5、6、7]																										
	<table border="1"> <tr><th>工法の種類</th><th>ひび割れ幅 (mm)</th><th>注入間隔 (mm)</th><th>注入量 (mL/㎡)</th></tr> <tr><td>※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>※40</td><td>※40</td></tr> <tr><td></td><td>0.3以上0.5未満</td><td>200~300</td><td>※40</td></tr> <tr><td></td><td>0.5以上1.0未満</td><td>※70</td><td>※70</td></tr> <tr><td>・ 手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>50~100</td><td>※40</td></tr> <tr><td>・ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満</td><td>100~200</td><td>※70</td></tr> <tr><td></td><td>0.5以上1.0未満</td><td>150~250</td><td>※130</td></tr> </table> <p>注入状況の確認方法 ※ 注入量により確認 ・ コアの採取を行う コア採取の場合の個数 ※ 長さ500mmごと及びその端数につき1個 コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示 ・ Uカットシール材充填工法 ・ シーリング材 充填材料 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ・ シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない ※ 可とう性エポキシ樹脂 ・ シール工法 ※ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂</p>	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入間隔 (mm)	注入量 (mL/㎡)	※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	※40	※40		0.3以上0.5未満	200~300	※40		0.5以上1.0未満	※70	※70	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40	・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100~200	※70		0.5以上1.0未満	150~250
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入間隔 (mm)	注入量 (mL/㎡)																									
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	※40	※40																									
	0.3以上0.5未満	200~300	※40																									
	0.5以上1.0未満	※70	※70																									
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40																									
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100~200	※70																									
	0.5以上1.0未満	150~250	※130																									

②	欠損部改修工法	※ 充填工法 [4. 1. 4] [4. 2. 4、8]
	<p>・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル</p>	

1	ひび割れ部改修工法	※ モルタルを撤去しないで改修 [4. 1. 4] [4. 3. 5、6、7、8]																										
	<table border="1"> <tr><th>工法の種類</th><th>ひび割れ幅 (mm)</th><th>注入間隔 (mm)</th><th>注入量 (mL/㎡)</th></tr> <tr><td>※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>※40</td><td>※40</td></tr> <tr><td></td><td>0.3以上0.5未満</td><td>200~300</td><td>※40</td></tr> <tr><td></td><td>0.5以上1.0未満</td><td>※70</td><td>※70</td></tr> <tr><td>・ 手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>50~100</td><td>※40</td></tr> <tr><td>・ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満</td><td>100~200</td><td>※70</td></tr> <tr><td></td><td>0.5以上1.0未満</td><td>150~250</td><td>※130</td></tr> </table> <p>注入状況の確認方法 ※ 注入量により確認 ・ コアの採取を行う コア採取の場合の個数 ※ 長さ500mmごと及びその端数につき1個 コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示 ・ Uカットシール材充填工法 ・ シーリング材 充填材料の種類 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ・ シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない ※ 可とう性エポキシ樹脂 ・ シール工法 ※ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂</p>	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入間隔 (mm)	注入量 (mL/㎡)	※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	※40	※40		0.3以上0.5未満	200~300	※40		0.5以上1.0未満	※70	※70	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40	・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100~200	※70		0.5以上1.0未満	150~250
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入間隔 (mm)	注入量 (mL/㎡)																									
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	※40	※40																									
	0.3以上0.5未満	200~300	※40																									
	0.5以上1.0未満	※70	※70																									
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40																									
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100~200	※70																									
	0.5以上1.0未満	150~250	※130																									

2	欠損部改修工法	※ 充填工法 (欠損部の面積が0.25m ² /箇所程度以下の場合) [4. 1. 4] [4. 3. 9、10]
	<p>充填材の種類 ※ ポリマーセメントモルタル ・ エポキシ樹脂モルタル</p> <p>モルタル塗替工法 モルタルの材料 ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料 既製目地材 ・ 使用する (形状) 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※ 図示</p>	

3	浮き部改修工法	※ モルタルを撤去しないで改修 [4. 1. 4] [4. 3. 11~16]
	<p>・ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</p> <p>※ 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</p>	

4	外壁複合改修構工法	平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする
---	-----------	---

4	外壁複合改修構工法	<p>アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの 注入口付アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm程度</p> <p>・ モルタルを撤去して改修 モルタルの材料 ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料 ・ 充填工法 ・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル ・ モルタル塗替工法 既製目地材 ・ 使用する (形状) 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※ 図示</p>	[4. 1. 4] [4. 5. 5、6]
---	-----------	--	---------------------------

1	タイルの形状、寸法等	<p>タイル部分張替工法及びタイル張替工法用接着剤の種類 [4. 4. 5、8] ・ JIS A 5571による一液反応硬化型の変成シリコーン樹脂系</p> <p>タイルの形状、寸法等</p> <table border="1"> <tr><th>施工箇所</th><th>形状/寸法 (mm)</th><th>再生材料の適用</th><th>吸水率による区分 (うわすり)</th><th>吸物</th><th>色</th><th>耐凍害性</th><th>耐滑</th><th>備考</th></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr> </table>	施工箇所	形状/寸法 (mm)	再生材料の適用	吸水率による区分 (うわすり)	吸物	色	耐凍害性	耐滑	備考				1	2	3	4	5					・	・	・	・	・	・				・	・	・	・	・	・				・	・	・	・	・	・
施工箇所	形状/寸法 (mm)	再生材料の適用	吸水率による区分 (うわすり)	吸物	色	耐凍害性	耐滑	備考																																							
			1	2	3	4	5																																								
			・	・	・	・	・	・																																							
			・	・	・	・	・	・																																							
			・	・	・	・	・	・																																							

2	ひび割れ部改修工法	<p>※ タイルを撤去して改修 下地モルタルまで撤去後のコンクリート部分の改修は、4-2 外壁改修工事 (コンクリート打放し仕上げ外壁) によるモルタルを存置した場合のモルタル部分の改修は、4-3 外壁改修工事 (モルタル塗仕上げ外壁) による</p> <p>タイル撤去後のタイル欠損部の補修は、3 欠損部改修工法による ・ タイルを撤去しないで改修</p> <p>※ 樹脂注入工法 工法の種類 [4. 1. 4] [4. 5. 5、6] ※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 注入工法 ・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ・ 機械式エポキシ樹脂注入工法</p>	[4. 1. 4] [4. 5. 5、6]
---	-----------	--	---------------------------

3	欠損部改修工法	<p>※ タイル部分張替工法 (欠損部の面積が0.25m²/箇所以下の場合及び下地モルタルがある場合) 接着剤の種類 ・ ポリマーセメントモルタル ・ 外装タイル接着剤類の接着剤 ・ タイル張替工法 (下地モルタルを撤去する場合) 貼付けモルタルの材料 ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置 ※ 改修標準仕様書表4.4.2による 外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整材塗りの接着力試験 ・ 行う ・ 行わない ・ セメントモルタルによるタイル (セラミックタイル) 張り ・ タイル張りの工法 ・ 外装タイル (・ 密着張り ・ 改良圧着張り ・ 改良積上げ張り) ・ ユニットタイル (・ マスク張り ・ モザイクタイル張り) ・ 有機系接着剤によるタイル (セラミックタイル) 張り 目地詰め ※ 行う ・ 行わない 下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理 ※ 目置し工法 シーリング材の種類 打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地 ※ ポリウレタン系 伸縮調整目地その他の目地 ※ 変成シリコーン系 [4. 1. 4] [4. 5. 9~15]</p>
---	---------	---

4	浮き部改修工法	<p>・ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</p> <p>※ 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ 注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法 ・ 注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ 注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</p> <p>アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの 注入口付アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm程度</p>
---	---------	---

5	目地改修工法	<p>タイル部分張替工法 接着剤の種類 ・ ポリマーセメントモルタル ・ 外装タイル接着剤類の接着剤 ・ タイル張替工法 (下地モルタルを撤去する場合) 貼付けモルタルの材料 ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 位置 ※ 改修標準仕様書表4.5.11による 外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整材塗りの接着力試験 ・ 行う ・ 行わない ・ セメントモルタルによるタイル (セラミックタイル) 張り ・ タイル張りの工法 ・ 外装タイル (・ 密着張り ・ 改良圧着張り ・ 改良積上げ張り) ・ ユニットタイル (・ マスク張り ・ モザイクタイル張り) ・ 有機系接着剤によるタイル (セラミックタイル) 張り 下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理 ※ 目置し工法 シーリング材の種類 打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地 ※ ポリウレタン系 伸縮調整目地その他の目地 ※ 変成シリコーン系 [4. 1. 4] [4. 5. 5、6、16]</p>
---	--------	---

6	外壁複合改修構工法	<p>・ 目地ひび割れ部改修工法 ・ 伸縮調整目地改修工法 伸縮調整目地の位置及び寸法 ※ 図示</p> <p>平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする</p>
---	-----------	---

①	既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整	<p>工法 [4. 5. 4] 処理範囲 [4. 5. 4] 下地調整の補修 [4. 5. 4] 下地調整の補修 [4. 5. 4] 下地調整の補修 [4. 5. 4]</p>
---	---------------------	--

②	下地調整材	※ 下地調整材 ・ ポリマーセメントモルタル [4. 5. 2]
---	-------	------------------------------------

③	仕上塗材仕上げ	<p>建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ 仕上塗材の種類 仕上塗材の種類 ※ 薄付け仕上塗材 呼び名 仕上げの形状 工法 防火材料 ※ 外装薄塗材E ※ 可とう形外装薄塗材E ちゆず肌 ローラー</p>
---	---------	---

④	複層仕上塗材	<p>呼び名 仕上げの形状 工法 上塗り材の種類 耐候性 防火材料 ※ 複層塗材E 凹凸状 吹付け 溶媒 ※ 水系 ※ 耐候性3種 ※ 防水複層塗材E 凸凹状 吹付け 樹脂 ※ アクリル系 外観 ※ つやあり</p>
---	--------	--

4	マスチック塗材塗り	<p>種別 ・ A種 ・ B種 [4. 1. 5] [4. 6. 2] [表 4. 6. 1]</p>
---	-----------	---

5	外壁用塗膜防水材塗り	<p>仕上げの形状 工法 [4. 1. 5] [4. 7. 2、3] [表 4. 7. 1] 仕上塗材の耐候性 ・ 耐候性1種 ・ 耐候性2種 ・ 耐候性3種 下地準動繊絨材 ・ 適用する ・ 適用しない 模様材の種類 仕上塗料の種類</p>
---	------------	---

Table with 22 rows and multiple columns. Columns include: 22 合成樹脂塗床, 23 防じん用塗床, 24 フローリング張り, 25 畳敷き, 26 セッコウボードその他ボード及び合板張り. Each row contains detailed specifications for construction materials and methods.

Table with 27 rows and multiple columns. Columns include: 27 壁紙張り, 28 モルタル塗り, 29 タイル張り, 30 セルフレベリング材塗り, 31 塗装改修工事. Each row contains detailed specifications for wall papering, plastering, tiling, leveling, and painting.

Table with 32 rows and multiple columns. Columns include: 32 養生, 33 断熱材, 34 断熱材の施工, 35 断熱材の施工, 36 断熱材の施工, 37 断熱材の施工, 38 断熱材の施工, 39 断熱材の施工, 40 断熱材の施工, 41 断熱材の施工, 42 断熱材の施工. Each row contains detailed specifications for insulation materials and construction methods.

Table with 43 rows and multiple columns. Columns include: 43 養生, 44 断熱材, 45 断熱材の施工, 46 断熱材の施工, 47 断熱材の施工, 48 断熱材の施工, 49 断熱材の施工, 50 断熱材の施工, 51 断熱材の施工, 52 断熱材の施工, 53 断熱材の施工, 54 断熱材の施工, 55 断熱材の施工, 56 断熱材の施工, 57 断熱材の施工, 58 断熱材の施工, 59 断熱材の施工, 60 断熱材の施工, 61 断熱材の施工, 62 断熱材の施工, 63 断熱材の施工, 64 断熱材の施工, 65 断熱材の施工, 66 断熱材の施工, 67 断熱材の施工, 68 断熱材の施工, 69 断熱材の施工, 70 断熱材の施工, 71 断熱材の施工, 72 断熱材の施工, 73 断熱材の施工, 74 断熱材の施工, 75 断熱材の施工, 76 断熱材の施工, 77 断熱材の施工, 78 断熱材の施工, 79 断熱材の施工, 80 断熱材の施工, 81 断熱材の施工, 82 断熱材の施工, 83 断熱材の施工, 84 断熱材の施工, 85 断熱材の施工, 86 断熱材の施工, 87 断熱材の施工, 88 断熱材の施工, 89 断熱材の施工, 90 断熱材の施工, 91 断熱材の施工, 92 断熱材の施工, 93 断熱材の施工, 94 断熱材の施工, 95 断熱材の施工, 96 断熱材の施工, 97 断熱材の施工, 98 断熱材の施工, 99 断熱材の施工, 100 断熱材の施工. Each row contains detailed specifications for insulation materials and construction methods.

2	外断熱改修工事	測定方法 ○ 自動測定器による測定	3	断熱・防露改修工事	フェノールフォーム断熱材又は保温材、接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ・断熱材打込み工法	[9. 3. 2~4]	10	1	フリーアクセスフロア	(20. 2. 2)	構造	・ 置敷式	・ 支柱調整式
		測定名称								測定方法	所定荷重	※ 3,000N ・ 5,000N	※ 3,000N ・ 5,000N
		測定名称	測定方法	種類		厚さ (mm)	施工箇所			耐震性能	・ 1.0	・ 0.6	○ 0.6
		測定 ()	測定 ()	・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材		・ 25	・			パネル寸法 (mm)	500×500		
		測定 ()	測定 ()	※ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキ層なし)		※ 2種 b A	※ 25	※ 外壁		高さ (mm)	50・100		
		測定 ()	測定 ()			・ 3種 b A	※ 25	※ スラブ		表面仕上材	※ タイルカーベット ・ 帯電防止床タイル ○ 帯電防止床タイル		
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			施工箇所	※ 図示		
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			寸法精度	※ 標準仕様書20.2.2(2)(ア)~(イ)による		
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			スロープ及びボーダー ※ 製造所の仕様による ・ 図示			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			配線用取り出しパネル フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ※ 製造所の仕様による ・ 20~30パーセント			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			配線用取り出し開口 ※ 製造所の仕様による ・ パネル枚につき、40mm×80mm程度の開口1箇所以上			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			空調用吹き出し (吸い込み) パネル ・ なし ・ あり (形式、施工箇所: ※ 図示 ・)			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			(性能) (1) 耐荷重性能 変形5.0mm以下 残留変形3.0mm以下 (2) 耐衝撃性能 残留変形3.0mm以下及び損傷がないこと (3) ローリングロード性能 所定荷重1,000N (5,000Nの積載荷重は1,000N以上で任意) による繰り返し試験後、 残留変形3.0mm以下 (4) 耐震性能			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			イ) 固定台試験による耐震性能			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			項目			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			性能			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			①ベースプレート又はアンカーが耐力に達したとき又はコンクリート接着面が剥離したとき			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			②上記①以外の部分に耐力に達したとき			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			③適用地震時水平力を加力した時の支柱頂部の変位			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			<適用地震時水平力>			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			3,000N 0.6タイプ 支柱一本が負担する床加重 { (m2当り自重+3,000N) /m2当りの支柱本数} × 0.6			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			3,000N 1.0タイプ 支柱一本が負担する床加重 { (m2当り自重+3,000N) /m2当りの支柱本数} × 1.0			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			5,000N 0.6タイプ 支柱一本が負担する床加重 { (m2当り自重+5,000N) /m2当りの支柱本数} × 0.6			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			5,000N 1.0タイプ 支柱一本が負担する床加重 { (m2当り自重+5,000N) /m2当りの支柱本数} × 1.0			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			ロ) 振動台試験による耐震性能 (設計床高さ≤300mmの場合のみ) 振動台試験において、パネルの脱落や使用上支障をきたす損傷、せり上がり、隙間及び水平移動がない。			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			(5) 耐燃性能 建築基準法第2条第9号の規定に基づく不燃材料又は燃焼終了後の残炭時間が40秒			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			(6) 帯電防止性能評価値 (U) 0.6以上			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			(7) 感電防止性能 漏えい抵抗(R) ≥ 1 × 10 ⁶ Ω			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			(8) 歩行感 通常の歩行において空音や音がたつきなく、歩行感に違和感がない			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			(9) メンテナンス性 交換が必要な部品については交換できるような設計されている。			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			(試験方法)			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			①耐震性能 (1) 設計床高さ≤300mmの場合 試験体ユニット1000mm×2500mm程度 所定の重りの質量 3000N・200k 5000N: 350k 加搬 0.6: 設定加速度600cm/S ² 1.0: 設定加速度1000cm/S ²			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			②300mm<設計床高さ≤600mmの場合 ①固定台による耐震性能試験 イ、支柱調整式・支柱固定タイプの全てのタイプ共、下記の試験方法-1又は、試験方法-2による。 ロ、原則として、試験方法-1はパネル単体設置 (Aタイプ) に適用し、試験方法-2はパネル連結設置 (Bタイプ) に適用するものとする。			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			②試験方法-1 イ、試験は、コンクリート (JIS A 5371)ブレキャスト無筋コンクリート製品 種類: N300) に接着した支柱の頂部に対し、水平方向に適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。 ロ、加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。試験体数は、3個とする。			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			③試験方法-2 イ、試験は、コンクリート (JIS A 5371)ブレキャスト無筋コンクリート製品 種類: N300) に接着した数ユニットの支柱の頂部に対し、水平方向に数ユニット分相当の、適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。 ロ、最終的に水平力を支持する支柱の本数で除した値を、支柱1本当たりの水平力とする。又、800mm×800mmに荷重板1,900N (3,000N/1m ² 相当) を1箇所設ける。試験体数は、1セットとする。			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			④零点補正及び測定記録 試験体と試験機の隙間等を除去するため、始めに適用地震時水平力の1/2程度の水平力を加力した後、速やかに除荷して“0”にした状態を零点とする。又、水平力による各測定点の荷重及び変形曲線を測定し記録する。			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			3) 共通事項 試験に使用する表面仕上げ材 種類: タイルカーベット 繊維素材: ナイロン100 % バイル携帯: ループバイル バイル長: 3.0mm~4.0mm バッキング素材: 塩化ビニル樹脂 厚厚: 6.0mm~7.0mm 単位質量: 4.0k/m ² ~6.0k/m ² 人体耐電圧: 2KV以下			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			⑤既存外壁の処置 既存外壁仕上材の撤去 ・ あり ・ なし 下地面の清掃 ・ 行う ・ 行わない 欠損部がある場合の改修工法 ※ 4章外壁改修工事による			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			⑥工法 1章適用区分による風圧力 (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法 不陸等の下地調整 ・ 図示 通気層の有無 ・ あり (mm) ・ なし 断熱材、外装材の施工及び外装材の外壁への取付け ※ 断熱材及び外装材製造所の仕様による			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			⑦石綿含有建材の処理 ○ 石綿含有吹付け材の除去 除去対象範囲 ※ 図示 除去工法 ※ 改修標準仕様書9.1.3(2)(ア)による 除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置 ※ 湿潤化 ・ 固形化 除去した石綿含有吹付け材等の処分 ・ 埋立処分 (管理型最終処分場) ・ 中間処理 (溶融施設又は無害化処理施設)			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			○ 石綿含有保温材等の除去 除去対象範囲 ※ 図示 除去工法 ※ 原形のまま、手ばらし ・ 破砕して除去 除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置 ※ 湿潤化 ・ 固形化 除去した石綿含有保温材等の処分 ・ 埋立処分 (管理型最終処分場) ・ 中間処理 (溶融施設又は無害化処理施設)			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			○ 石綿含有成形板 (石綿含有けい酸カルシウム板第1種以外) の除去 除去対象範囲 ※ 図示 除去した石綿含有成形板の処分 ○ 石綿含有石こうボード ※ 埋立処分 (管理型最終処分場) ○ 石綿含有せっこうボードを除くアスベスト含有成形板 ・ 埋立処分 (安定型最終処分場) ・ 中間処理 (溶融施設又は無害化処理施設)			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			○ 石綿含有成形板 (石綿含有けい酸カルシウム板第1種) の除去 除去対象範囲 ※ 図示 養生方法 除去した石綿含有けい酸カルシウム板第1種の処分 ○ 埋立処分 (安定型最終処分場) ・ 中間処理 (溶融施設又は無害化処理施設)			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			○ 石綿含有仕上塗材又は石綿含有成形板 (下地調整材) の除去 下記以外は、改修標準仕様書9.1.1及び9.1.2による 除去工法 ※ 石綿障害予防規則 (平成十七年二月二十四日厚生労働省令第二十一号) 第6条 による措置と同等以上の効果を有する措置とされる工法 ・ 集じん装置併用手工具ケレン工法 ・ 集じん装置付き高圧水洗工法 (15MPa以下、30~50MPa程度) ・ 集じん装置付き超高圧水洗工法 (100MPa以上) ・ 超音波ケレン工法 (HEPAフィルター付き掃除機併用) ・ 剥離剤併用手工具ケレン工法 ・ 剥離剤併用高圧水洗工法 (30~50MPa程度) ・ 剥離剤併用超高圧水洗工法 (100MPa以上) ・ 剥離剤併用超音波ケレン工法 ・ 集じん装置付きディスクグラインダーケレン工法 ○ 泡噴出・集じん装置付き湿式ディスクグラインダーケレン工法 ○ 負圧隔壁養生+集じん装置付きディスクグラインダーケレン工法 除去対象範囲 ※ 図示 作業場の隔離 ※ 行わない ○ 行う 試験施工 ※ 行わない ○ 行う 除去した石綿含有仕上塗材の処分 ・ 埋立処分 (安定型最終処分場) ○ 埋立処分 (管理型最終処分場) ○ 中間処理 (溶融施設又は無害化処理施設) 除去した石綿含有仕上塗材の保管、運搬及び処分 ※ 改修標準仕様書9.1.3(3)による 確認及び後片付け ※ 改修標準仕様書9.1.3(4)(ア)・(イ)・(ウ)及び(ハ)による			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			⑧石綿含有建材除去後の仕上げ工事 ※ 図示			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			⑨断熱材 断熱材の種類 ()、断熱材の厚さ (mm) [9. 2. 1~4] 施工箇所 ※ 図示 ホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ 外装材 種類 防火性能 備考			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			⑩既存外壁の処置 既存外壁仕上材の撤去 ・ あり ・ なし 下地面の清掃 ・ 行う ・ 行わない 欠損部がある場合の改修工法 ※ 4章外壁改修工事による			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			⑪工法 1章適用区分による風圧力 (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法 不陸等の下地調整 ・ 図示 通気層の有無 ・ あり (mm) ・ なし 断熱材、外装材の施工及び外装材の外壁への取付け ※ 断熱材及び外装材製造所の仕様による			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			⑫新補した芝及び地被類の枯損後の期間 ※ 引き渡しの日から1年			
		測定 ()	測定 ()			・ 25	・			⑬透水性アスファルト舗装改修工事 [9. 5. 2~5, 9] 下記以外は、10章その他による 既存舗装の撤去及び再利用 ※ 図示			

9	床点検口	<table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>形式</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 鋼製</td> <td>・ 450×450 ※ 600×600</td> <td>・ 一般形 ・ 密閉形</td> <td>・ 鍵付き ・ 屋内用</td> </tr> <tr> <td colspan="4">密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする。 (品質・性能)</td> </tr> <tr> <td>部材名</td> <td>材質</td> <td>屋内外用</td> <td>屋内用</td> </tr> <tr> <td>受枠材 蓋枠材</td> <td>アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材</td> <td>JIS H 4100のA6063S-T5 (表面処理) JIS H 8602のB種又はJIS H 8601のAA15</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>ステンレス製</td> <td>JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 (表面処理) HL又は2B 仕上げ程度</td> <td>JIS G 4305のSUS430 (表面処理) HL又は2B 仕上げ程度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>鋼製</td> <td>-</td> <td>標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2のさび止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの</td> </tr> <tr> <td>二重蓋の中蓋</td> <td>鋼鉄</td> <td>JIS G 5501のFC150、FC200</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他</td> <td>塩化ビニル樹脂製等</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td>黄銅</td> <td>JIS H 3100 のC2600、C2720、C2801 JIS H 3250 のC3602、C3604</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>ステンレス</td> <td>JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 JIS G 4308のSUS304</td> <td></td> </tr> <tr> <td>底板材コーナーステンレス鋼板</td> <td>ステンレス鋼板</td> <td>JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 JIS G 4308のSUS304</td> <td>JIS G 4305のSUS430</td> </tr> <tr> <td>ベース底板補強材</td> <td>アルミニウム板</td> <td>JIS H 4000 (A1100P H24) 表面処理：陽極酸化塗装複合被膜 JIS H 8601 (AA15) JIS H 8602 (B)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td></td> <td>鋼材</td> <td>-</td> <td>鋼製又はJIS G 3313にメラミン樹脂焼付塗装若しくは、標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2のさび止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの</td> </tr> <tr> <td>パッキン材</td> <td></td> <td>塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジパバー、エチレンプロピレン等種の材質、形状に適した弾力性、密着性を有するもの</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカー材</td> <td></td> <td>鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗料を行ったもの</td> <td></td> </tr> <tr> <td>取手</td> <td></td> <td>黄銅鋼鉄製、黄銅製、アルミニウム押出形材・合金鋼鉄製、ステンレス鋼製品、ステンレス製等 ステンレス鋼材、アルミニウム押出形材などで被覆した、合成樹脂製のものは、衝撃による変形・割れが生じないものとする</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鍵</td> <td></td> <td>黄銅製、ステンレス製、亜鉛合金製とする 施錠・開錠は、鍵又は閉閉用ハンドル式とする</td> <td></td> </tr> <tr> <td>蓋の耐荷重性能</td> <td></td> <td>蓋中央部が荷重値Pn=1,000Nにおいて残留たわみが点検口の有孔径の0.08%以内であること。 受け枠、蓋その他の使用上支障がないこと。 破壊荷重は、荷重値のPnの2倍以上であること。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>受け枠寸法の許容差</td> <td>±0.5mm以下</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>蓋付寸法の許容差</td> <td>±0.5mm以下</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受け枠と蓋枠のクリアランス</td> <td>片側2.0mm以内</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(試験方法)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐荷重試験</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>試験体は、強物用とし、600mm角程度、枠見込みは、40mm以下とする。</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>試験は、蓋枠の四角を支持させ、蓋の中央部にφ50mmの加圧板を設置し、加圧する。</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本試験前に200Nを加圧した後、本試験を行う。</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本試験は、1,000Nで加圧、荷重除去を3回繰り返し行った後、その後試験体が破壊する(終局荷重)まで加圧する。</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>測定は、蓋中央部にかかる加圧を200N増す毎にたわみと受け枠の変形その他の異常について1,000Nまで3回繰り返す。</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>材質</td> <td>表面仕上げ</td> <td>直径(mm)</td> <td>取付箇所</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 集成材</td> <td>・ クリアラッカー</td> <td>・ 35 ・ 45</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ ステンレスパイプ</td> <td>・ HL程度</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 鋼製パイプ</td> <td>・ SOP ・ EP-G</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ビニル製ハンドル</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="4">壁及び下がり壁と天井の取合いの見切縁(天井見切縁、下がり壁見切縁)の材質 ※ アルミニウム既製品 ・ ビニル既製品</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="4">(1.1.2.2、1.9.2.2)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>施工箇所</td> <td>種類</td> <td>寸法(mm)</td> <td>厚さ(mm)</td> </tr> <tr> <td></td> <td rowspan="3">屋内</td> <td>・ 塩化ビニル製</td> <td>※ 300×300</td> <td>・ 7.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ セラミックタイル</td> <td>※ 300×300</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ レジンコンクリート製</td> <td>※ 300×300</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td rowspan="3">屋外</td> <td>・ コンクリート製</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ セラミックタイル</td> <td>※ 300×300</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ レジンコンクリート製</td> <td>※ 300×300</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="4">突起の形状、配列及び寸法は JIS T 9251による</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="4">8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.2.1)(表5.2.1)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>種類の記号</td> <td>呼び名</td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>※ D295A</td> <td>※ D16以下</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>※ D345</td> <td>※ D19以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="4">8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.2.2)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>種類</td> <td>綱目寸法、鉄線の径 (mm)</td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>※ 溶接金網</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 鉄筋格子</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="4">8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.3.4)</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="4">鉄筋の継手の方法等 ※ 重ね継ぎ手 ・ 鉄筋の重ね継ぎの長さ ※ 40dと標準仕様書表5.3.2の重ね継ぎの長さのうち大きい値とする ・ 鉄筋の定着長さ ※ 柱に取り付け梁の引っ張り鉄筋の直線定着長さは40d以上とし、それ以外は標準仕様書表5.3.4による ・ 機械式定着工法 ・ 適用する 適用箇所 ・ 図示による 種類 ・ 摩擦圧接接合 ・ 鋼合グラウト固定 ・ 嵌合グラウト固定</td> </tr> </table>	材質	寸法 (mm)	形式	備考	・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 鋼製	・ 450×450 ※ 600×600	・ 一般形 ・ 密閉形	・ 鍵付き ・ 屋内用	密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする。 (品質・性能)				部材名	材質	屋内外用	屋内用	受枠材 蓋枠材	アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材	JIS H 4100のA6063S-T5 (表面処理) JIS H 8602のB種又はJIS H 8601のAA15			ステンレス製	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 (表面処理) HL又は2B 仕上げ程度	JIS G 4305のSUS430 (表面処理) HL又は2B 仕上げ程度		鋼製	-	標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2のさび止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの	二重蓋の中蓋	鋼鉄	JIS G 5501のFC150、FC200			その他	塩化ビニル樹脂製等		目地材	黄銅	JIS H 3100 のC2600、C2720、C2801 JIS H 3250 のC3602、C3604			ステンレス	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 JIS G 4308のSUS304		底板材コーナーステンレス鋼板	ステンレス鋼板	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 JIS G 4308のSUS304	JIS G 4305のSUS430	ベース底板補強材	アルミニウム板	JIS H 4000 (A1100P H24) 表面処理：陽極酸化塗装複合被膜 JIS H 8601 (AA15) JIS H 8602 (B)	-		鋼材	-	鋼製又はJIS G 3313にメラミン樹脂焼付塗装若しくは、標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2のさび止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの	パッキン材		塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジパバー、エチレンプロピレン等種の材質、形状に適した弾力性、密着性を有するもの		アンカー材		鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗料を行ったもの		取手		黄銅鋼鉄製、黄銅製、アルミニウム押出形材・合金鋼鉄製、ステンレス鋼製品、ステンレス製等 ステンレス鋼材、アルミニウム押出形材などで被覆した、合成樹脂製のものは、衝撃による変形・割れが生じないものとする		鍵		黄銅製、ステンレス製、亜鉛合金製とする 施錠・開錠は、鍵又は閉閉用ハンドル式とする		蓋の耐荷重性能		蓋中央部が荷重値Pn=1,000Nにおいて残留たわみが点検口の有孔径の0.08%以内であること。 受け枠、蓋その他の使用上支障がないこと。 破壊荷重は、荷重値のPnの2倍以上であること。		受け枠寸法の許容差	±0.5mm以下			蓋付寸法の許容差	±0.5mm以下			受け枠と蓋枠のクリアランス	片側2.0mm以内			(試験方法)				耐荷重試験				試験体は、強物用とし、600mm角程度、枠見込みは、40mm以下とする。				試験は、蓋枠の四角を支持させ、蓋の中央部にφ50mmの加圧板を設置し、加圧する。				本試験前に200Nを加圧した後、本試験を行う。				本試験は、1,000Nで加圧、荷重除去を3回繰り返し行った後、その後試験体が破壊する(終局荷重)まで加圧する。				測定は、蓋中央部にかかる加圧を200N増す毎にたわみと受け枠の変形その他の異常について1,000Nまで3回繰り返す。					材質	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所		・ 集成材	・ クリアラッカー	・ 35 ・ 45			・ ステンレスパイプ	・ HL程度				・ 鋼製パイプ	・ SOP ・ EP-G				○ ビニル製ハンドル					壁及び下がり壁と天井の取合いの見切縁(天井見切縁、下がり壁見切縁)の材質 ※ アルミニウム既製品 ・ ビニル既製品					(1.1.2.2、1.9.2.2)					施工箇所	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)		屋内	・ 塩化ビニル製	※ 300×300	・ 7.0		・ セラミックタイル	※ 300×300	・		・ レジンコンクリート製	※ 300×300	・		屋外	・ コンクリート製				・ セラミックタイル	※ 300×300	・		・ レジンコンクリート製	※ 300×300	・		突起の形状、配列及び寸法は JIS T 9251による					8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.2.1)(表5.2.1)					種類の記号	呼び名	備考			※ D295A	※ D16以下				※ D345	※ D19以上				8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.2.2)					種類	綱目寸法、鉄線の径 (mm)	備考			※ 溶接金網					・ 鉄筋格子					8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.3.4)					鉄筋の継手の方法等 ※ 重ね継ぎ手 ・ 鉄筋の重ね継ぎの長さ ※ 40dと標準仕様書表5.3.2の重ね継ぎの長さのうち大きい値とする ・ 鉄筋の定着長さ ※ 柱に取り付け梁の引っ張り鉄筋の直線定着長さは40d以上とし、それ以外は標準仕様書表5.3.4による ・ 機械式定着工法 ・ 適用する 適用箇所 ・ 図示による 種類 ・ 摩擦圧接接合 ・ 鋼合グラウト固定 ・ 嵌合グラウト固定			
		材質	寸法 (mm)	形式	備考																																																																																																																																																																																																																																										
		・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 鋼製	・ 450×450 ※ 600×600	・ 一般形 ・ 密閉形	・ 鍵付き ・ 屋内用																																																																																																																																																																																																																																										
		密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする。 (品質・性能)																																																																																																																																																																																																																																													
		部材名	材質	屋内外用	屋内用																																																																																																																																																																																																																																										
		受枠材 蓋枠材	アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材	JIS H 4100のA6063S-T5 (表面処理) JIS H 8602のB種又はJIS H 8601のAA15																																																																																																																																																																																																																																											
			ステンレス製	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 (表面処理) HL又は2B 仕上げ程度	JIS G 4305のSUS430 (表面処理) HL又は2B 仕上げ程度																																																																																																																																																																																																																																										
			鋼製	-	標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2のさび止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの																																																																																																																																																																																																																																										
		二重蓋の中蓋	鋼鉄	JIS G 5501のFC150、FC200																																																																																																																																																																																																																																											
			その他	塩化ビニル樹脂製等																																																																																																																																																																																																																																											
		目地材	黄銅	JIS H 3100 のC2600、C2720、C2801 JIS H 3250 のC3602、C3604																																																																																																																																																																																																																																											
			ステンレス	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 JIS G 4308のSUS304																																																																																																																																																																																																																																											
		底板材コーナーステンレス鋼板	ステンレス鋼板	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 JIS G 4308のSUS304	JIS G 4305のSUS430																																																																																																																																																																																																																																										
		ベース底板補強材	アルミニウム板	JIS H 4000 (A1100P H24) 表面処理：陽極酸化塗装複合被膜 JIS H 8601 (AA15) JIS H 8602 (B)	-																																																																																																																																																																																																																																										
			鋼材	-	鋼製又はJIS G 3313にメラミン樹脂焼付塗装若しくは、標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2のさび止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの																																																																																																																																																																																																																																										
		パッキン材		塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジパバー、エチレンプロピレン等種の材質、形状に適した弾力性、密着性を有するもの																																																																																																																																																																																																																																											
		アンカー材		鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗料を行ったもの																																																																																																																																																																																																																																											
		取手		黄銅鋼鉄製、黄銅製、アルミニウム押出形材・合金鋼鉄製、ステンレス鋼製品、ステンレス製等 ステンレス鋼材、アルミニウム押出形材などで被覆した、合成樹脂製のものは、衝撃による変形・割れが生じないものとする																																																																																																																																																																																																																																											
		鍵		黄銅製、ステンレス製、亜鉛合金製とする 施錠・開錠は、鍵又は閉閉用ハンドル式とする																																																																																																																																																																																																																																											
蓋の耐荷重性能		蓋中央部が荷重値Pn=1,000Nにおいて残留たわみが点検口の有孔径の0.08%以内であること。 受け枠、蓋その他の使用上支障がないこと。 破壊荷重は、荷重値のPnの2倍以上であること。																																																																																																																																																																																																																																													
受け枠寸法の許容差	±0.5mm以下																																																																																																																																																																																																																																														
蓋付寸法の許容差	±0.5mm以下																																																																																																																																																																																																																																														
受け枠と蓋枠のクリアランス	片側2.0mm以内																																																																																																																																																																																																																																														
(試験方法)																																																																																																																																																																																																																																															
耐荷重試験																																																																																																																																																																																																																																															
試験体は、強物用とし、600mm角程度、枠見込みは、40mm以下とする。																																																																																																																																																																																																																																															
試験は、蓋枠の四角を支持させ、蓋の中央部にφ50mmの加圧板を設置し、加圧する。																																																																																																																																																																																																																																															
本試験前に200Nを加圧した後、本試験を行う。																																																																																																																																																																																																																																															
本試験は、1,000Nで加圧、荷重除去を3回繰り返し行った後、その後試験体が破壊する(終局荷重)まで加圧する。																																																																																																																																																																																																																																															
測定は、蓋中央部にかかる加圧を200N増す毎にたわみと受け枠の変形その他の異常について1,000Nまで3回繰り返す。																																																																																																																																																																																																																																															
	材質	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所																																																																																																																																																																																																																																											
	・ 集成材	・ クリアラッカー	・ 35 ・ 45																																																																																																																																																																																																																																												
	・ ステンレスパイプ	・ HL程度																																																																																																																																																																																																																																													
	・ 鋼製パイプ	・ SOP ・ EP-G																																																																																																																																																																																																																																													
	○ ビニル製ハンドル																																																																																																																																																																																																																																														
	壁及び下がり壁と天井の取合いの見切縁(天井見切縁、下がり壁見切縁)の材質 ※ アルミニウム既製品 ・ ビニル既製品																																																																																																																																																																																																																																														
	(1.1.2.2、1.9.2.2)																																																																																																																																																																																																																																														
	施工箇所	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)																																																																																																																																																																																																																																											
	屋内	・ 塩化ビニル製	※ 300×300	・ 7.0																																																																																																																																																																																																																																											
		・ セラミックタイル	※ 300×300	・																																																																																																																																																																																																																																											
		・ レジンコンクリート製	※ 300×300	・																																																																																																																																																																																																																																											
	屋外	・ コンクリート製																																																																																																																																																																																																																																													
		・ セラミックタイル	※ 300×300	・																																																																																																																																																																																																																																											
		・ レジンコンクリート製	※ 300×300	・																																																																																																																																																																																																																																											
	突起の形状、配列及び寸法は JIS T 9251による																																																																																																																																																																																																																																														
	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.2.1)(表5.2.1)																																																																																																																																																																																																																																														
	種類の記号	呼び名	備考																																																																																																																																																																																																																																												
	※ D295A	※ D16以下																																																																																																																																																																																																																																													
	※ D345	※ D19以上																																																																																																																																																																																																																																													
	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.2.2)																																																																																																																																																																																																																																														
	種類	綱目寸法、鉄線の径 (mm)	備考																																																																																																																																																																																																																																												
	※ 溶接金網																																																																																																																																																																																																																																														
	・ 鉄筋格子																																																																																																																																																																																																																																														
	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.3.4)																																																																																																																																																																																																																																														
	鉄筋の継手の方法等 ※ 重ね継ぎ手 ・ 鉄筋の重ね継ぎの長さ ※ 40dと標準仕様書表5.3.2の重ね継ぎの長さのうち大きい値とする ・ 鉄筋の定着長さ ※ 柱に取り付け梁の引っ張り鉄筋の直線定着長さは40d以上とし、それ以外は標準仕様書表5.3.4による ・ 機械式定着工法 ・ 適用する 適用箇所 ・ 図示による 種類 ・ 摩擦圧接接合 ・ 鋼合グラウト固定 ・ 嵌合グラウト固定																																																																																																																																																																																																																																														

19	コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (6.2.1~4) ※ 普通コンクリート	設計基準強度 (F _c) [N/mm ²]	スランブ (cm)	適用箇所	
		※ 2.4	※ 標準仕様書表6.2.2による	※ コンクリート全て (無筋コンクリートを除く)		
		セメント				
		種類	(6.3.1)			
		※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 ・ 高炉セメントB種 ・ フライアッシュセメントB種				
		型枠				
		8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (6.8.2)				
		せき板の材料 ※ 合板 厚さ (※ 12mm) ・ メッシュ型枠 ・ 断熱材を兼用した型枠 厚さ25mm以下かつ熱抵抗値1m ² h ² ℃/kCa1以上				
		無筋コンクリート				
		8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (6.14.1)				
		種類	設計基準強度 (F _c) [N/mm ²]	スランブ (mm)	施工箇所	
		※ 普通コンクリート	※ 18	※ 15	※ 標準仕様書6.14.1(7)~(8)による	
		種類				
		※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 ・ 高炉セメントB種 ・ フライアッシュセメントB種				
		床コンクリート直均し仕上げ				
		(8.1.4) (表8.1.5)				
		仕上げの平坦さは、図示以外は下記による				
		改修標準仕様書表8.1.5による平坦さの種類別 施工箇所				
		a種	合成樹脂塗床、ビニル系床材張り、床コンクリート直均し仕上げ、フリーアクセスフロア (置敷式) ()			
b種	カーペット張り、防水下地、セルフレベリング材張り ()					
c種	タイル張り、モルタル塗り、フリーアクセスフロア (支柱調整式) ()					
あと施工アンカー						
(14.1.3)						
6章内装改修工事 軽量鉄骨天井下地及び8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記によるあと施工アンカー施工後の確認試験 ※ 行う ・ 行わない						
トイレブース						
(2.0.2.5)						
表面材の材料		脚部	ドアエッジ			
※ メラミン樹脂系化粧板 ・ ポリエステル樹脂系化粧板		※ 幅木タイプ ・	※ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 表面材と同材			
(品質・性能)						
(1) パネル						
項目	品質・性能					
表面材	メラミン樹脂系、ポリエステル樹脂系化粧板又はメラミン樹脂系単一材とする。					
裏打材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、防食処理及び防錆処理を施した材料とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。					
心材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。					
枠材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、亜鉛めっき処理を施した材料とする。					
エッジ材						
小口	防水処理を施す。					
(2) 構造金物						
項目	品質・性能					
脚部	JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1とし、仕上げはHL程度とする。					
(3) 付属金物						
項目	品質・性能					
ヒンジ	耐蝕性のあるものとする。					
ラッチセット						
戸当り	腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施してあるものとする。 戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。					
(4) 外觀は、JIS A 6512「可動間仕切」の5.b)による。						
(5) パネル表面材の耐薬品性・耐汚染性・耐ひっかき性・開閉耐久性						
項目	品質・性能					
	耐薬品性及び耐汚染性	耐引っかき性				
メラミン樹脂系化粧板及びメラミン樹脂系単一材	JIS K 6903(2008)「熱硬化性樹脂高圧化粧板」の表8品質による耐汚染性(B法)の規定を満足していること。	-				
ポリエーテル樹脂系化粧板	ポリエーテル樹脂系加工化粧板、ポリエーテル樹脂系化粧板MDF、ポリエーテル樹脂系化粧板パーティクルボードのいずれかの品質に適合していること。					
ポリエーテル樹脂系加工化粧板	JAS「合板の日本農林規格」第9条特殊加工化粧板に示された耐汚染性試験において、試験片の表面に色が残らないこと。	JAS「合板の日本農林規格」第9条特殊加工化粧板に示された耐引っかき性試験において、きずの深さが平均値が10µm以内であること。				
ポリエーテル樹脂系化粧板MDF	JIS A 5905「繊維板」の表18の規定に適合していること。					
ポリエーテル樹脂系化粧板パーティクルボード	JIS A 5908「パーティクルボード」の表11の規定に適合していること。					
(試験方法)						
(1) ヒンジは、JIS A 1510-2「建築用ドア金物の試験方法-第2部：ドア用金物」に規定する試験による。						
(2) 戸当りの衝撃試験は、JIS A 1510-2に規定する試験による。						
パネル材料のホルムアルデヒド放散量 ※ JIS A 6512によりF☆☆☆☆以上						

名称		A 表面劣化部処理		B ひび割れ部処理		C 錆鉄筋部処理	
記号・仕様		A-1 打放し面表面劣化部処理 [サンダー工法]		A-2 モルタル面表面劣化部処理 [サンダー工法]		B-1 打放し面樹脂注入工法 [標仕4.2.5] ひび割れ幅 0.2~1.0mm	
改修前							
改修後							
工程		①既存仕上げ材及び脆弱層サンダーケレン (*全面・部分) ②高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²) ③セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm) 参考数量: 外部仕上表による		①既存仕上げ材及び脆弱層サンダーケレン (*全面・部分) ②高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²) ③セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm) 参考数量:		①サンダーケレン ②ひび割れ部シール ③エポキシ樹脂注入 ④セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm) ※A-1工法を行う場合は、①、④の工程はA-1工法に含む。 参考数量: 外部仕上表による	
名称		B ひび割れ部処理		C 錆鉄筋部処理		D 浮き部処理	
記号・仕様		B-4 モルタル面樹脂注入工法 [標仕4.3.6] ひび割れ幅 0.2~1.0mm		B-5 モルタル面樹脂注入工法 [標仕4.3.6] ひび割れ幅 0.2~1.0mm		B-6 モルタル面ウカットシール材充てん工法 ひび割れ幅 1.0mm以上	
改修前							
改修後							
工程		①サンダーケレン ②ひび割れ部シール ③エポキシ樹脂注入 ④セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm) ※A-2工法を行う場合は、①、④の工程はA-2工法に含む。 参考数量: ひび割れ幅 0.2~0.5mm () ひび割れ幅 0.5~1.0mm () ()内は挙動ひび割れ数量を示す		①ひび割れ周囲モルタルカッター切り ②モルタル除去 ③ひび割れ部シール ④エポキシ樹脂注入 ⑤埋戻し ⑥セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm) ※A-2工法を行う場合は、⑥の工程はA-2工法に含む。 参考数量:		①ひび割れ部ウカット ②高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²) ③シーリング材打設 ④ウカット部埋戻し (ポリマーセメントモルタル) ⑤セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm) ※A-2工法を行う場合は、②⑤の工程はA-2工法に含む。 参考数量:	
名称		C 錆鉄筋部処理		D 浮き部処理		E 浮き部処理	
記号・仕様		C-1 打放し面錆鉄筋部処理		D-1 モルタル面はつり		D-2 モルタル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 [標仕4.3.11] D-2' タイル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 [標仕4.4.9]	
改修前							
改修後							
工程		①錆鉄筋周辺のはつり ②錆落とし ③高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²) ④防錆処理 ⑤はつり部埋戻し整形 ⑥セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm) ※A-2工法を行う場合は、③⑥の工程はA-2工法に含む。 参考数量:		①カッター縁切り ②浮き部はつり ③高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²) ④はつり部埋戻し整形 ⑤セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm) ※A-2工法を行う場合は、③⑤の工程はA-2工法に含む。 参考数量:		①穿孔 ②穿孔内エアークリーン ③エポキシ樹脂注入 ④ステンレスピン挿入 一般部 ケ所 指定部 ケ所 一般部 ケ所 指定部 ケ所 一般部 ケ所 指定部 ケ所 一般部 ケ所 指定部 ケ所 ⑤穿孔跡埋戻し [バテ状エポキシ樹脂] 一般部 ケ所 指定部 ケ所 ⑥サンダーケレン ⑦高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²) ⑧セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm) ※A-2工法を行う場合は、⑥⑦⑧の工程はA-2工法に含む。 参考数量: ①一般部分: ②指定部分: ③峡幅部:	
事業年度		設計		大 中 小		地域 施設 種類 工事名	
年度		令和 年月				事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松本 靖之 印	
工事完成年度		三原市都市部建築課				図面名称・縮尺 non scale (A3版=71%縮小) 図番 外壁改修工事特記仕様書-1 A-10	

名称		D 浮き部処理									
記号・仕様		D-3 モルタル面アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 [標仕4.3.12] D-3' タイル面アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 [標仕4.4.10]									
改修前	改修後										
工程		①ピン固定部穿孔	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑥注入口穿孔	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑩セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm)			
		②孔内エアークリーニング	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑦孔内エアークリーニング	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所				
		③エポキシ樹脂注入	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑧エポキシ樹脂注入	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所				
		④ステンレスピン挿入	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑨穿孔跡埋戻し [エポキシパテ]	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所				
		⑤穿孔跡埋戻し [エポキシパテ]	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑩サンダーケレン	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所				
					⑪高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²)						
								※A-2工法を行う場合は、⑩、⑪、⑫の工程はA-2工法に含む。 参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③峡幅部：			
									①一般部分標準グリッド (200×200) (指定部以外の部分)	②指定部分標準グリッド (110×110) (見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等)	
									③峡幅部 (幅200mm以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所)		

名称		D 浮き部処理									
記号・仕様		D-4 モルタル面アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 [標仕4.3.13] D-4' タイル面アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 [標仕4.4.11]									
改修前	改修後										
工程		①ピン固定部穿孔	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑥注入口穿孔	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑫セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm)			
		②孔内エアークリーニング	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑦孔内エアークリーニング	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所				
		③ポリマーセメントスラリー注入	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑧ポリマーセメントスラリー注入	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所				
		④ステンレスピン挿入	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑨穿孔跡埋戻し [ポリマーセメントスラリー]	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所				
		⑤穿孔跡埋戻し [ポリマーセメントスラリー]	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑩サンダーケレン	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所				
					⑪高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²)						
								※A-2工法を行う場合は、⑩、⑪、⑫の工程はA-2工法に含む。 参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③峡幅部：			
									①一般部分標準グリッド (200×200) (指定部以外の部分)	②指定部分標準グリッド (110×110) (見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等)	
									③峡幅部 (幅200mm以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所)		

名称		D 浮き部処理									
記号・仕様		D-5 モルタル面注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 [標仕4.3.14] D-5' タイル面注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 [標仕4.4.12]									
改修前	改修後										
工程		①穿孔	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑤穿孔跡埋戻し [エポキシパテ]	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所				
		②孔内エアークリーニング	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑥サンダーケレン	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所				
		③ステンレスピン (注入口付) 挿入	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑦高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²)	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所				
		④エポキシ樹脂注入	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑧セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm)	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所				
					※A-2工法を行う場合は、⑥、⑦、⑧の工程はA-2工法に含む。 参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③峡幅部：						
									①一般部分標準グリッド (330×330) (指定部以外の部分)	②指定部分標準グリッド (250×250) (見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等)	
									③峡幅部 (幅200mm以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所)		

事業年度	年度	設計	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名	図面名称・縮尺 non scale (A3版=71%縮小)	図番
工事完成	年度	令和 年月						建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之 印	外壁改修工事特記仕様書-2	A-11

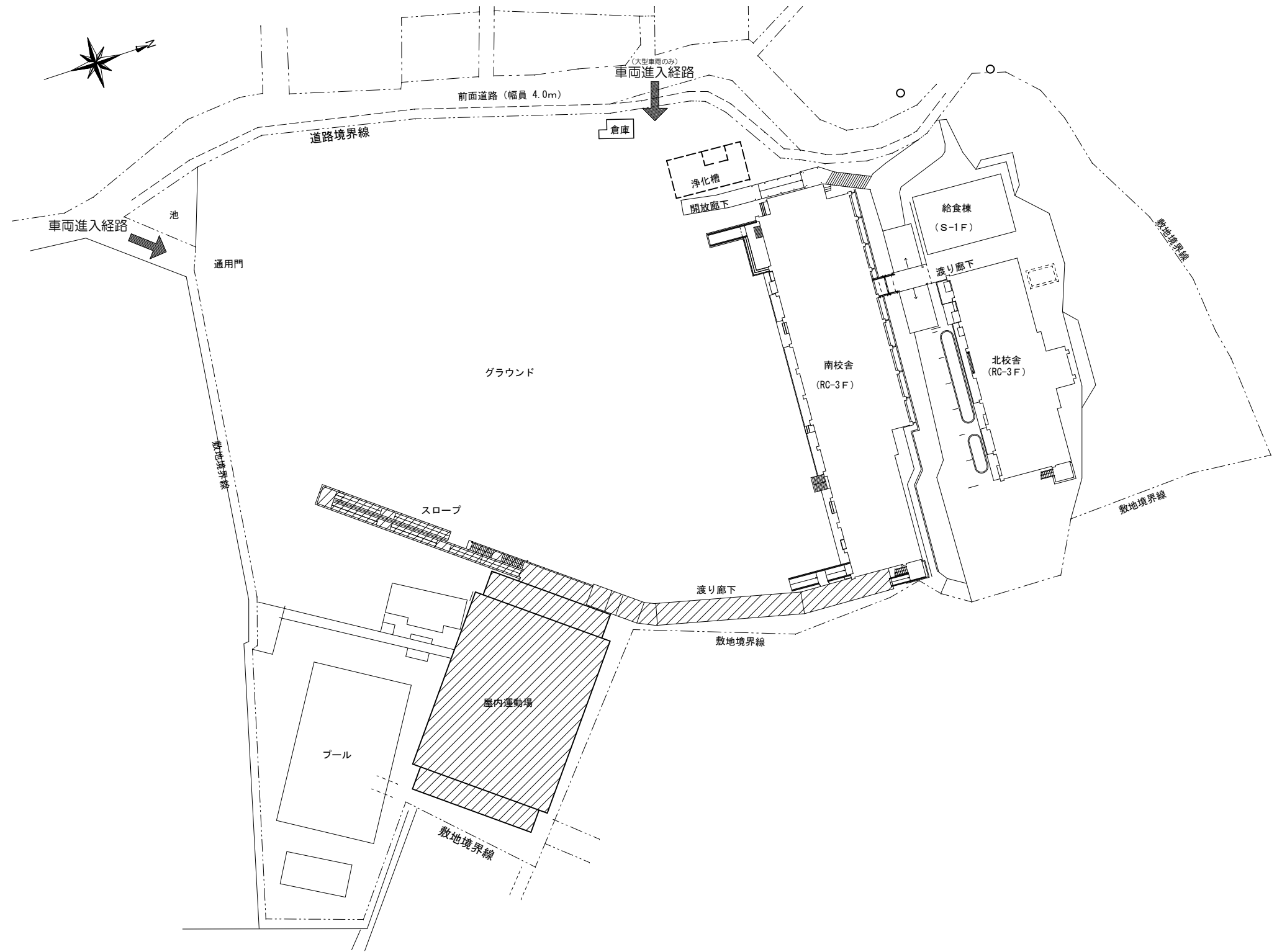
名称		D 浮き部処理	
記号・仕様		D-6 モルタル面注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 [標仕4.3.15] D-6' タイル面注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 [標仕4.4.13]	
改修前	改修後		
工程		①ピン固定部穿孔 一般部 ケ所 ②孔内エアークリーニング 一般部 ケ所 ③ステンレスピン（注入口付）挿入 一般部 ケ所 ④エポキシ樹脂注入 一般部 ケ所	⑤穿孔跡埋戻し [エポキシパテ] 一般部 ケ所 ⑥注入口穿孔 一般部 ケ所 ⑦孔内エアークリーニング 一般部 ケ所 ⑧エポキシ樹脂注入 一般部 ケ所 ⑨穿孔跡埋戻し [エポキシパテ] 一般部 ケ所 ⑩サンダーケレン ⑪高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²) ⑫セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm) ※A-2工法を行う場合、⑩、⑪、⑫の工程はA-2工法を含む 参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③峽幅部：
		①一般部分標準グリッド (165×165) (指定部以外の部分) ②指定部分標準グリッド (125×125) (見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等) ③峽幅部 (幅200mm以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所) ● 注入口付アンカーピン固定部 ○ 注入口	

名称		D 浮き部処理	
記号・仕様		D-7 モルタル面注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 [標仕4.3.16] D-7' タイル面注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 [標仕4.4.14] ※標準グリッド等は、D-6、D-6'と同じ	
改修前	改修後		
工程		①ピン固定部穿孔 一般部 ケ所 ②孔内エアークリーニング 一般部 ケ所 ③ステンレスピン（注入口付）挿入 一般部 ケ所 ④ポリマーセメントスラリー注入 一般部 ケ所 ⑤穿孔跡埋戻し [※リマーセメントモルタル] 一般部 ケ所	⑥注入口穿孔 一般部 ケ所 ⑦孔内エアークリーニング 一般部 ケ所 ⑧ポリマーセメントスラリー注入 一般部 ケ所 ⑨穿孔跡埋戻し [※リマーセメントモルタル] 一般部 ケ所 ⑩サンダーケレン ⑪高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²) ⑫セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm) ※A-2工法を行う場合、⑩、⑪、⑫の工程はA-2工法を含む 参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③峽幅部：
		D-8 タイル面注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法 (小口タイル以上) [標仕4.4.15] ①穿孔 ②孔内エアークリーニング ③ステンレスピン（注入口付）挿入 ④エポキシ樹脂注入 ⑤穿孔跡埋戻し [化粧キャップもしくは調色樹脂パテ] 参考数量：	

名称		E 欠損部処理			F 外壁複合改修工法	
記号・仕様		E-1 打放し面充填工法 [標仕4.2.8]	E-2 打放し面欠損部処理 [標仕4.2.3]	E-3 モルタル面欠損部処理 [標仕4.3.3]	F 外壁複合改修工法 [標仕4.4.15]	
改修前	改修後					
工程		①欠損部はつり等での整形 ②高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²) ③欠損部はつり部埋戻し [※リマーセメントモルタル・エポキシ樹脂モルタル] ④セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm) ※A-1工法を行う場合、②、④の工程はA-1工法を含む 参考数量：外部仕上表による	①欠損部・錆鉄筋周辺はつり等での整形 ②錆落とし ③高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²) ④防錆処理 ⑤欠損部はつり部埋戻し [※リマーセメントモルタル・エポキシ樹脂モルタル] ⑥セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm) ※A-1工法を行う場合、③、⑥の工程はA-1工法を含む 参考数量：外部仕上表による	①カッター縁切り ②欠損部はつり等での整形 ③高圧水洗浄 (150~200kg/cm ²) ④欠損部はつり部埋戻し [※リマーセメントモルタル・エポキシ樹脂モルタル] ⑤セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm) (鉄筋の露出部がある場合はE-2による) ※A-2工法を行う場合、③、⑤の工程はA-2工法を含む 参考数量：	下地補修後 ①プライマー下塗り ②ポリマーベスト中塗り ③三軸ネット張り ④ワッシャー付アンカーピン打ち込み ⑤ポリマーベスト中塗り ⑥アルミ水切り取付け (L-30×15×2.0 ステンレスビス止@450) ⑦シーリング打設 (MS-2) *印寸法は60程度とする	
				参考数量 ネット張り m ² 水切 m		

■ 工事概要

1. 工事名称：本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事（建築主体工事）
2. 工事場所：三原市本郷北三丁目
3. 工事内容：
 - ・屋内運動場 内部・外部改修工事
 - ・渡り廊下 改修工事
 - ・スロープ 改修工事



附近見取図

配置図 1/500

凡例
 工事範囲を示す。

事業年度	年度	設計	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名	図面名称・縮尺 S=1/500	(A3版=71%縮小)	図番
工事完成	年度	令和 年月						建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	附近見取図・配置図		A-14

外部仕上げ表			改修前														改修後													
符号	場所・部位	下地	仕上げ	下地補修														既存塗膜等の除去			下地調整						符号	仕上げ	備考	
				コンクリート打放し仕上げ							モルタル塗り仕上げ							(1)	(1)	(2)	(3)	下地調整 (塗装面下地)								
				ひび割れ部		欠損部					ひび割れ部		欠損部									(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)				(ヘ)
				(1)	(2)	(1)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(1)	(2)	(3)	(イ)	(ロ)													
19	ビロイ A・B・C (床)		土埋設 (既存のまま)																						19	—				
20	ビロイ A・B・C (天井)	C	コンクリート打放し (既存のまま)																						20	クリーニング				
21	ホーチ (床)	C	磁器質150角タイル (既存のまま)																						21	クリーニング	段鼻タイル150×66 (撤去・新設)			
22	ホーチ (側溝)	C	タイル金コシ押え (既存のまま)																						22	クリーニング				
23	ホーチ (天井)	C	塩ビ鋼板張り t=0.5 (既存のまま)																					○	23	DP	(新設)			
24	西外部階段 A・B (蹴上・踏面)	C	タイル金コシ押え (既存のまま)																						○	24	ノスリUP 塗装	(新設) 段鼻タイル150×66 (撤去・新設)		
25	西外部階段 A・B (巾木)	C	タイル金コシ押え H=100 (既存のまま)																						○	25	ノスリUP 塗装	(新設)		
26	西外部階段 A・B (手摺壁外側・笠木・内側)	C	吹付タイル (アクリル系) ヘッドカット (撤去)																						○	26	シリコン系外壁用高日射反射率塗料 水性セラミック (日本ペイント) 同等品	(新設)		
27	西外部階段 A・B (上裏)	C	コンクリート打放し (既存のまま)																						○	27	可とう形外装薄塗材 si	(新設)		
27-1	西外部階段 A・B (軒裏梁・桁)		鉄骨現し (既存のまま) OP塗 (一部撤去)																						○	27-1	DP	(新設)		
28	鉄骨外部階段 (踏面)	S	タイル金コシ押え t=50 (既存のまま)																						○	28	ノスリUP 塗装	(新設) 段鼻タイル150×66 (撤去・新設)		
29	鉄骨外部階段 (蹴上)	S	タイル金コシ押え (既存のまま)																						○	29	ノスリUP 塗装	(新設)		
30	鉄骨外部階段・バルコニー (側桁・上裏)	S	鉄骨現し (既存のまま) OP塗 (一部撤去)																						○	30	DP	(新設)		
31	バルコニー (床)	S	CPL t=6 (既存のまま) OP塗 (一部撤去)																						○	31	DP	(新設)		
32	手摺 (西外部階段 A・B、鉄骨外部階段、テラス、バルコニー)	C	スチール製 (既存のまま) OP塗 (一部撤去)																						○	32	DP	(新設)		
33	手摺 (スロープ)	S	ステンレス製 (既存のまま)																								33	クリーニング		
34	縦樋養生管		SGP139.8φ GL+2000 OP塗 (撤去)																						○	34	SGP139.8φ GL+2000 DP塗	(新設) 掘金物: ステンレス製 @1200 (撤去・新設)		
35	縦樋		VP100φ VP塗 (撤去)																								35	外-縦樋 100φ	(新設) 掘金物: ステンレス製 @1200 (撤去・新設)	
35-1	集水器		角ます VP塗 (撤去)																								35-1	角ます	(新設)	
36	縦樋 (ビロイ C)		VP50φ VP塗 (撤去)																								36	外-縦樋 50φ	(新設) 掘金物: ステンレス製 @1200 (撤去・新設)	
37	角型屋根マホール		840×840 スチール製 (撤去)																								37	屋根マホール 840×840 ステンレス製	(新設)	
38	ルーフドレイン		鋳鉄製 100φ用 (撤去)																								38	改修用ドレイン 100φ	(新設) オートドレイン (新設)	
39	フットドレイン		鋳鉄製 50φ用 (撤去)																								39	改修用ドレイン 50φ	(新設) オートドレイン (新設)	
40	目地シーリング (ALC壁)		アクリル系シーリング (撤去)																								40	PU-2 20×10	(新設)	
40-1	目地シーリング		シリコン系シーリング (撤去)																								40-1	PU-2 15×10	(新設)	
41	伸縮目地材 (テラス床)		非加硫ゴム系 20×50 (撤去)																								41	伸縮目地材 20×50	(新設)	
41-1	外伸縮目地 (スロープ床)		非加硫ゴム系 20×50 (撤去)																								41-1	伸縮目地材 20×50	(新設)	

参考数量

略号 C : コンクリート M : モルタル塗り S : 軽量鉄骨 DP : 耐候性塗料塗り 複層塗材E : 合成樹脂エマルジョン系複層仕上げ塗材 複層塗材RE : 水性エポキシ樹脂エマルジョン系複層仕上げ塗材

特記事項				
1 外壁改修については、設計時の全数調査報告書を基に、下地補修の前にひび割れ、コンクリートの剥落、タイルひび割れ・浮き及び仕上げ塗材の劣化部分等の不良箇所を十分に調査して、施工数量調査報告書及び工事施工計画書を作成し、監督員の承諾を受けた後、改修に着手すること。	3 本工事に支障となるものは、一時取外し、支障のないよう復旧すること。既設配管等により、取外しできない場合は監督員と協議すること。	7 屋外既設 防水層 (立上り共) は、撤去とする。脱気テープは@3.0m程度とする。	—(3) ケレン工法で行い、狭小部、出隅・入隅等を超音波ケレン工法 (HEPAフィルタ付掃除機併用) で行うこと。—	
2 外部建具周囲・打継目地等のシーリングは既存シーリング材を除去後打替えとする。 ※ シーリングの打替えを行う場合は、既存シーリング材及びバックアップ材を除去し、下地及び除去したシーリング材について監督員の確認を受けた後に施工すること。また、除去したシーリング材は重量を測り、全量の写真撮影を行うこと。	4 水洗い工法は、高圧水洗機 (9MPa以上) を使用して、粉化物・付着物等の除去、清掃を行う。	8 既存塗膜面で脆弱と思われる箇所については、付着強度が1.0 Nmm以上であることを各面3ヶ所以上であることを確認すること	—(4) アスベストが飛散することのないよう「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル」令和3年3月 (厚生労働省、環境省) 及び「建築物等の改修・解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止—処理技術指針—平成28年4月 (国立研究開発法人建築研究所、日本建築士会)」等を参考に適切に施工すること。—	
	5 クリーニングは、金属、建具及びガラスに適合する洗剤での水洗い程度とする。	9 外壁のひび割れから常時漏水が認められた場合は、別途漏水防止工事を行う必要があるため、監督員と協議すること。	—(5) アスベスト含有仕上塗材等の除去—	
	6 外壁塗材の除去 (1) 改修範囲内の塗材除去を行うこと。 (2) 除去作業については、平らな面を集塵装置付ディスクグライダーケレン工法で行い、建具取合い・出隅・入隅等を超音波ケレン工法で行うこと。	10 軒裏及び外壁の引込付は、アスベストを含有していない。	12 高強度形引込系塗膜防水のプライマーについては、劣化部撤去範囲は金属下地用プライマーを使用すること。	

外部仕上げ表		改修前															改修後																					
符号	場所・部位	下地	仕上げ	下地補修															既存塗膜等の除去			下地調整					符号	仕上げ	備考									
				コンクリート打放し仕上げ					モルタル塗り仕上げ					ひび割れ部					欠損部											下地調整 (塗装面下地)								
				(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	(3)	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)	(ヘ)													
				樹脂注入工法	Uカット (0.2mm以上1.0mm以下)	Uカット (1.0mm超)	Uカット (0.2mm未満)	Uカット (0.2mm未満)	Uカット (1.0mm超)	Uカット (0.2mm未満)	シール工法 (撤去部)	充填工法 (充填部分)	充填工法 (充填部分)	充填工法 (充填部分)	充填工法 (充填部分)	充填工法 (充填部分)	充填工法 (充填部分)	充填工法 (充填部分)	モルタル塗替え工法 (25mm以上)	サンダー工法 30MPa以上	高圧水洗工法 9MPa以上	塗膜はく離工法	水洗工法	ポリマーセメントペースト	下地調整材 C-2	鉄鋼面	コンクリート面 モルタル面・ポド面	V/P管面	鋼製建具面									
42	土間 (1階トイレ)	CB	(撤去)																														42	コンクリート土間 t=100 金打押え Fc24S18 鉄筋金網D13x200x200	(新設)			
43	渡り廊下 (床)	C	着色塗床仕上目地切 モルタル金打押え																														43	ノンスリップ 塗装 モルタル金打押え	(新設) (一部新設)	屋内運動場側 一部コンクリート(撤去・新設) 校舎側 一部ライン引き(新設)		
44	渡り廊下・西外部階段 B (屋根)	S	ルーフタイル t=0.6 カラー																														44	折板H=90 内外(カラー) t=0.6 カラー	(新設)			
45	渡り廊下・西外部階段 B (屋根裏面)	S	鉄骨現し OP塗																														45	鉄骨現し DP塗	(新設)			
46	渡り廊下・西外部階段 B (柱・梁)	S	鉄骨現し □100角 (既存のまま) OP塗 (一部撤去)																														46	DP	(新設)	柱脚腐食部補修		
47	渡り廊下 (軒樋)	S	角樋 120角 VP塗																														47	角樋 120角	(新設)			
48	渡り廊下 (壁樋)	S	VP65φ VP塗																														48	カラー壁樋 65φ	(新設)			
49	スロー (床)	C	タイル																														49	クリーニング		誘導ブロック300角 (既存のまま)		
50	スロー (巾木・側溝)	C	モルタル金打押え																															50	クリーニング			
51	スロー (手摺壁両面・天端)	C	吹付タイル (7割り系)					○		○										○														51	シリコン系外壁用高日射反射率塗料 水性サ-マ-イカ-ルSi (日本ペ-イント) 同等品	(新設)		
52	スロー (軒裏)	C	コンクリート打放し																															52	クリーニング			
53	スロー (柱)	C	吹付タイル (7割り系)																	○														53	シリコン系外壁用高日射反射率塗料 水性サ-マ-イカ-ルSi (日本ペ-イント) 同等品	(新設)		
54	スロー (柱・梁・桁)		鉄骨現し (既存のまま) OP塗 (一部撤去)																															54	DP	(新設)		
55	ネットファン(北側)		—																															55	H=1800	(新設)		
56	ネットファン(東側)		(撤去)																																56	H=1800	(新設)	ファン扉 W=800(撤去・新設)

参考数量

略号
 C : コンクリート
 M : モルタル塗り
 S : 軽量鉄骨
 DP : 耐傷性塗料塗り
 複層塗材E : 合成樹脂エマルジョン系複層仕上げ塗材
 複層塗材RE : 水性エポキシ樹脂エマルジョン系複層仕上げ塗材

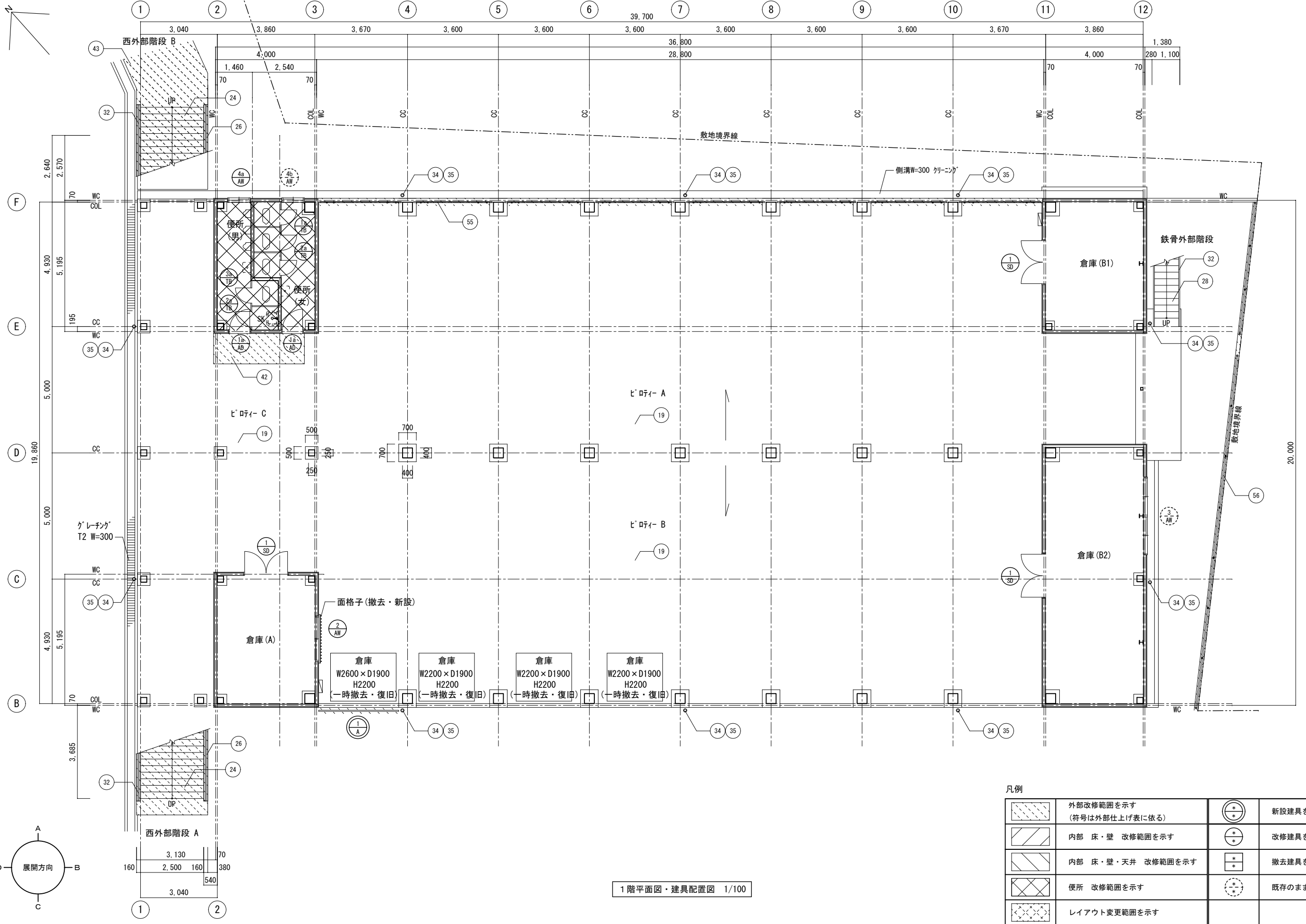
特記事項			
1 外壁改修については、設計時の全数調査報告書を基に、下地補修の前にひび割れ、コンクリートの剥落、タイルひび割れ・浮き及び仕上塗材の劣化部分等の不良箇所を十分に調査して、施工数量調査報告書及び工事施工計画書を作成し、監督員の承諾を受けた後、改修に着手すること。	3 本工事に支障となるものは、一時取外し、支障のないよう復旧すること。 既設配管等により、取外できない場合は監督員と協議すること。	7 屋外既設 防水層 (立上り共) は、撤去とする。脱気テープはφ3.0mm程度とする。	(3) ケレン工法で行い、狭小部、出隅・入隅等を超音波ケレン工法 (HEPAフィルタ付掃除機併用) で行うこと。
2 外部建具周囲・打継目地等のシーリング材は既存シーリング材を除去後打替えとする。 ※ シーリングの打替えを行う場合は、既存シーリング材及びバックアップ材を除去し、下地及び除去したシーリング材について監督員の確認を受けた後に施工すること。 また、除去したシーリング材は重量を測り、全量の写真撮影を行うこと。	4 水洗い工法は、高圧水洗機 (9MPa以上) を使用して、粉化物・付着物等の除去、清掃を行う。	8 既存塗膜壁面で脆弱と思われる箇所については、付着強度が1.0 Nmm ² 以上であることを各面3ヶ所以上であることを確認すること	(4) アスベストが飛散することのないよう「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル」令和3年3月 (厚生労働省、環境省) 及び「建築物等の改修・解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止」(処理技術指針 平成28年4月 (国立研究開発法人建築研究所、日本建築士上材工業会)) 等を参考に適切に施工すること。
	5 クリーニングは、金属、建具及びガラスに適合する洗剤での水洗い程度とする。	9 外壁のひび割れから常時漏水が認められた場合は、別途漏水防止工事を行う必要があるため、監督員と協議すること。	12 高強度形の内装系塗膜防水のプライマーについては、劣化部撤去範囲は金属下地用プライマーを使用すること。
	6 外壁塗材の除去 (1) 改修範囲内の塗材除去を行うこと。 (2) 除去作業については、平らな面を集塵装置付ディスクグライダーケレン工法で行い、建具取合い・出隅・入隅等を超音波ケレン工法で行うこと。	10 軒裏及び外壁の洗浄吹付は、アスベストを含有していない。 11 アスベスト含有仕上塗材等の除去 (1) 改修範囲内のアスベストは全面除去を行うこと。 (2) 除去作業については、湿潤化した上で、平らな面を集塵装置付ディスクグライダー	

階	室名		床			巾木			腰壁・壁			天井					備考		
			下地	仕上	床レベル	下地	仕上	塗装	下地	仕上	塗装	下地	仕上	塗装	廻り縁	天井高(CH)		梁型	
1	便所 (男・女)	改修前	C (一部撤去)	防水モルタル金押し (撤去)	-100	—	—	—	ALC	樹脂アスター塗	—	LGS	FK t=6 (7スベストみなし含有) (撤去)	EP (撤去)	塩ビ (撤去)	2.400		トイレ 手摺(撤去) 天井点検口×2(撤去)	
		改修後	C (一部新設)	防水モルタル金押し (一部新設)	-100	—	—	—	ALC (既存のまま)	樹脂アスター塗 (下地調整)	EP-G (新設)	LGS (既存のまま)	FK t=6 (新設)	EP (新設)	塩ビ (新設)	2.400		トイレ(既存のまま) 室名札×2(新設) 天井点検口×2(新設)	
	倉庫 (A・B1・B2)	改修前	C	コンクリート金押し (既存のまま)	±0	—	—	—	C ALC	ALC版 t=100 現し	—	C		—	—			室名札×3(撤去)	
		改修後	C (既存のまま)	コンクリート金押し (既存のまま)	±0	—	—	—	C (既存のまま) ALC (既存のまま)	ALC版 t=100 現し (既存のまま)	—	C (既存のまま)		—	—			室名札×3(新設)	
2	玄関	改修前	軽量コンクリート (一部撤去)	磁器150角タイル (撤去)	-100	ALC (一部撤去)	珪藻土25 H=100 (撤去)	OP (撤去)	ALC (一部撤去)	T2シタニヤt=6.0 ビニルクロス張 (撤去)	—	LGS (撤去)	GB-R t=9 岩綿吸音板 t=9 (7スベストみなし含有) (撤去)	—	塩ビ (撤去)	2.700~ 2.800		下足入×1(撤去)・下足入×1(一時撤去) 上り框 珪藻土ブロック H=100(撤去) 天井L型見切材 L=4900(撤去) 天井点検口(撤去)	
		改修後	軽量コンクリート (一部新設)	防滑性ビニル床シート=2.5 (新設)	-100	ALC (既存のまま)	珪藻土25 H=100 (新設)	SOP (新設)	ALC (既存のまま)	T2シタニヤt=6.0 ビニルクロス張 (既存のまま) (新設)	—	LGS (新設)	GB-R t=9.5 岩綿吸音板 t=9 (新設)	—	塩ビ (新設)	2.700~ 2.800		下足入(再取付・SOP塗替) 上り框 珪藻土ブロック H=100(新設) 天井L型見切材 L=4900(新設) 天井点検口(新設)	
	事務室	改修前	M	ビニル床シート=2.5 (7スベストみなし含有) (撤去)	±0	ALC (一部撤去)	ビニル巾木 H=100 (撤去)	—	ALC (一部撤去)	樹脂アスター塗	—	LGS (撤去)	GB-D t=9 (7スベストみなし含有) (撤去)	—	塩ビ (撤去)	2.400		換気扇枠 ブラインドBOX(撤去) 流し台L1200(撤去) 行事黒板1200×900(撤去) 室名札(撤去) 天井点検口(撤去)	
		倉庫(D)	改修後	M (下地調整)	ビニル床シート=2.5 木目 (新設)	±0	ALC (既存のまま) LGS (新設)	ビニル巾木 H=100 (新設)	—	ALC (既存のまま) LGS (新設)	樹脂アスター塗 (下地調整) GB-R t=12.5 (新設)	EP-G (新設)	LGS (新設)	GB-D t=9.5 (新設)	EP-G (新設)	塩ビ (新設)	2.100		換気扇枠(既存のまま) 室名札(新設) 天井点検口(新設)
			多目的H	改修後	M (下地調整)	ビニル床シート=2.5 木目 (新設)	±0	ALC (既存のまま) LGS (新設)	床材立上げ H=60 (新設) 見切り金物 (新設)	—	ALC (既存のまま) LGS (新設)	樹脂アスター塗 (既存のまま) GB-R t=15 GB-S t=12.5 FK-D t=6 (新設) (新設) (新設)	—	LGS (新設)	FK t=6 (新設)	EP-G (新設)	塩ビ (新設)	2.400	
	倉庫(C)	改修前	M	ビニル床シート=2.5 (7スベストみなし含有) (撤去)	±0	ALC	珪藻土25 H=100	OP (撤去)	ALC	樹脂アスター塗	—	LGS (撤去)	GB-D t=9 (7スベストみなし含有) (撤去)	—	塩ビ (撤去)	2.700		室名札(撤去) 天井点検口(撤去)	
		改修後	M (下地調整)	ビニル床シート=2.5 木目 (新設)	±0	ALC (既存のまま)	珪藻土25 H=100 (既存のまま)	SOP (塗替)	ALC (既存のまま)	樹脂アスター塗 (下地調整)	EP-G (新設)	—	—	—	—	—	2.920		室名札(新設) 備品: スチールラック(新設)
	更衣室	改修前	M	ビニル床シート=2.5 (7スベストみなし含有) (撤去)	±0	ALC	ビニル巾木 H=100 (撤去)	—	ALC	樹脂アスター塗	—	LGS	GB-D t=9 (7スベストみなし含有) (撤去)	—	塩ビ (撤去)	2.400		ロッカー 室名札(撤去) 天井点検口(撤去)	
		改修後	M (下地調整)	ビニル床シート=2.5 木目 (新設)	±0	ALC (既存のまま)	ビニル巾木 H=100 (新設)	—	ALC (既存のまま)	樹脂アスター塗 (下地調整)	EP-G (新設)	LGS (既存のまま)	GB-D t=9.5 (新設)	EP-G (新設)	塩ビ (新設)	2.400		ロッカー SOP塗(塗替) 室名札(新設) 天井点検口(新設)	

凡例		凡例		凡例		凡例	
符号	名称	符号	名称	符号	名称	符号	名称
M	モルタル	OP	油性調合ペイント	GB-S	耐水ボード	FK	けい酸カルシウム板
C	コンクリート	SOP	合成樹脂調合ペイント	GB-R	石膏ボード	FK-D	化粧けい酸カルシウム板
CB	コンクリートブロック	EP	合成樹脂エマルジョンペイント	GB-D	化粧石膏ボード		
RC	鉄筋コンクリート	EP-G	つや有合成樹脂エマルジョンペイント	GB-F	強化石膏ボード		
LGS	軽量鉄骨下地	AEP	アクリル樹脂水性エマルジョンペイント	GB-R-H	普通硬質強化石膏ボード		
				DR	ロックウール化粧吸音板		

階	室名	床			巾木			腰壁・壁			天井					備考			
		下地	仕上	床レベル	下地	仕上	塗装	下地	仕上	塗装	下地	仕上	塗装	廻り縁	天井高(CH)		梁型		
2	便所 (男・女)	改修前	シート防水 t=2.0の上 M	磁器25角タイル イタイル	-100	—	—	—	M	磁器100角タイル	—	LGS	FK t=6 (7スレスタみなし含有)	(撤去)	EP (撤去)	塩ビ (撤去)	2.400		トイレス(撤去) 室名札×2(撤去) 天井点検口×2(撤去)
		改修後	シート防水 t=2.0の上 M (既存のまま)	磁器25角タイル 均しタイルの上 木製床組H50 構造用合板t=12 フッ合板t=12 耐水合板t=5.5 塩ビシートt=2.5 木目 (既存のまま)	±0	M (既存目荒し)	床材立上げ H=60 (新設) 見切り金物 (新設)	—	M (既存目荒し)	磁器100角タイル FK-D t=6 接着張り (既存のまま) (新設)	—	LGS (既存のまま)	FK t=6 (新設)	(新設)	EP (新設)	塩ビ (新設)	2.300		トイレス 木目(新設) 室名札×2(新設) 天井点検口×2(新設)
	屋内運動場	改修前	C	鋼製床組み 合板t=12 HPシム70-リング t=15(フナ) ウレタン塗装3回塗	±0	ALC	フッt=25 H=100	OP (撤去)	ALC	木毛版t=30 フッt=30×45@100・60×25 T2シナベニヤt=6.0 ビニルクロス張 (撤去)	OP (撤去)	S	屋根下地材現し ギャラリー裏: T2シナベニヤt=6.0 ビニルクロス張 (撤去) (撤去)	—	—	—		暗幕BOX(一部撤去) 暗幕・防球ネット(一時撤去) 手摺 昇降器具(撤去) 消火器表示板(撤去)	
		改修後	C (既存のまま)	鋼製床組み 合板t=12 HPシム70-リング t=15(フナ) ウレタン塗装3回塗	±0	ALC (既存のまま)	フッt=25 H=100 (既存のまま)	SOP (塗替)	ALC (既存のまま)	木毛版t=30 フッt=30×45@100・60×25 T2シナベニヤt=6.0 (既存のまま) (新設)	SOP (塗替)	S (既存のまま)	屋根下地材現し (既存のまま) ギャラリー裏: T2シナベニヤt=5.5 ビニルクロス張 (新設) (新設)	—	—	—		暗幕BOX(一部新設・一部SOP塗替) 暗幕・防球ネット(再取付) 手摺 SOP(塗替) 昇降器具(新設) 消火器表示板(新設)	
	ステージ	改修前	C	鋼製床組み 合板t=12 HPシム70-リング t=15(フナ) ウレタン塗装3回塗	+1000	ALC	フッt=25 H=100	OP (撤去)	ALC	T2シナベニヤt=5.5 目透かし ALC版 t=100 現し	OS	C		—	—	—		暗幕BOX 手摺 幕(撤去) 緞帳(一時撤去)	
		改修後	C (既存のまま)	鋼製床組み 合板t=12 HPシム70-リング t=15(フナ) ウレタン塗装3回塗	+1000	ALC (既存のまま)	フッt=25 H=100 (既存のまま)	SOP (塗替)	ALC (既存のまま)	T2シナベニヤt=5.5 目透かし ALC版 t=100 現し (既存のまま) (既存のまま)	OS (既存のまま)	C (既存のまま)		—	—	—		暗幕BOX(既存のまま) 手摺 SOP(塗替) 幕(新設) 緞帳(再取付)	
	物入 (ステージ下)	改修前	C	コンクリート金コシ押え	±0	ALC	雑巾摺	—	ALC	ALC版 t=100 現し	—	S	ステージ下合板現し	—	—	—		前面ハコ(撤去)	
		改修後	C (既存のまま)	コンクリート金コシ押え (既存のまま)	±0	ALC (既存のまま)	雑巾摺 (既存のまま)	—	ALC (既存のまま)	ALC版 t=100 現し (既存のまま)	—	S (既存のまま)	ステージ下合板現し (既存のまま)	—	—	—		前面ハコ(新設)	
	控室	改修前	C	モルタル金コシ押え ビニル床シートt=2.5	±0	ALC	フッt=25 H=100	OP	ALC	T2シナベニヤt=5.5 目透かし ALC版 t=100 現し	OS	C	屋根下地材現し	—	—	—		暗幕BOX SOP(塗替)	
		改修後	C (既存のまま)	モルタル金コシ押え ビニル床シートt=2.5 (既存のまま)	±0	ALC (既存のまま)	フッt=25 H=100 (既存のまま)	OP (既存のまま)	ALC (既存のまま)	T2シナベニヤt=5.5 目透かし ALC版 t=100 現し (既存のまま) (既存のまま)	OS (既存のまま)	C (既存のまま)	屋根下地材現し (既存のまま)	—	—	—		暗幕BOX(既存のまま)	
中2	屋内運動場 ギャラリー	改修前	C	モルタル金コシ押え ビニルタイル		C	フッt=25 H=100	OP (撤去)	C	T2シナベニヤt=5.5 目透かし	OP	S	屋根下地材現し	—	—	—		手摺 暗幕BOX	
		改修後	C (既存のまま)	モルタル金コシ押え ビニルタイル (既存のまま)		C (既存のまま)	フッt=25 H=100 (既存のまま)	SOP (新設)	C 鉄骨現し	T2シナベニヤt=5.5 目透かし (既存のまま)	OP (既存のまま)	S (既存のまま)	屋根下地材現し (既存のまま)	—	—	—		手摺 SOP(塗替) 暗幕BOX(既存のまま)	

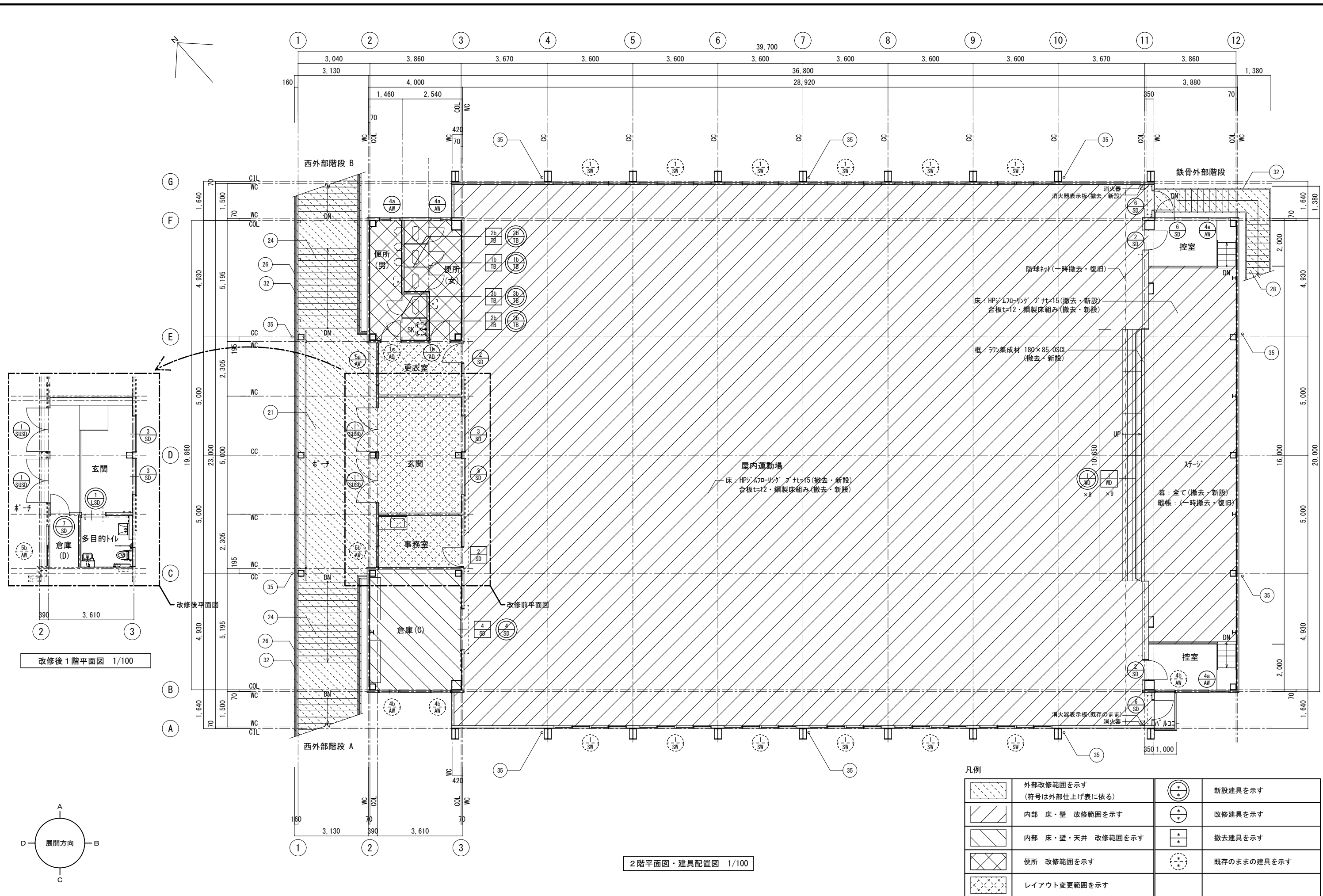
凡例		凡例		凡例		凡例		凡例	
符号	名称	符号	名称	符号	名称	符号	名称	符号	名称
M	モルタル	OP	油性調合ペイント	GB-S	耐水ボード	FK	けい酸カルシウム板		
C	コンクリート	SOP	合成樹脂調合ペイント	GB-R	石膏ボード	FK-D	化粧けい酸カルシウム板		
CB	コンクリートブロック	EP	合成樹脂エマルジョンペイント	GB-D	化粧石膏ボード				
RC	鉄筋コンクリート	EP-G	つや有合成樹脂エマルジョンペイント	GB-F	強化石膏ボード				
LGS	軽量鉄骨下地	AEP	アクリル樹脂水性エマルジョンペイント	GB-R-H	普通硬質強化石膏ボード				
				DR	ロックウール化粧吸音板				



1階平面図・建具配置図 1/100

凡例

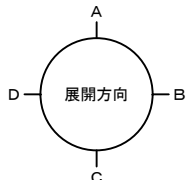
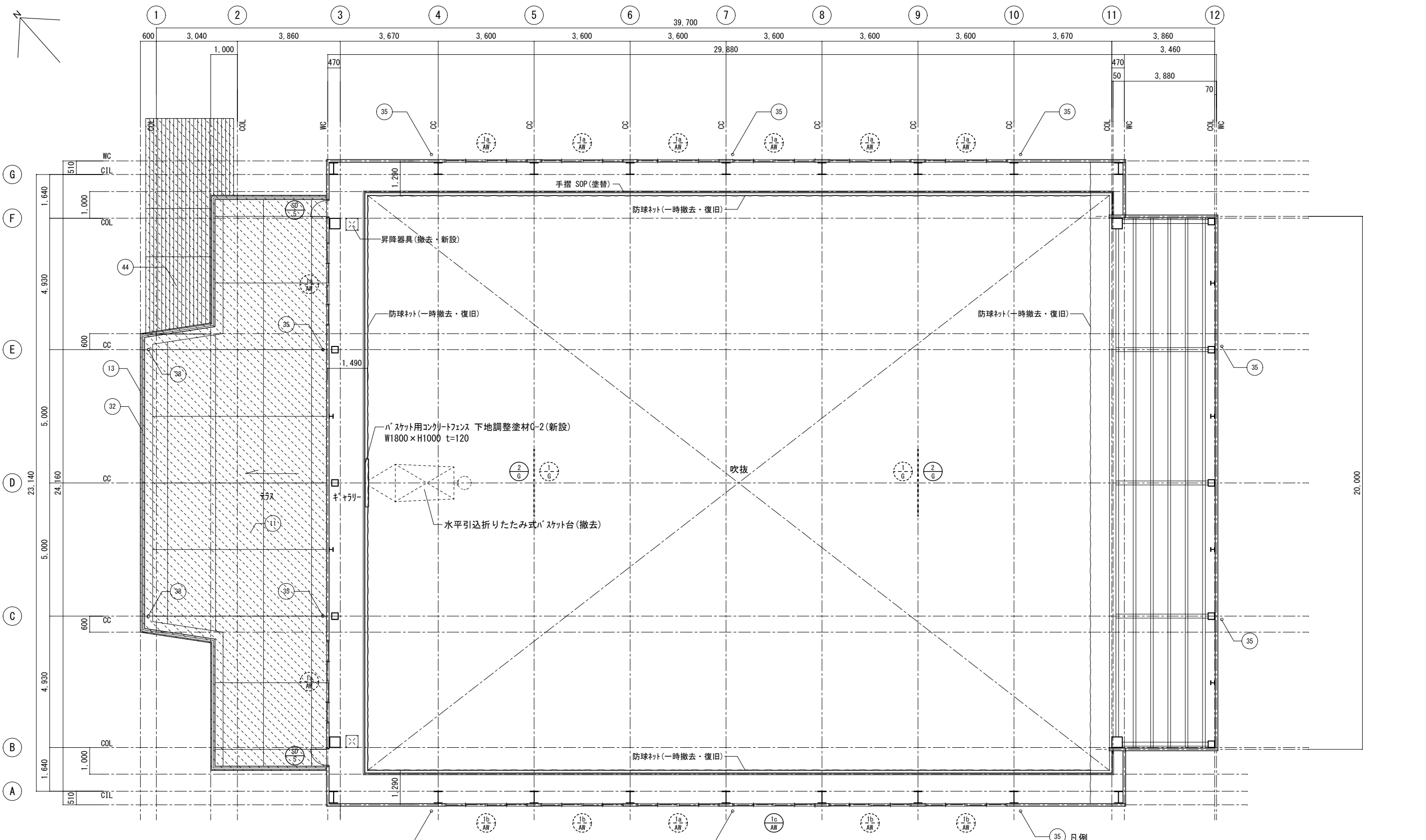
	外部改修範囲を示す (符号は外部仕上げ表に依る)		新設建具を示す
	内部 床・壁 改修範囲を示す		改修建具を示す
	内部 床・壁・天井 改修範囲を示す		撤去建具を示す
	便所 改修範囲を示す		既存のままの建具を示す
	レイアウト変更範囲を示す		



改修後1階平面図 1/100

2階平面図・建具配置図 1/100

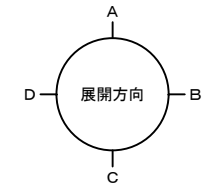
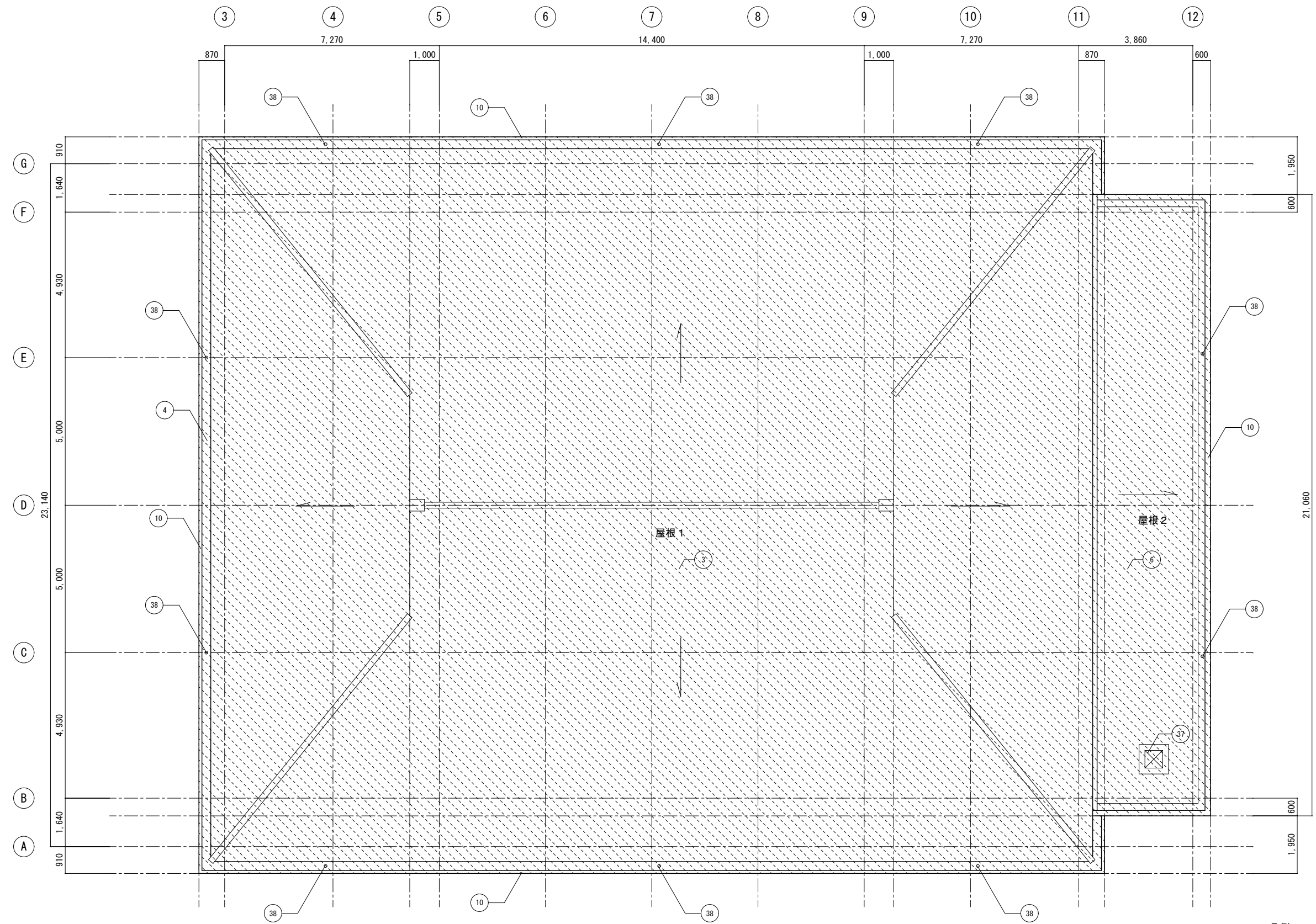
凡例	
	外部改修範囲を示す (符号は外部仕上げ表に依る)
	内部 床・壁 改修範囲を示す
	内部 床・壁・天井 改修範囲を示す
	便所 改修範囲を示す
	レイアウト変更範囲を示す
	新設建具を示す
	改修建具を示す
	撤去建具を示す
	既存のままの建具を示す



ギャラリー平面図・建具配置図 1/100

	外部改修範囲を示す (符号は外部仕上げ表に依る)		新設建具を示す
	内部 床・壁 改修範囲を示す		改修建具を示す
	内部 床・壁・天井 改修範囲を示す		撤去建具を示す
	便所 改修範囲を示す		既存のままの建具を示す
	レイアウト変更範囲を示す		

事業年度	年度	設計	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名	図面名称・縮尺 S=1/100	(A3版=71%縮小)	図番
工事完成	年度	令和 年月						建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	ギャラリー平面図・建具配置図		A-22

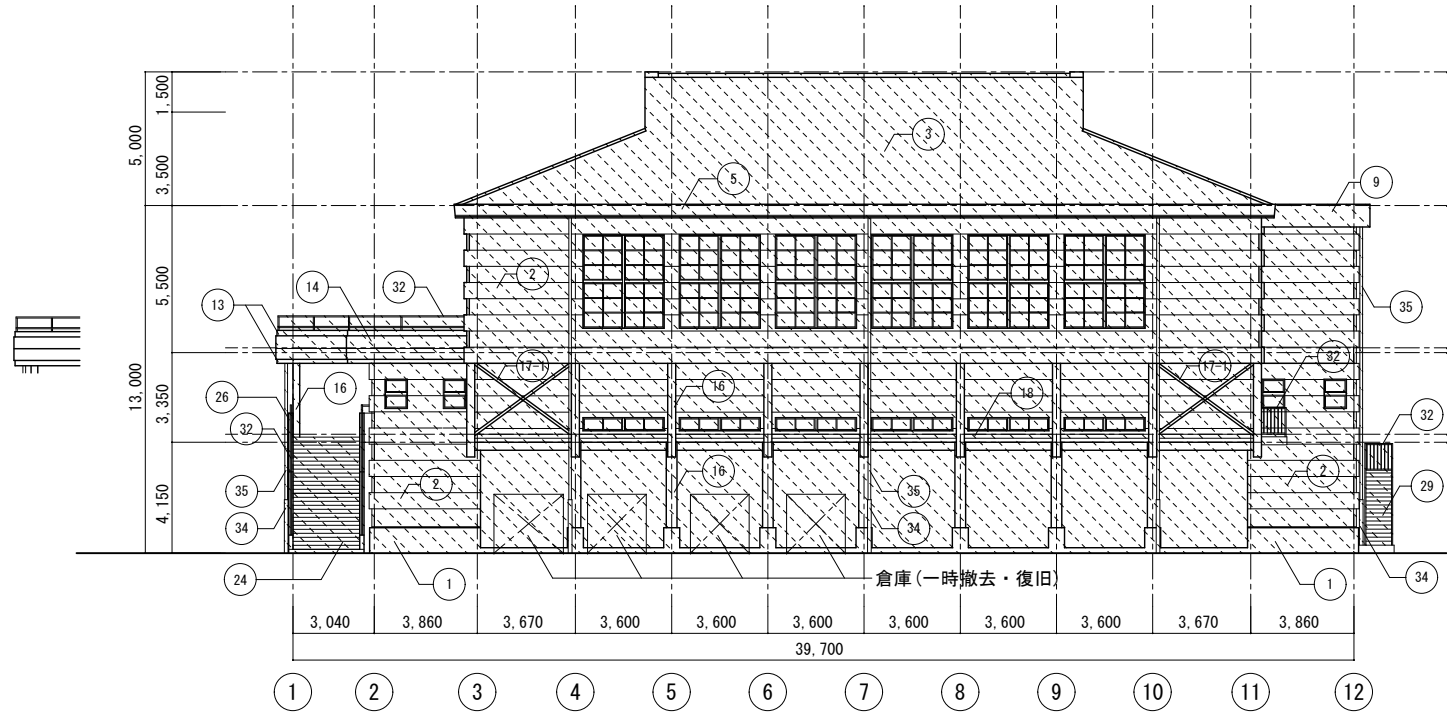


屋根伏図 1/100

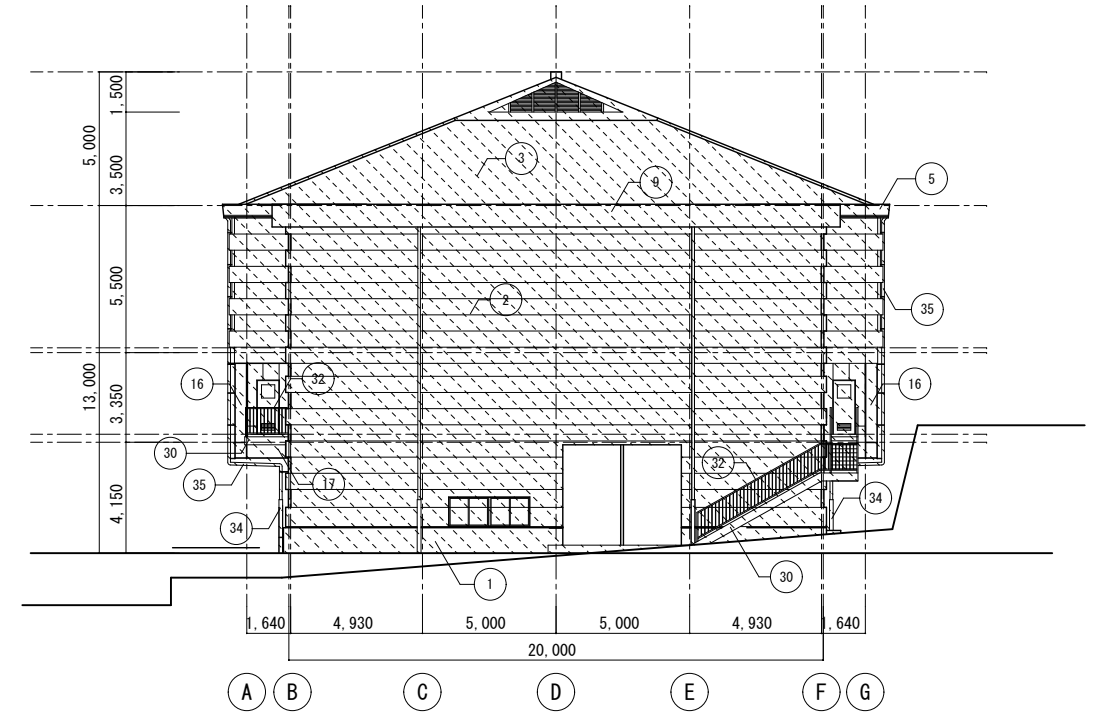
凡例

	外部改修範囲を示す (符号は外部仕上げ表に依る)
	内部 床・壁 改修範囲を示す
	内部 床・壁・天井 改修範囲を示す
	便所 改修範囲を示す
	レイアウト変更範囲を示す

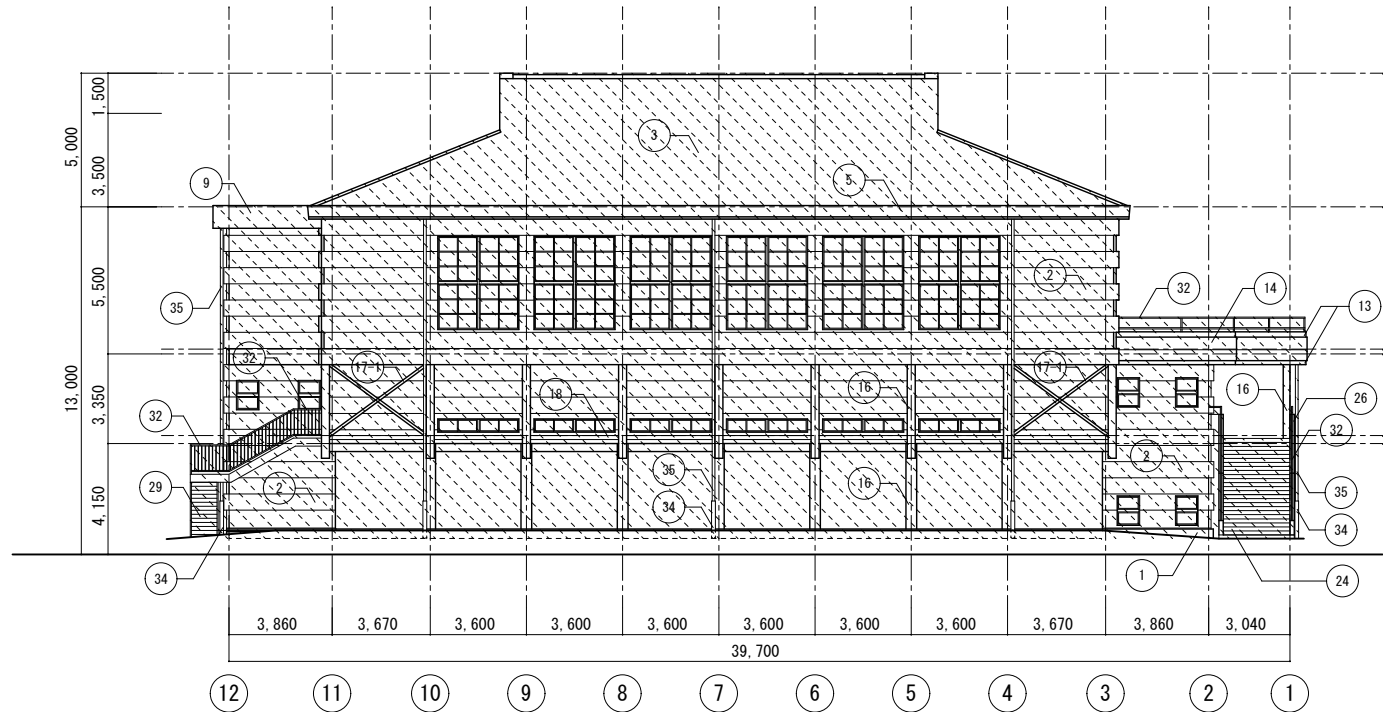
事業年度 年度	設計 令和 年月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/100 (A3版=71%縮小)	図番 A-23
工事完成 年度								建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事			



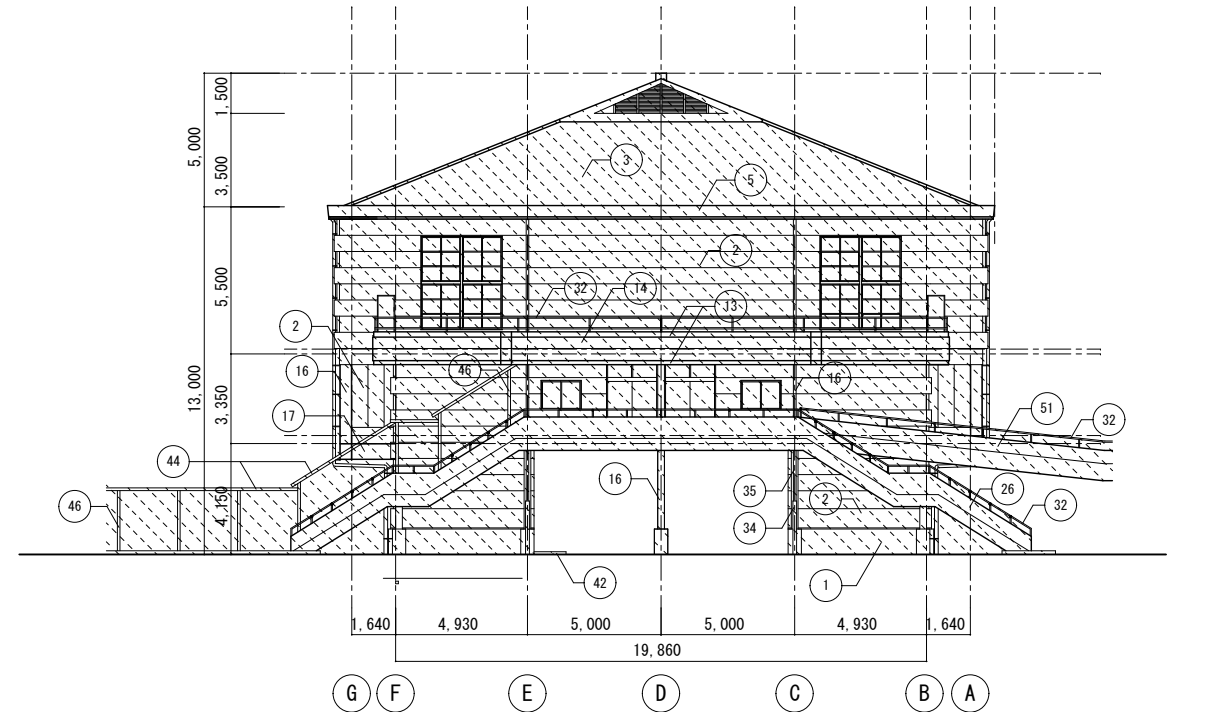
南立面図 1/200




東立面図 1/200



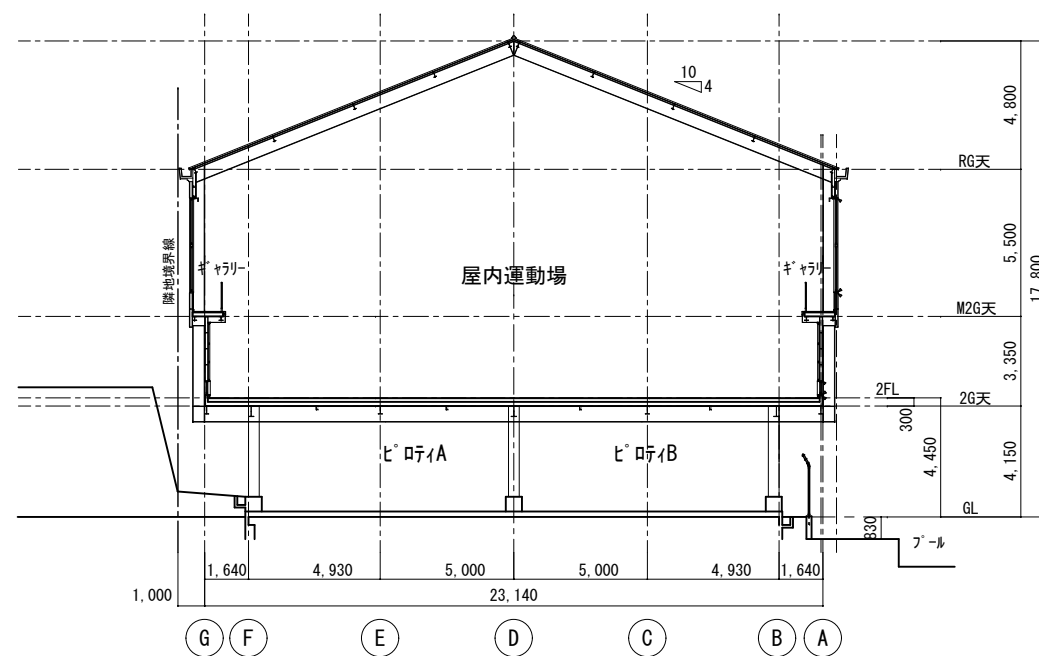
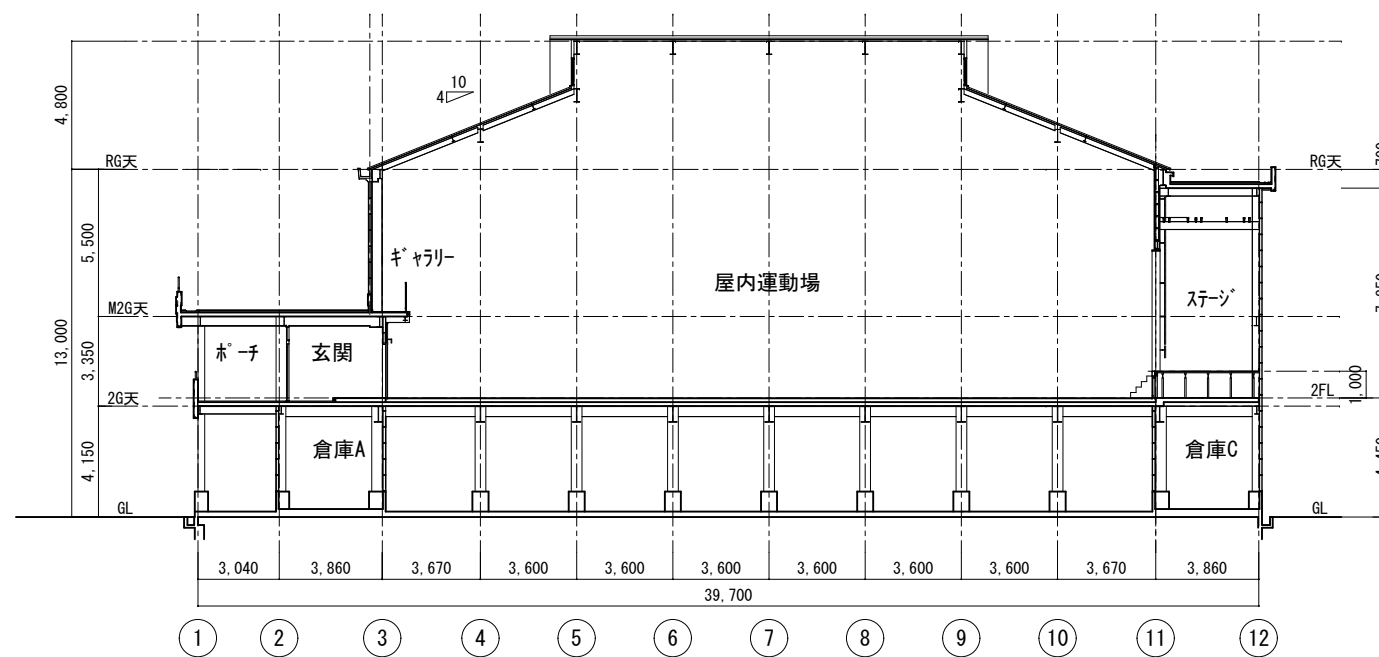
北立面図 1/200



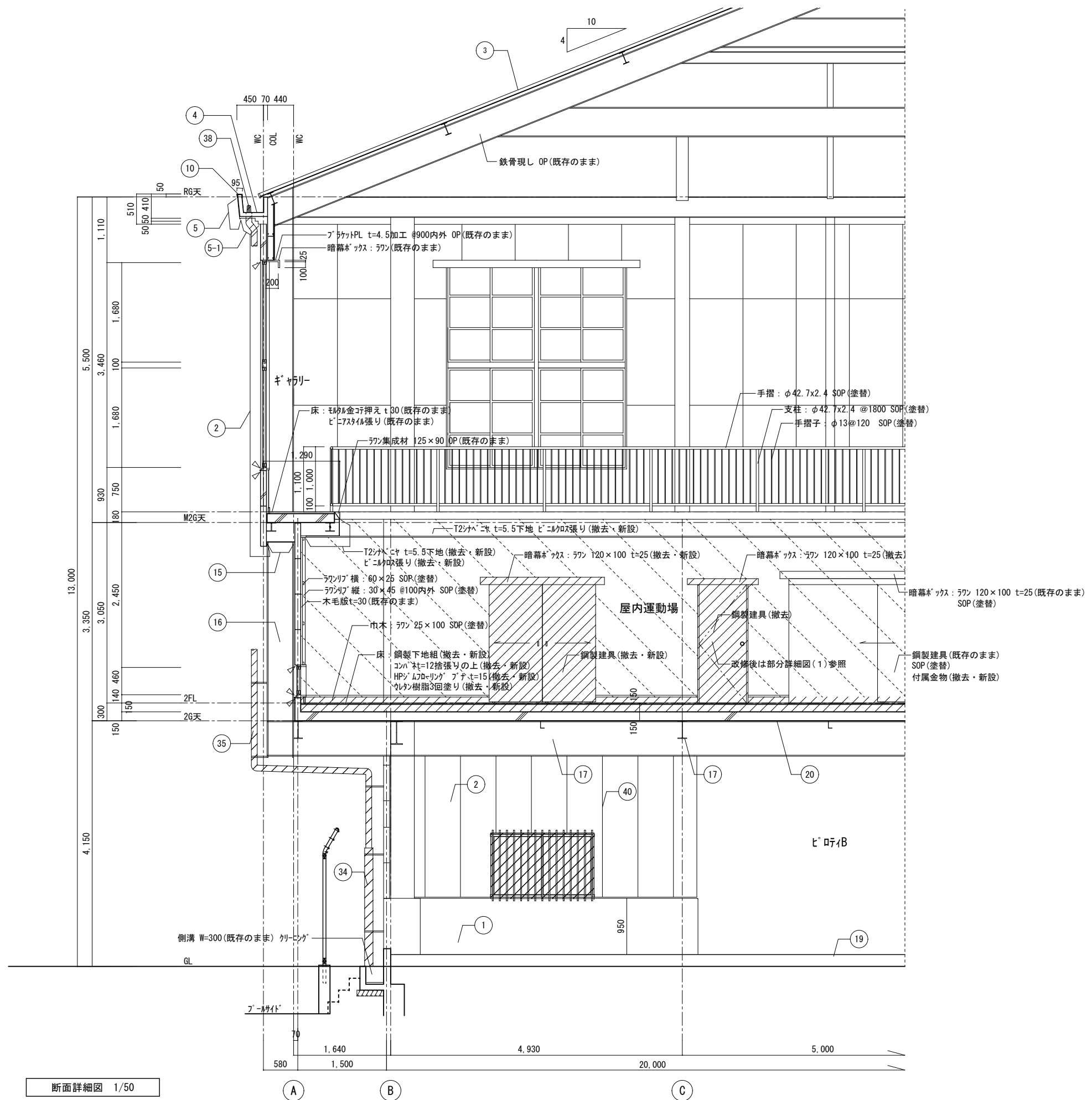
西立面図 1/200

凡例
 外部改修範囲を示す
 (符号は外部仕上げ表に依る)

事業年度 年度	設計 令和 年月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/200 立面図	(A3版=71%縮小) 図番 A-24
工事完成 年度								建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事			



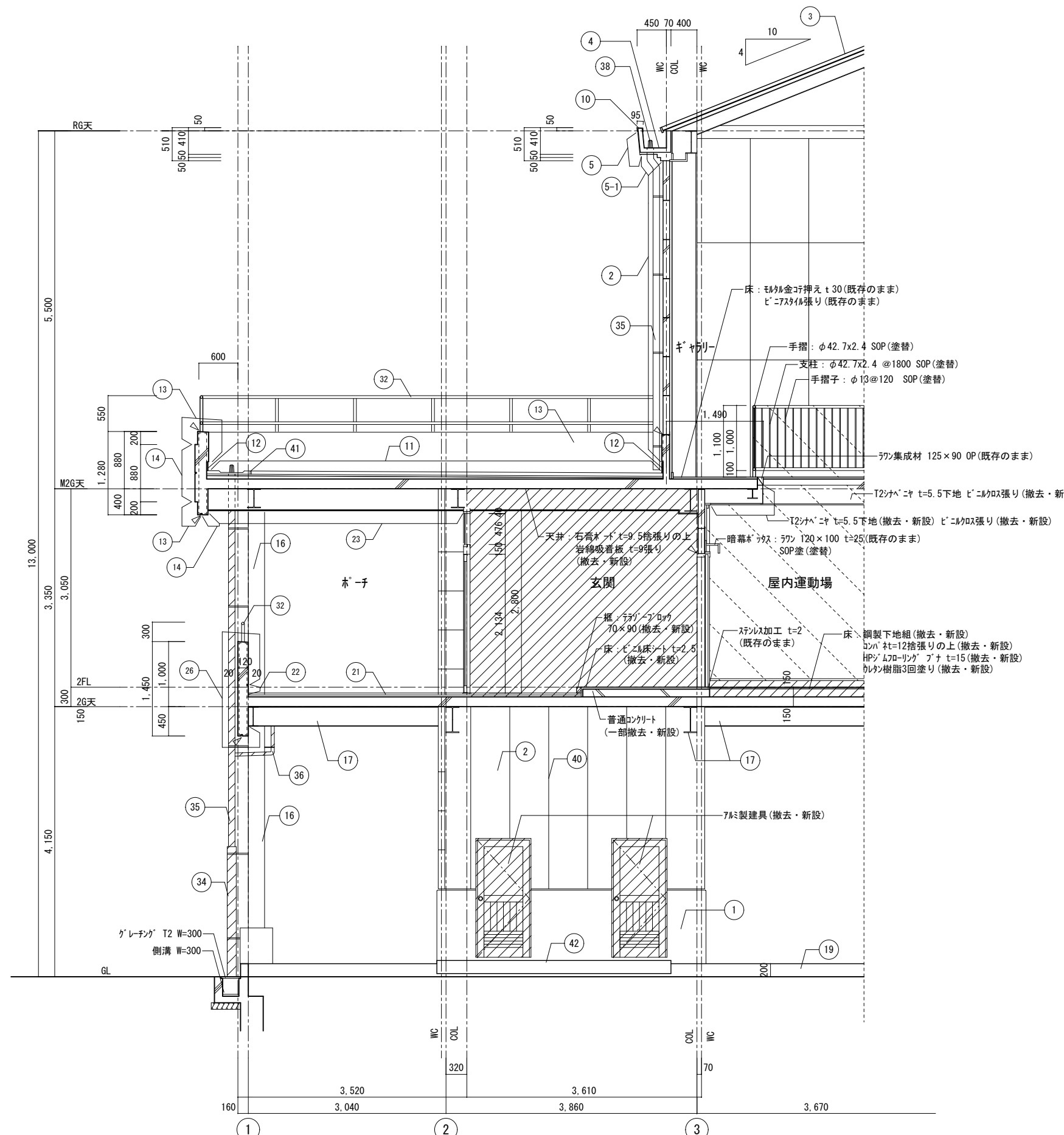
事業年度	年度	設計	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名	図面名称・縮尺	S=1/200	(A3版=71%縮小)	図番
工事完成	年度	令和 年月						建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	断面図			A-25



断面詳細図 1/50

凡例	
	内部改修を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。
	外部補修を示す (符号は外部仕上げ表に依る)

事業年度	年度	設計	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名	図面名称・縮尺	S=1/50	(A3版=71%縮小)	図番
工事完成	年度	令和 年月						建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	断面詳細図(1)			A-26
三原市都市部建築課														

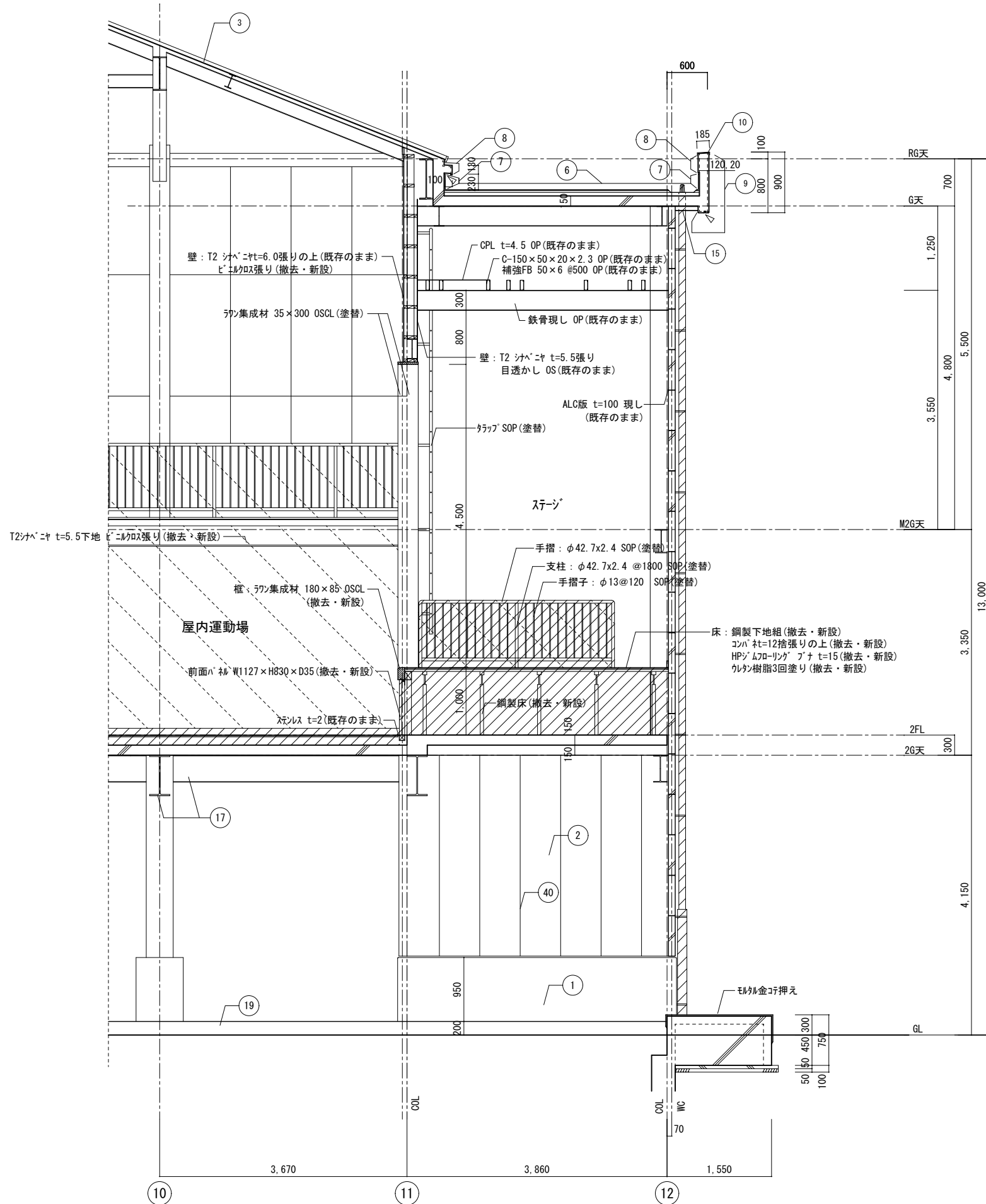


断面詳細図 1/50

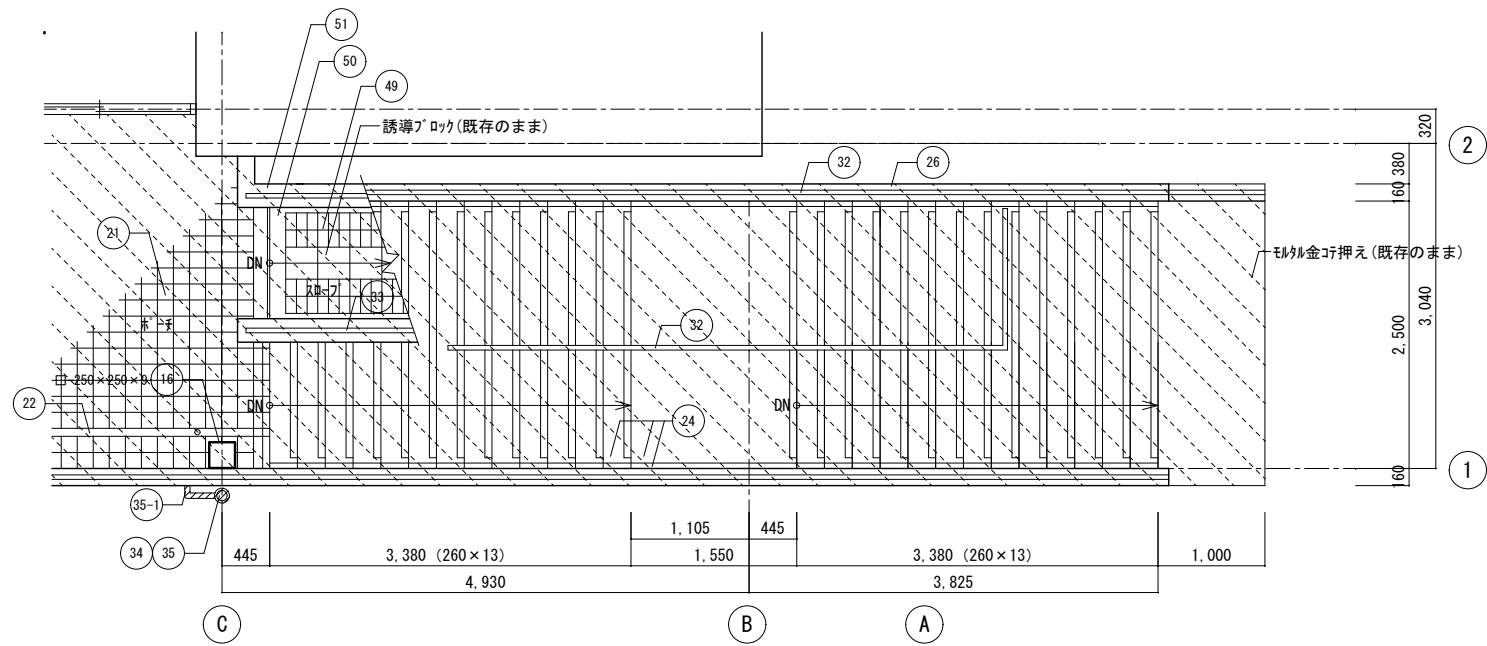
凡例

	内部改修を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。
	外部補修を示す (符号は外部仕上げ表に依る)

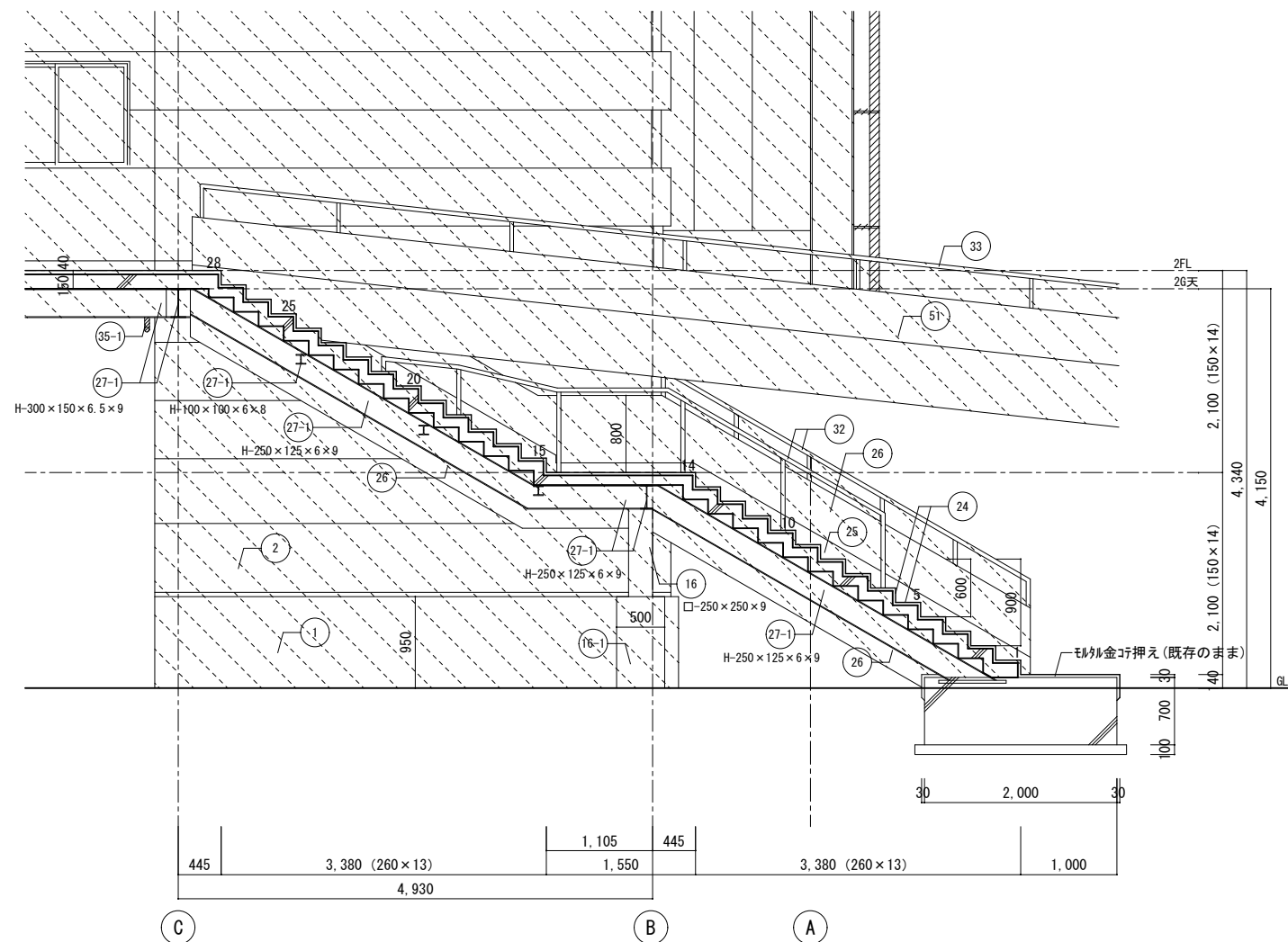
事業年度 年度	設計 令和 年月	大 中 小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/50 断面詳細図(2)	(A3版=71%縮小) 図番 A-27
工事完成 年度					建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事			



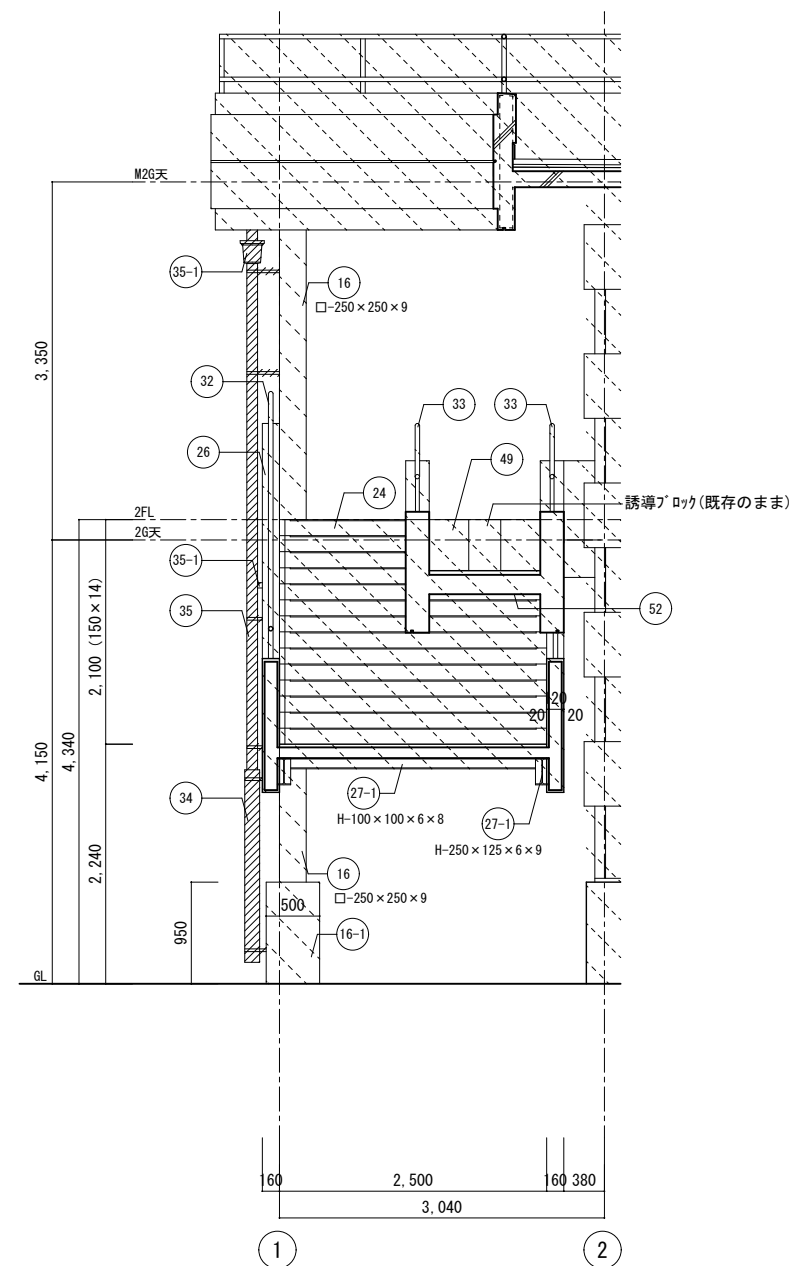
事業年度	年度	設計	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名	図面名称・縮尺	S=1/50	(A3版=71%縮小)	図番
工事完成	年度	令和 年月						建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	断面詳細図(3)			A-28



西外部階段A 平面詳細図 1/50



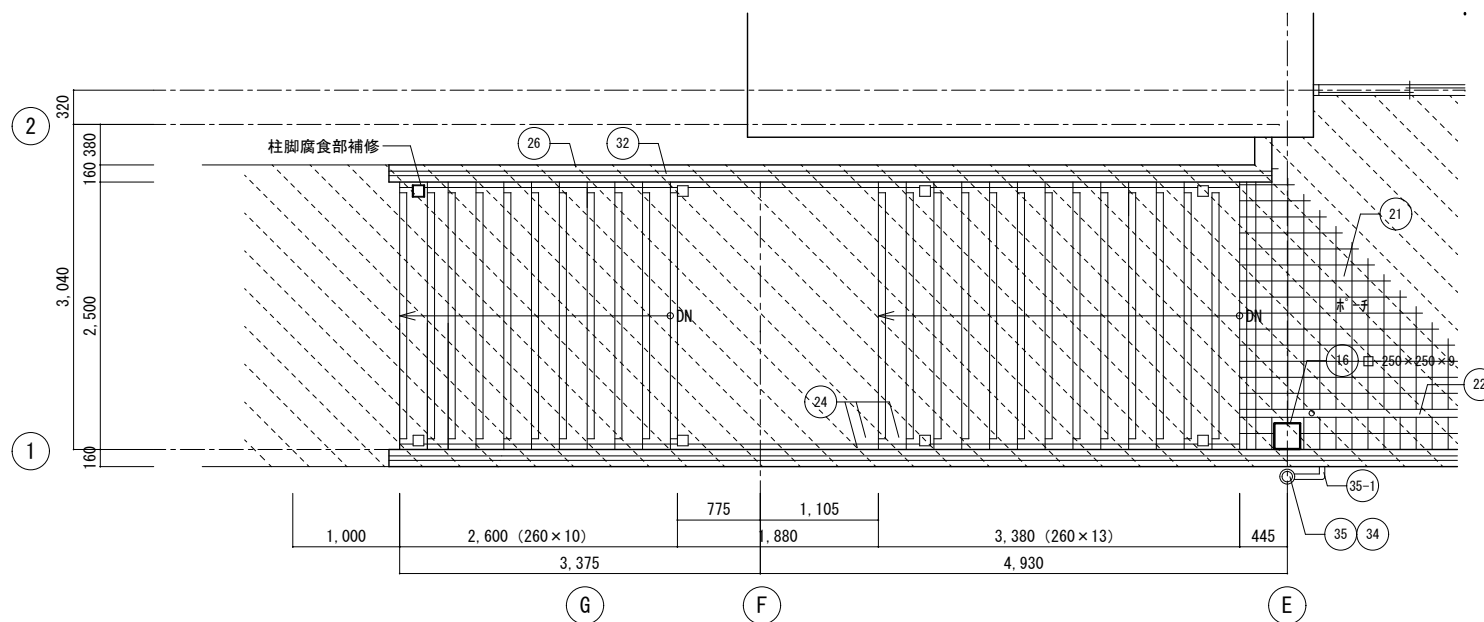
西外部階段A 断面詳細図 1/50



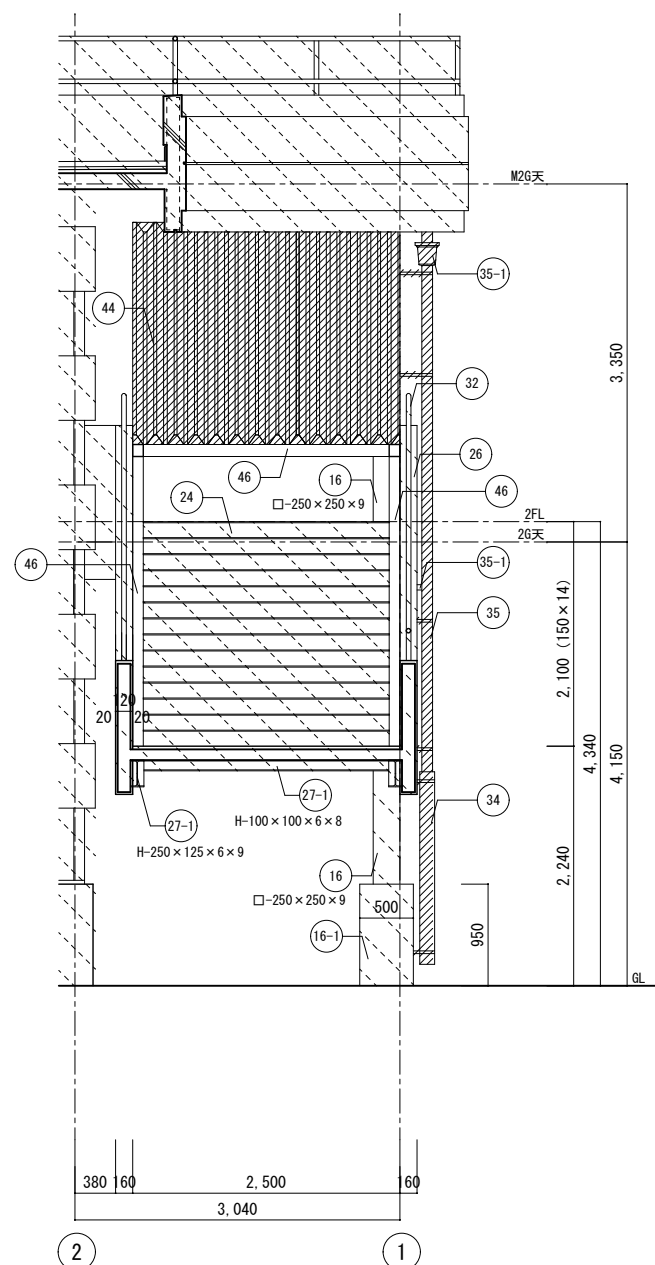
西外部階段A 断面詳細図 1/50

凡例	
	改修・補修範囲を示す
	撤去を示す
	外部補修を示す (符号は外部仕上げ表に依る)

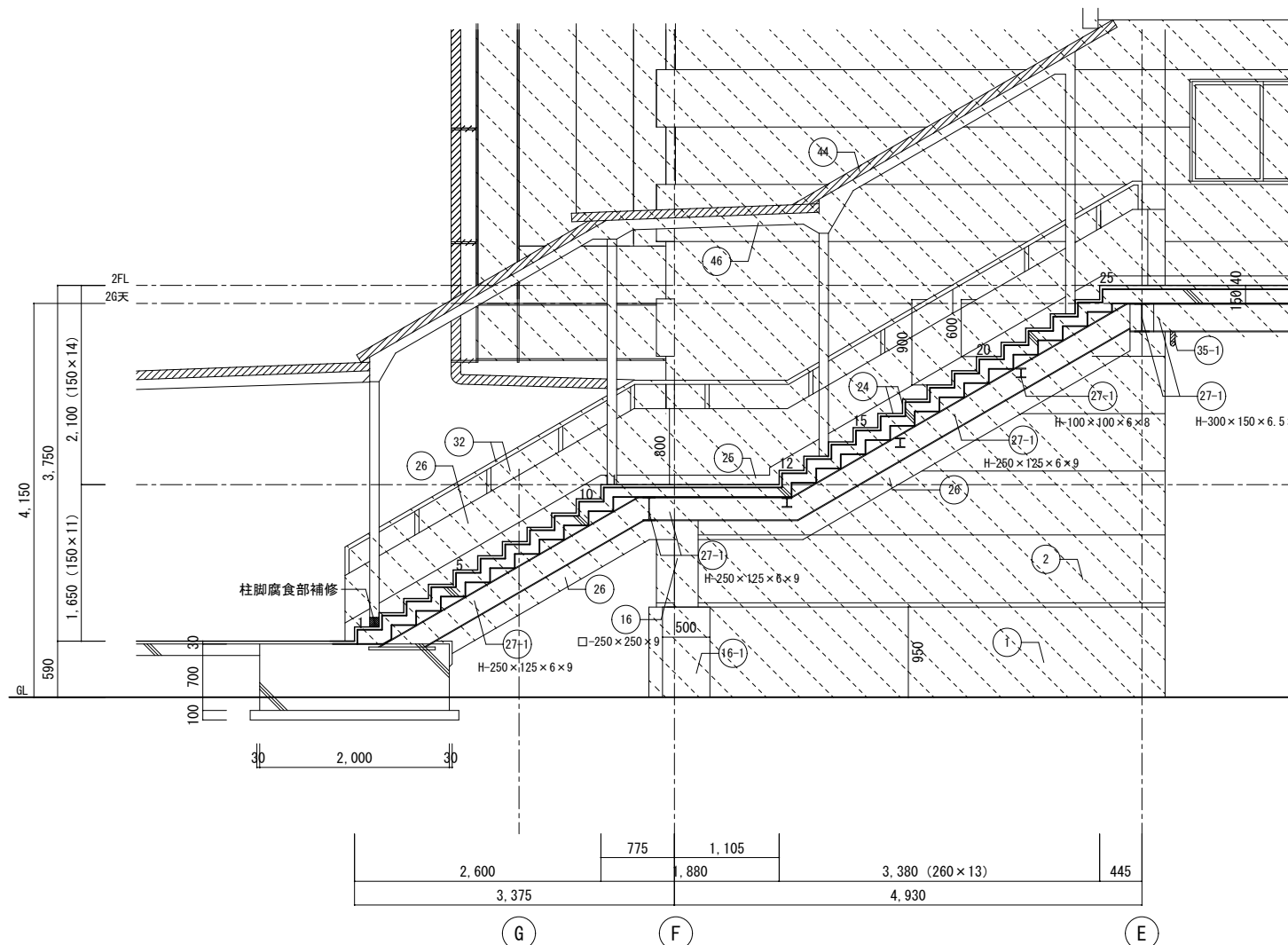
事業年度	年度	設計	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/50 (A3版=71%縮小)	図番
工事完成	年度			令和	年月	建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	西外部階段A 平面・断面詳細図	A-29				



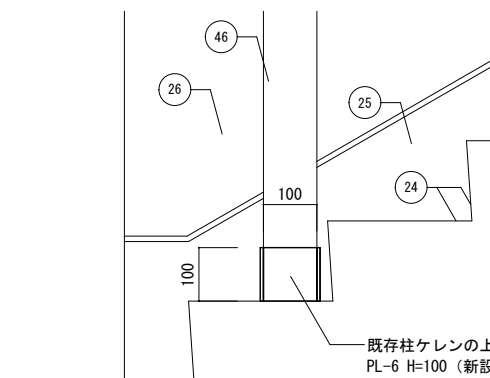
西外部階段B 平面詳細図 1/50



西外部階段B 断面詳細図 1/50



西外部階段B 断面詳細図 1/50

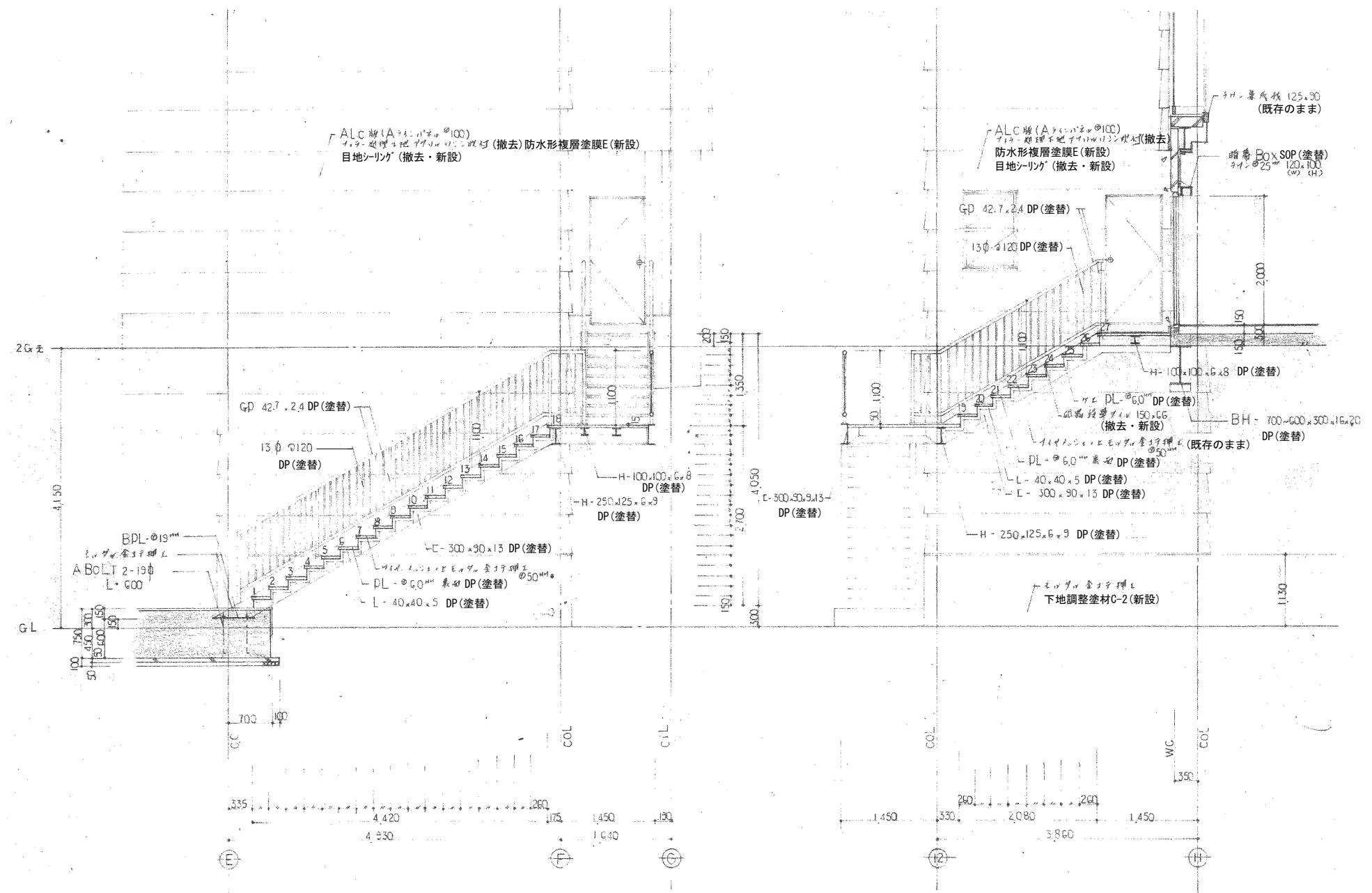


柱脚腐食部補修 部分詳細図 S=1/10

凡例

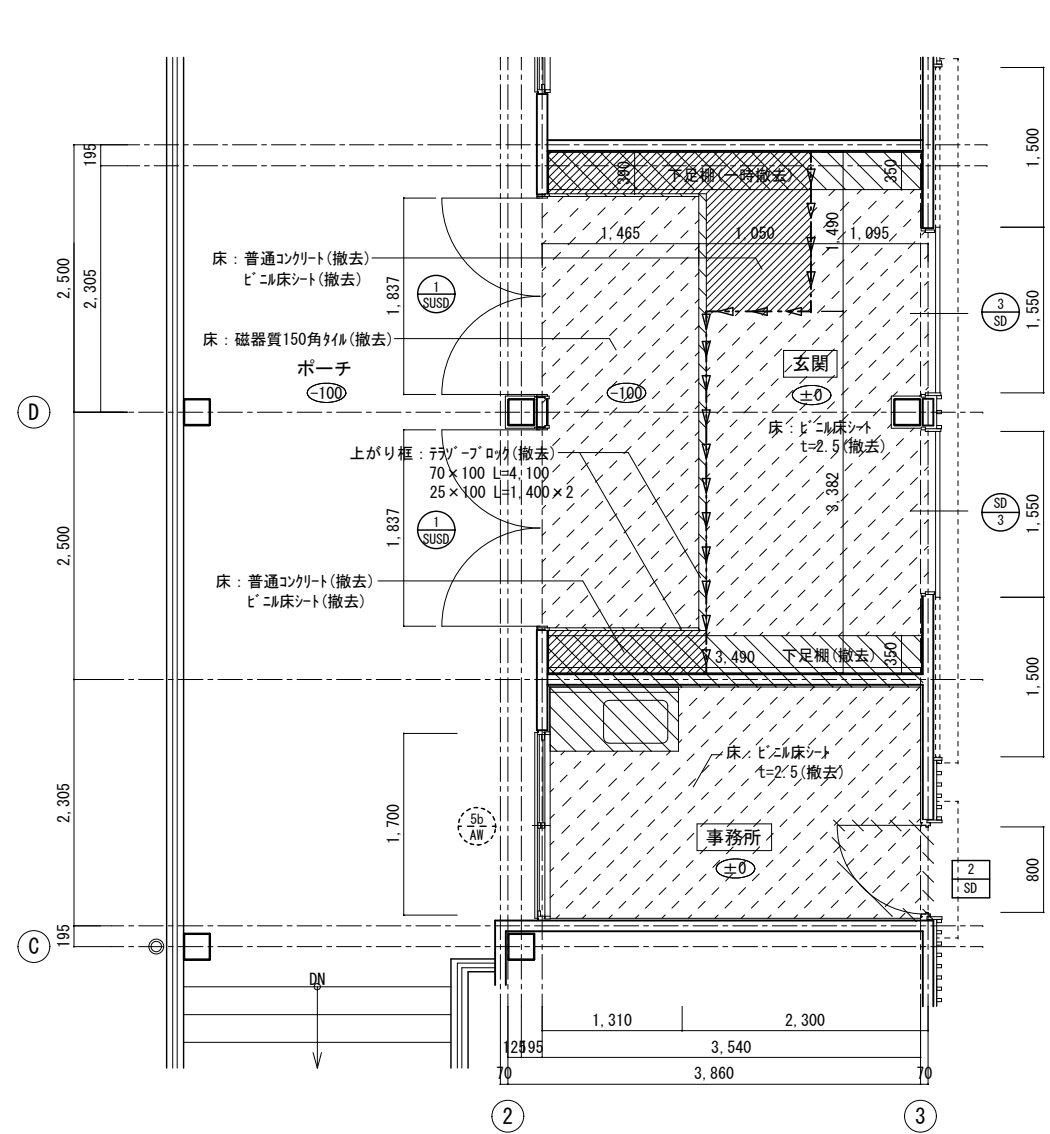
	改修・補修範囲を示す
	撤去を示す
	補修範囲を示す
	外部補修を示す (符号は外部仕上げ表に依る)

事業年度	年度	設計	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名	図面名称・縮尺	縮尺	縮尺	図番
令和	年月	三原市都市部建築課						建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	西外部階段B 平面・断面詳細図	S=1/10・1/50	(A3版=71%縮小)	A-30

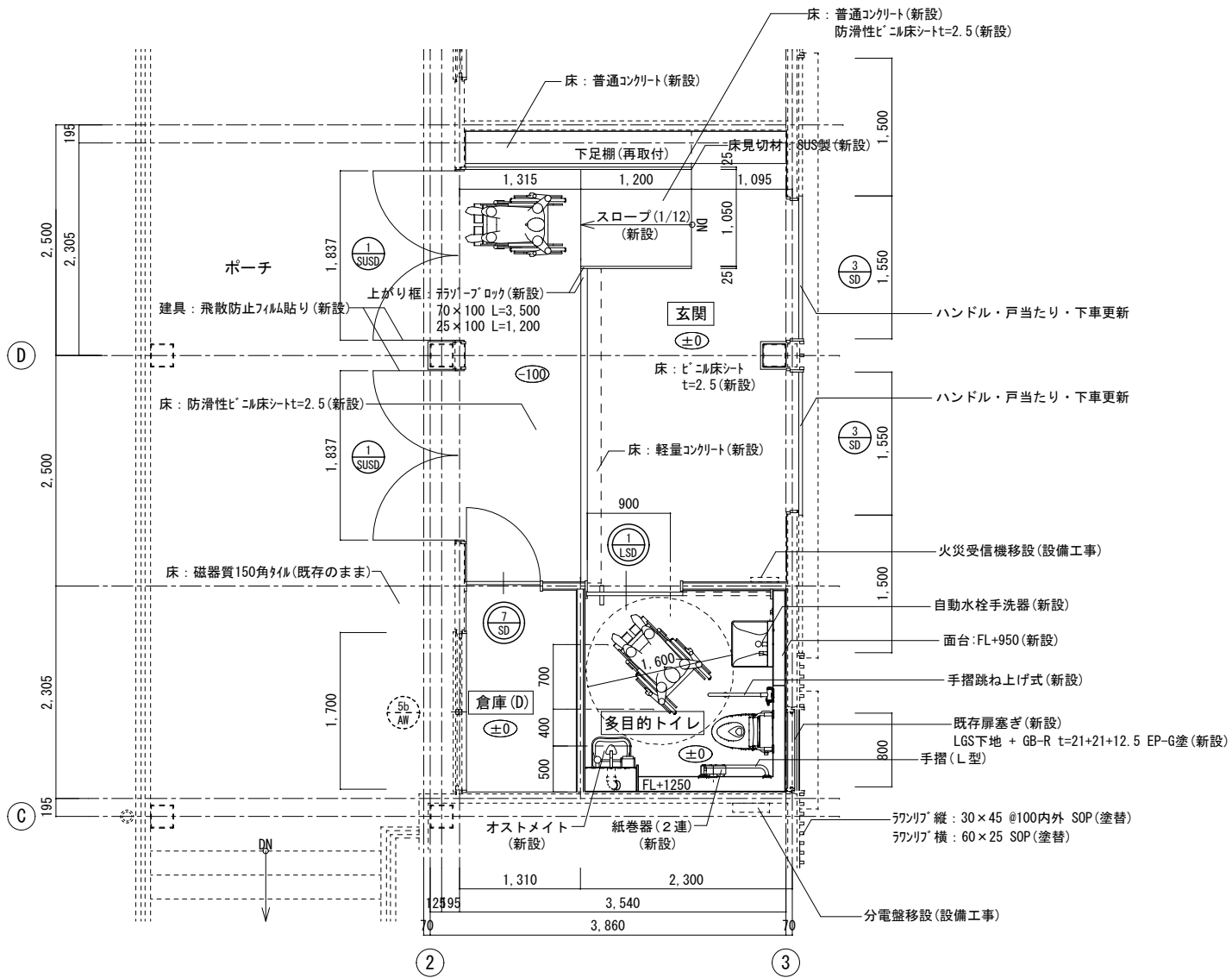


鉄骨外部階段 断面詳細図 1/50

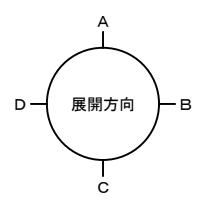
事業年度 年度	設計 令和 年月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/50 (A3版=71%縮小)	図番 A-31
工事完成 年度								建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事		鉄骨外部階段 断面詳細図	



改修前 平面詳細図 1:50



改修後 平面詳細図 1:50

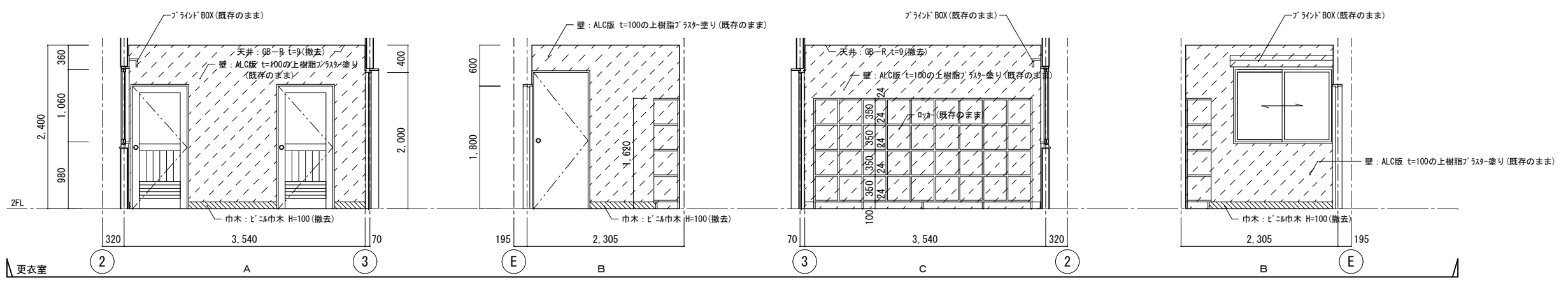
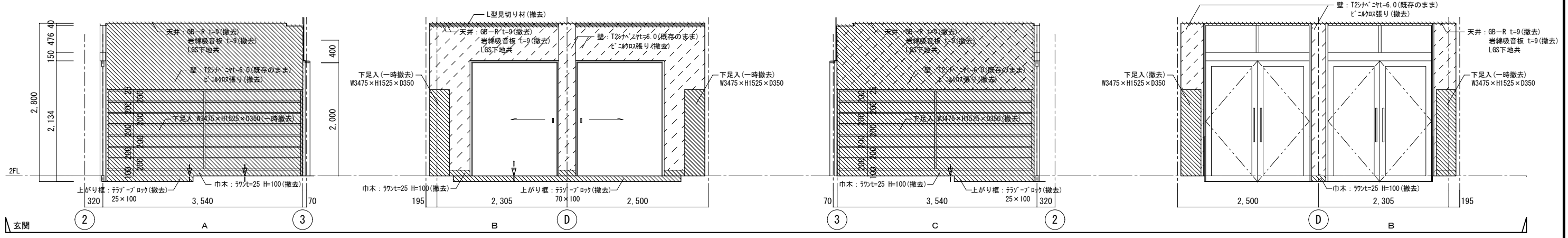
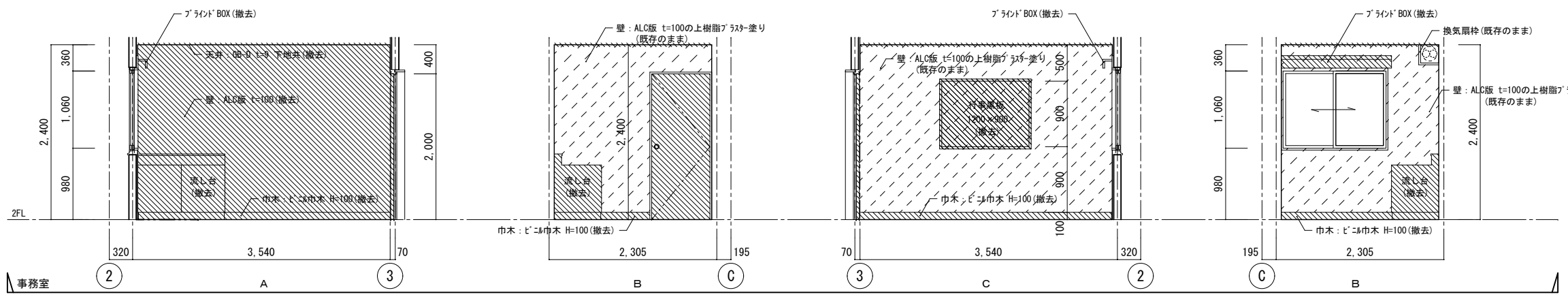


凡例

室名	工事対象室を示す。		新設建具を示す
±0	2FLからのレベルを示す。		改修建具を示す
	撤去範囲を示す		撤去建具を示す
	床 軽量コンクリート撤去範囲を示す		既存のままの建具を示す
	改修範囲を示す		カッター切を示す。

事業年度 年度	設計 令和 年月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/50 (A3版=71%縮小)	図番
工事完成 年度								建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事		改修前後 2階平面詳細図	A-32

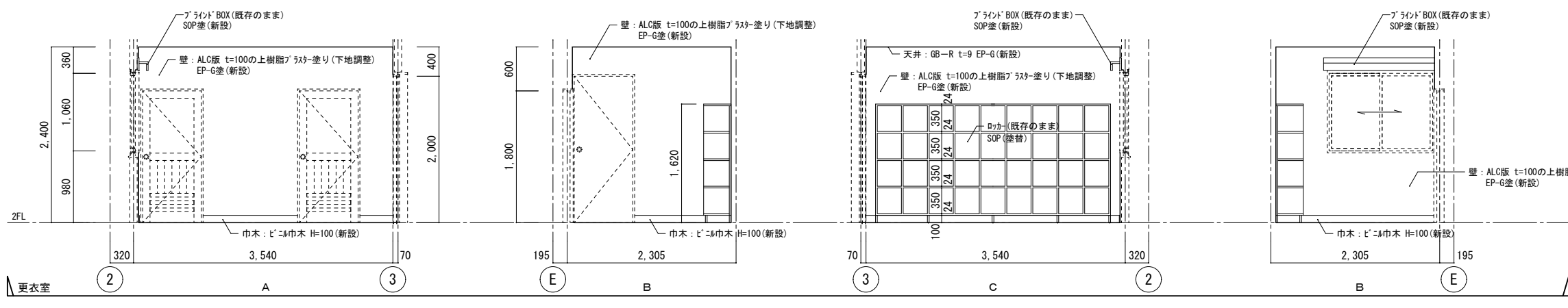
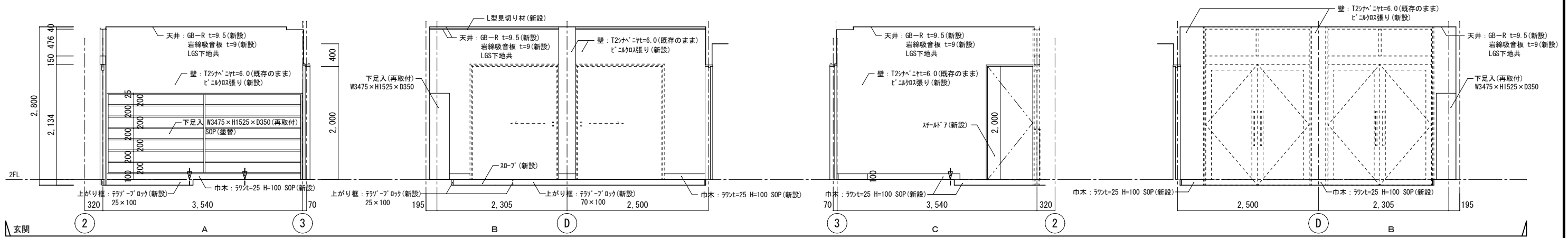
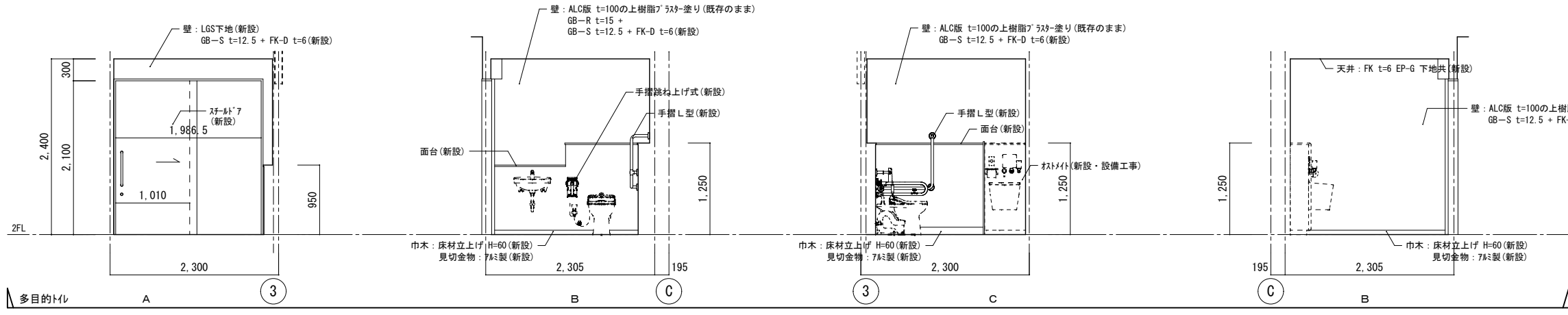
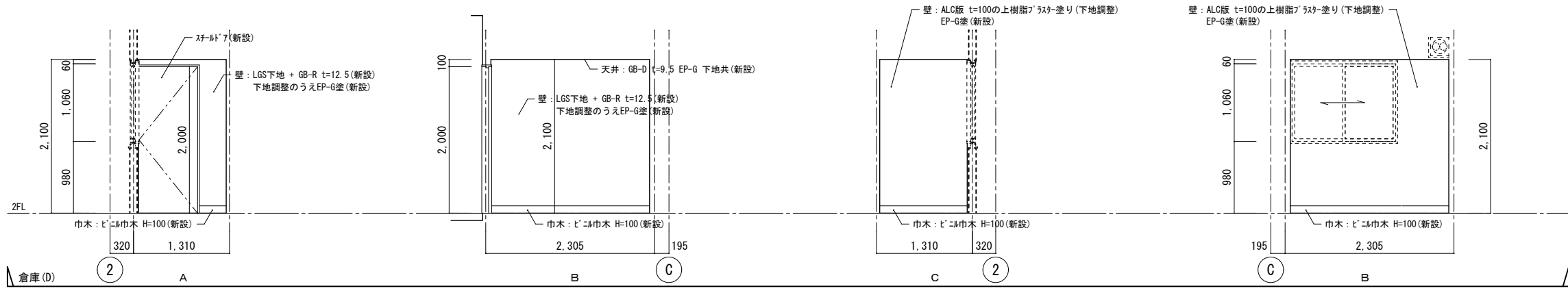
	改修範囲を示す
	撤去範囲を示す
	カッター一切を示す。



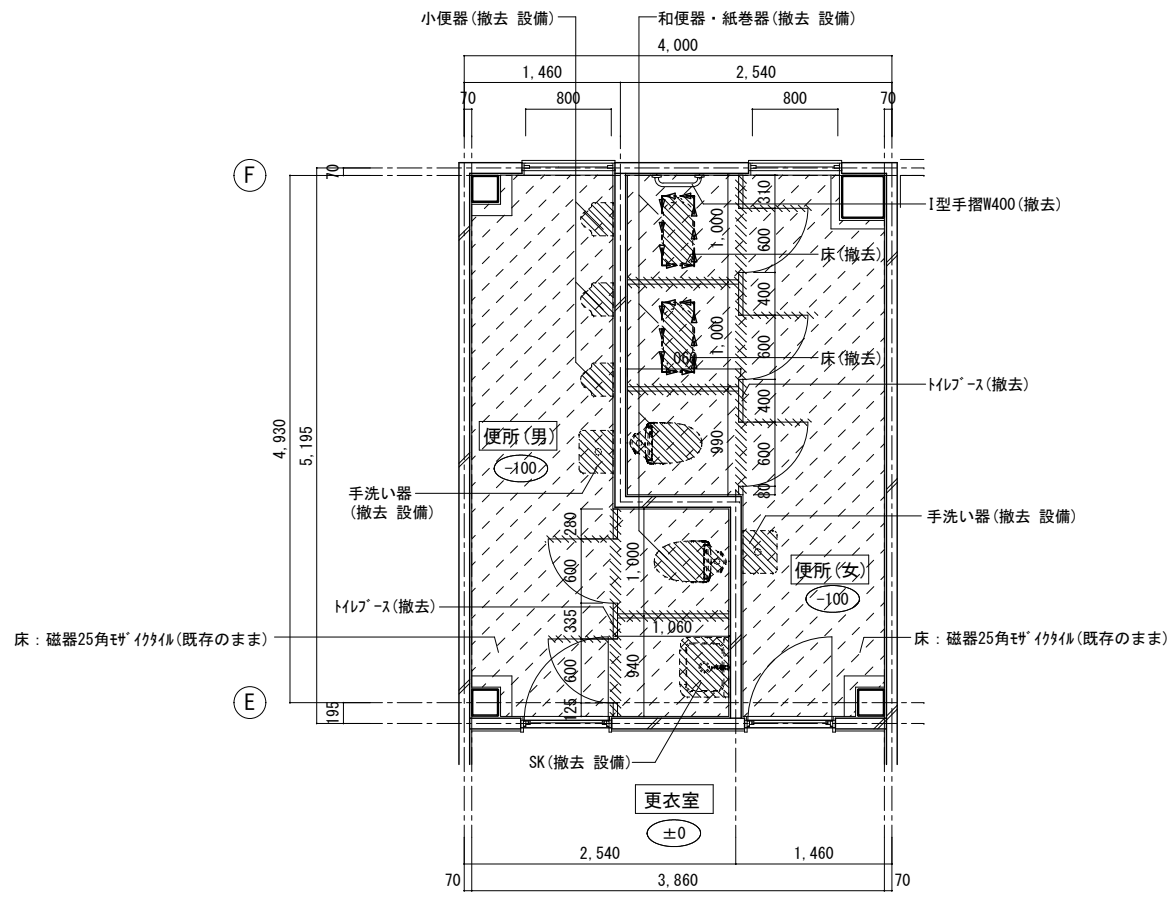
事業年度 年度	設計 令和 年月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/50 改修前 2階展開図	(A3版=71%縮小)	図番 A-33
工事完成 年度								建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事				

凡例

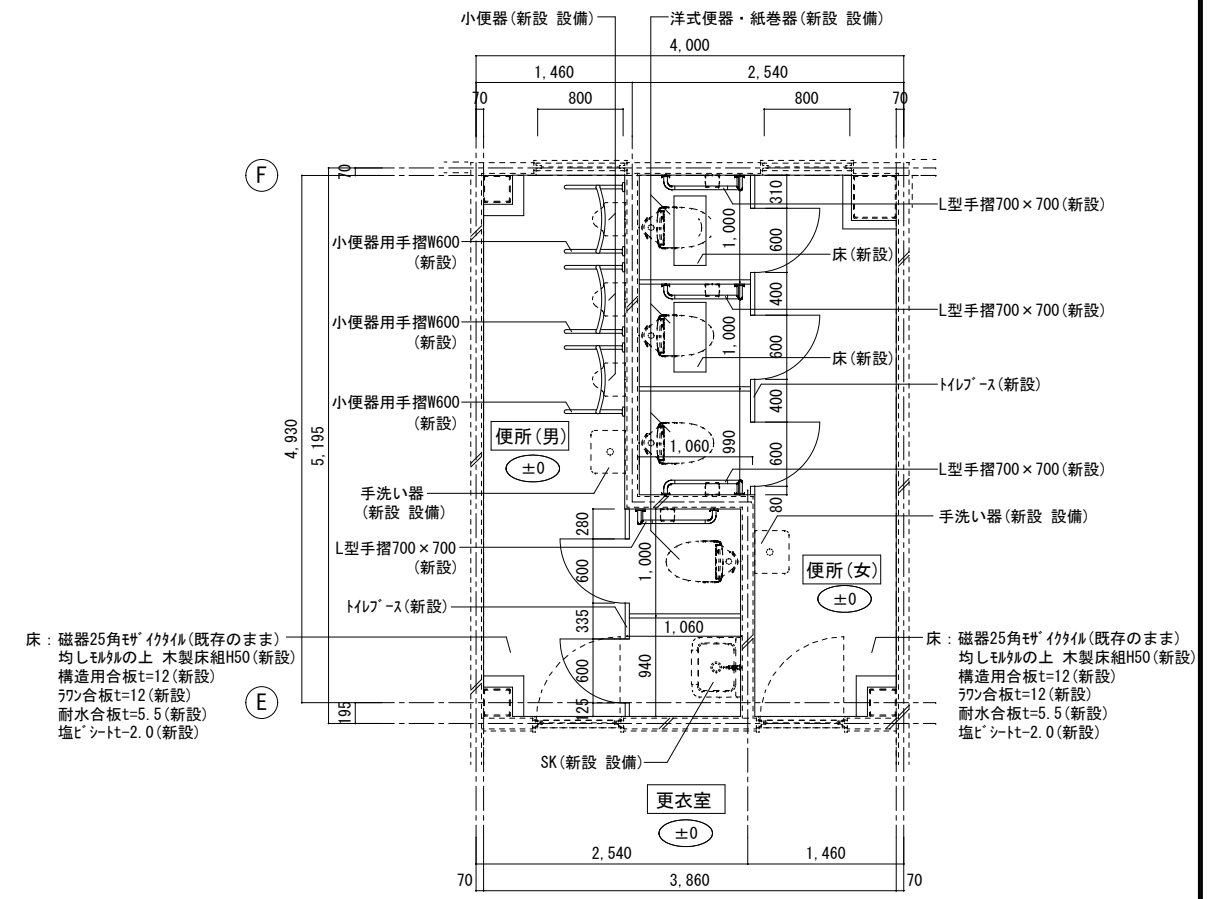
	改修範囲を示す。
	既存範囲を示す。



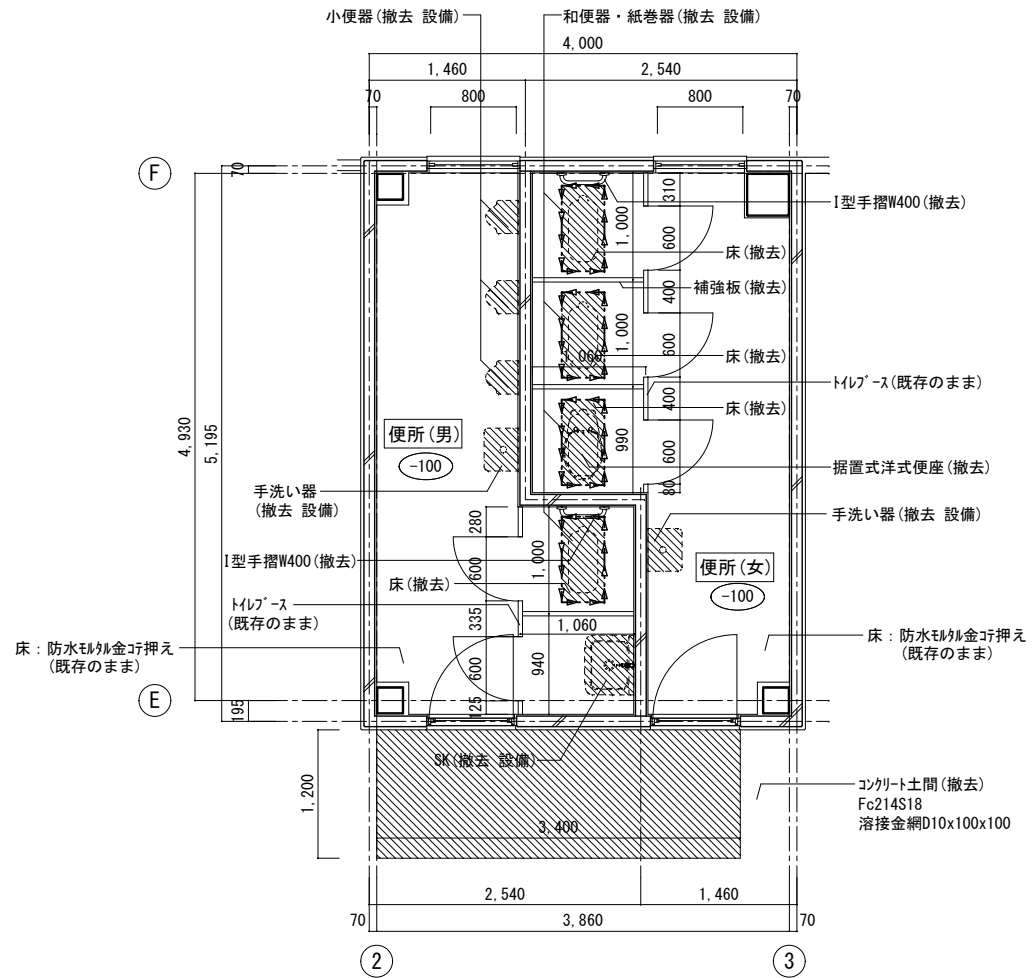
事業年度 年度	設計 令和 年月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松本 靖之	図面名称・縮尺 S=1/50 改修後 2階展開図	(A3版=71%縮小)	図番 A-34
工事完成 年度								建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事				



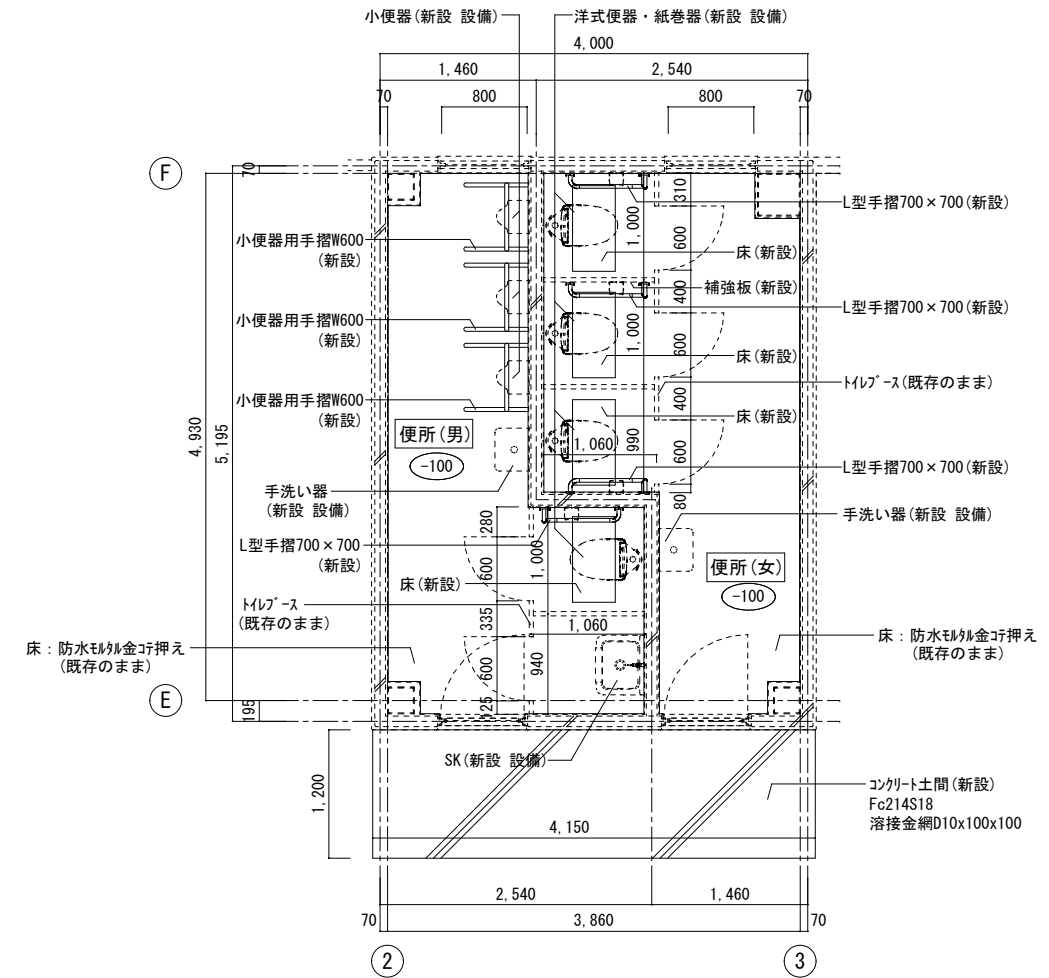
改修前 2階平面詳細図 1:50



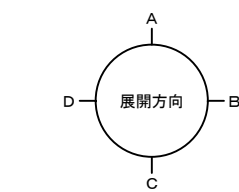
改修後 2階平面詳細図 1:50



改修前 1階平面詳細図 1:50



改修後 1階平面詳細図 1:50

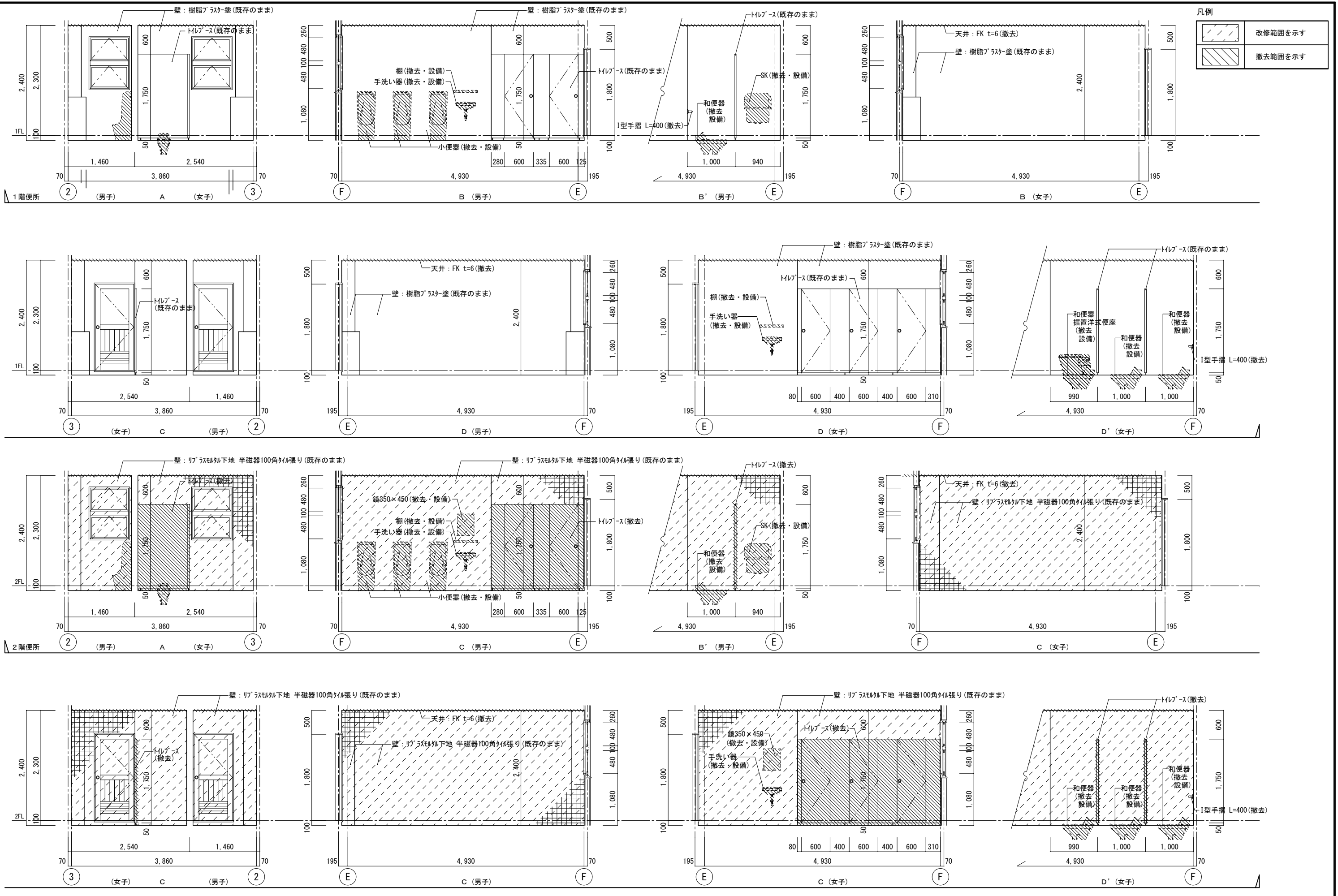


凡例

室名	工事対象室を示す。
±0	FLからのレベルを示す。
	改修範囲を示す
	撤去範囲を示す
	カッター切を示す。

凡例

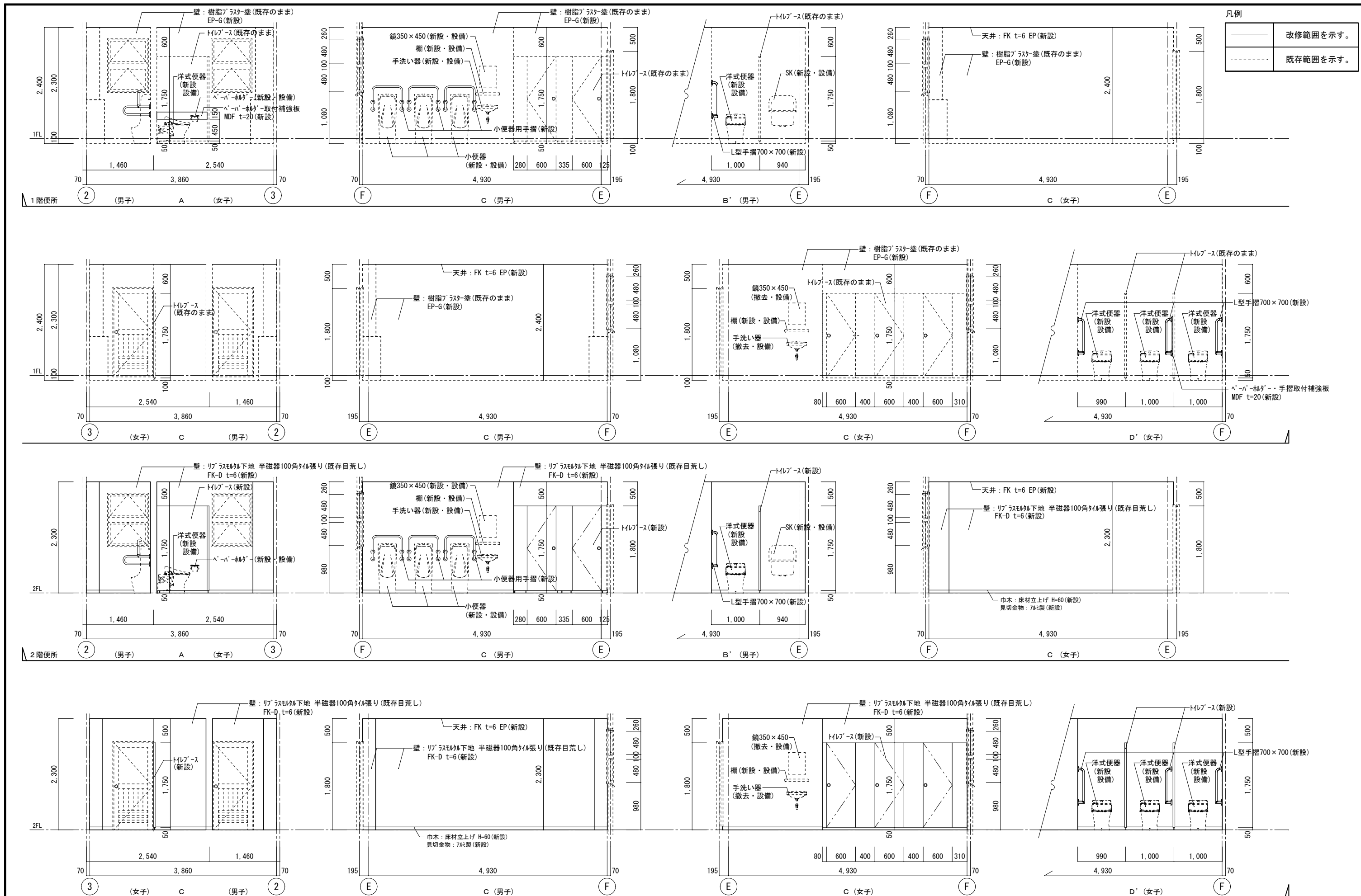
室名	工事対象室を示す。
±0	FLからのレベルを示す。
	改修範囲を示す。
	既存範囲を示す。



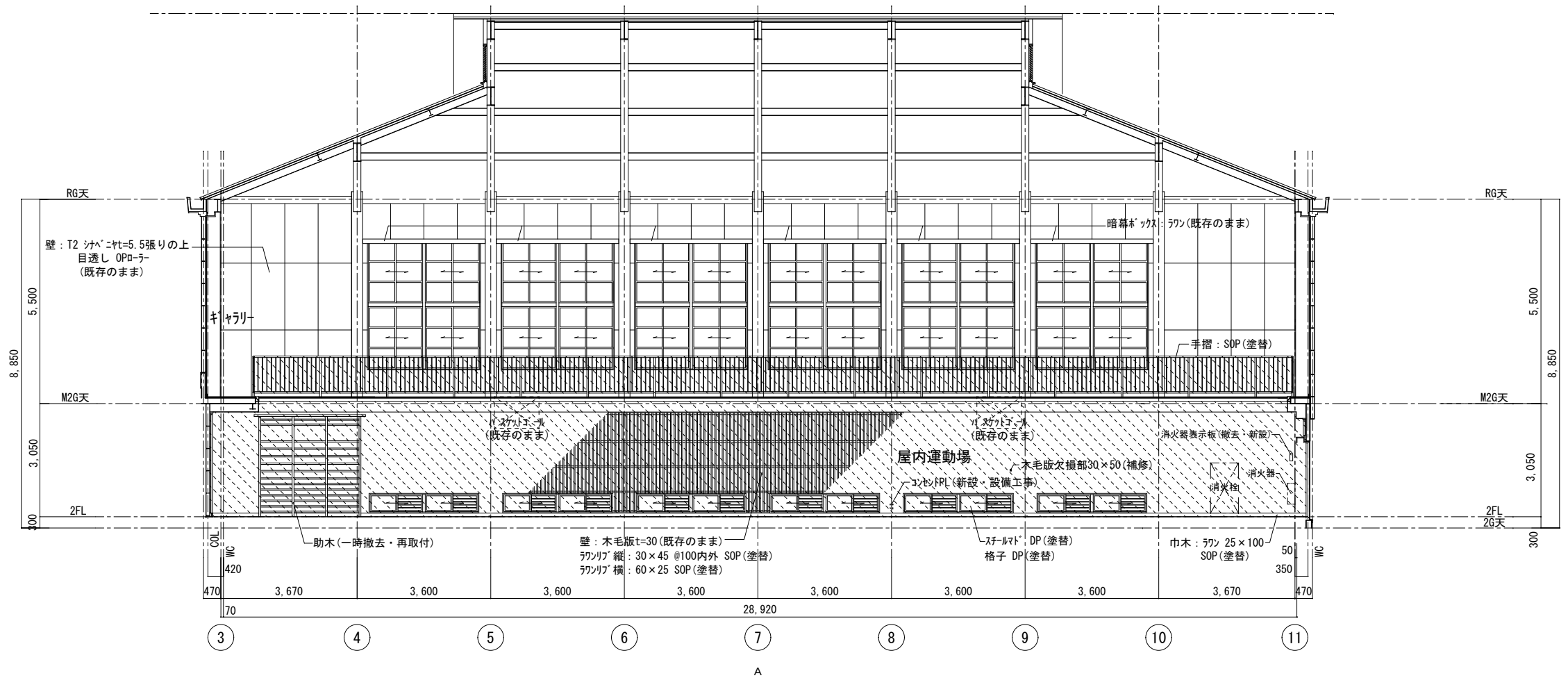
凡例

	改修範囲を示す
	撤去範囲を示す

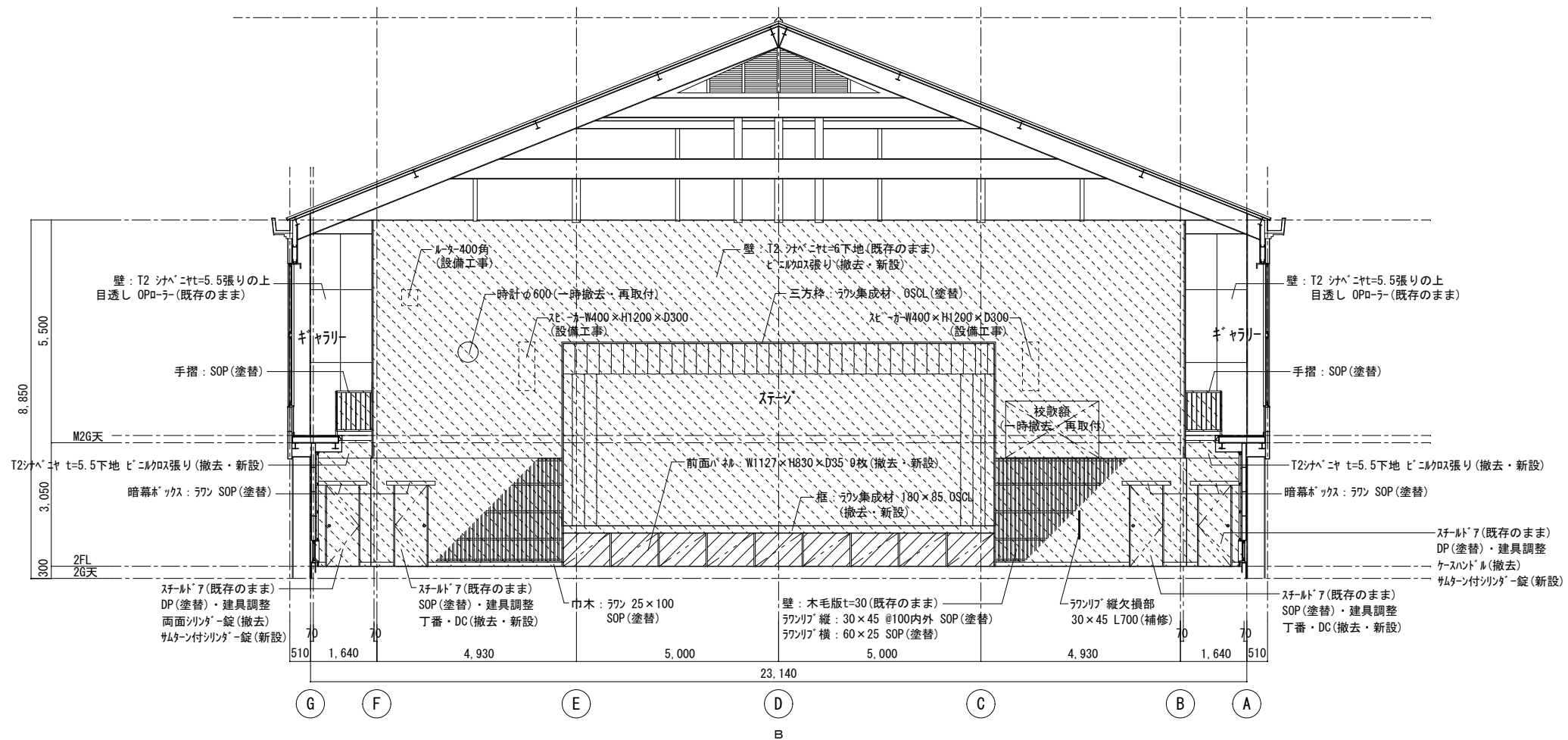
事業年度 年度	設計 令和 年月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/50 改修前 1・2階便所展開図	(A3版=71%縮小)	図番 A-36
工事完成 年度								建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事				



事業年度 年度	設計 令和 年月	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/50 改修後 1・2階便所展開図	(A3版=71%縮小)	図番 A-37
工事完成 年度		三原市都市部建築課					建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事				



屋内運動場

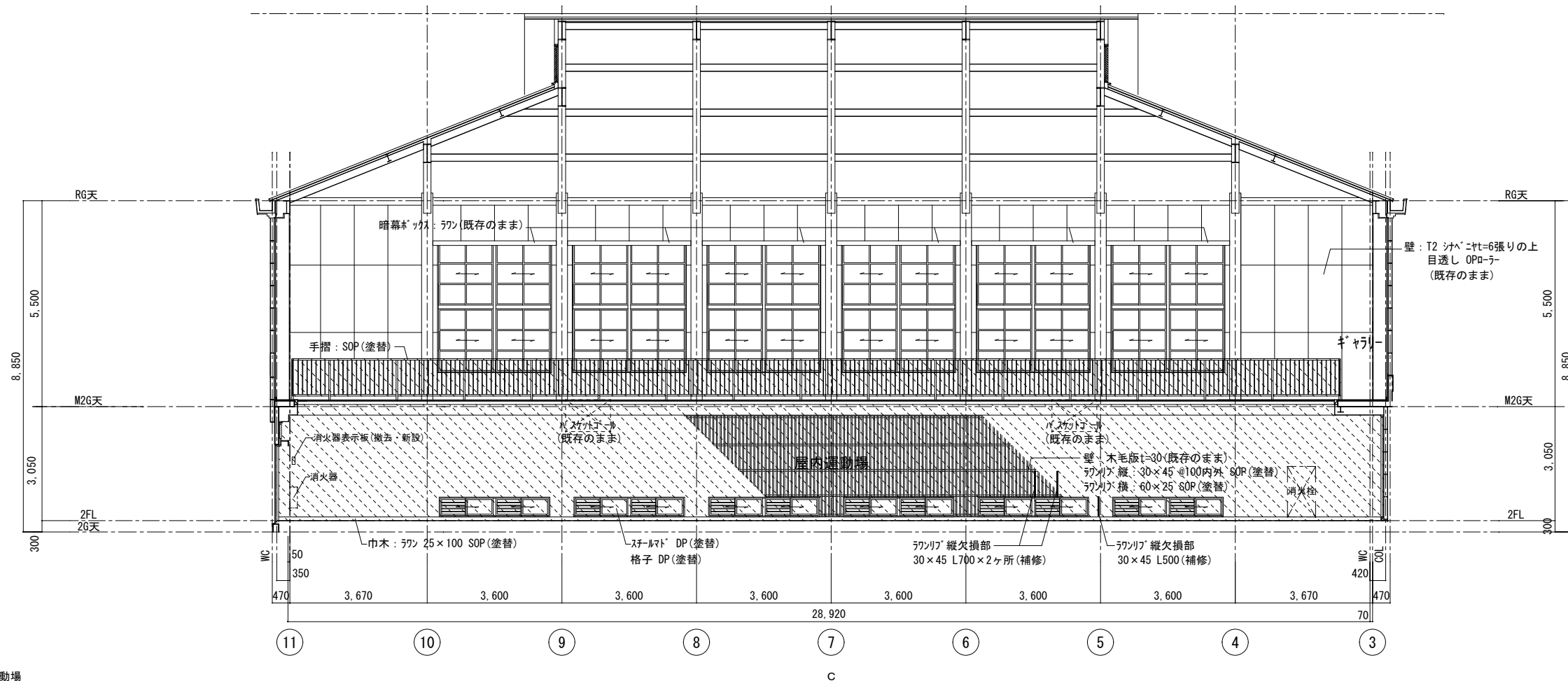


屋内運動場

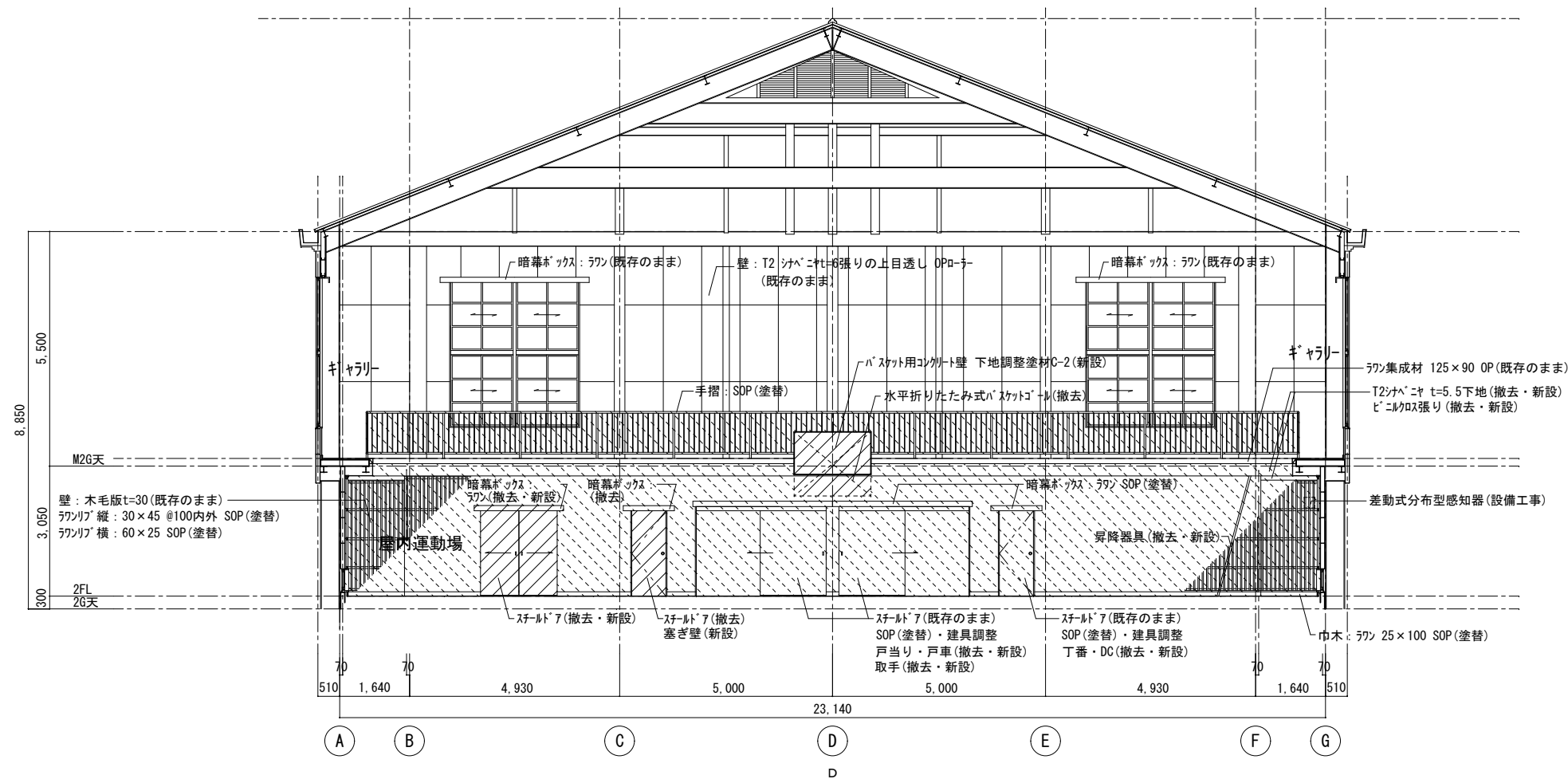
凡例

	改修範囲を示す
	撤去・新設を示す
	カッター切を示す。

事業年度	年度	設計	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名	図面名称・縮尺 S=1/100	(A3版=71%縮小)	図番
工事完成	年度	令和 年月						建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	屋内運動場 展開図(1)		A-38



屋内運動場

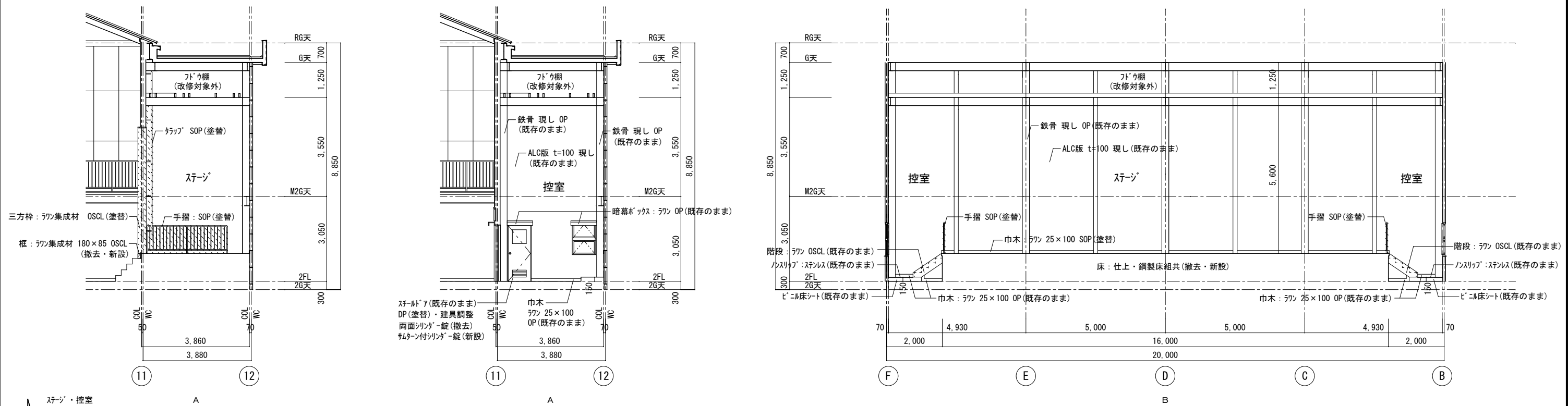


屋内運動場

凡例

	改修範囲を示す
	撤去・新設を示す
	カッター切を示す。

事業年度 令和 年度	設計 令和 年月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/100 (A3版=71%縮小)	図番 A-39
工事完成 令和 年度							建築	建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事		屋内運動場 展開図(2)	

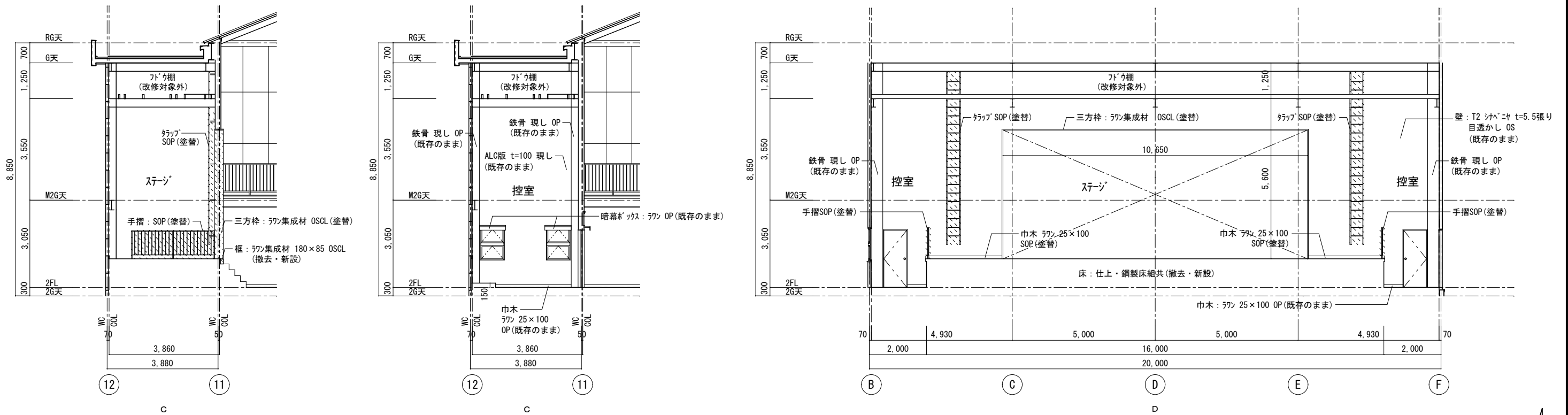


ステージ・控室

A

A

B



C

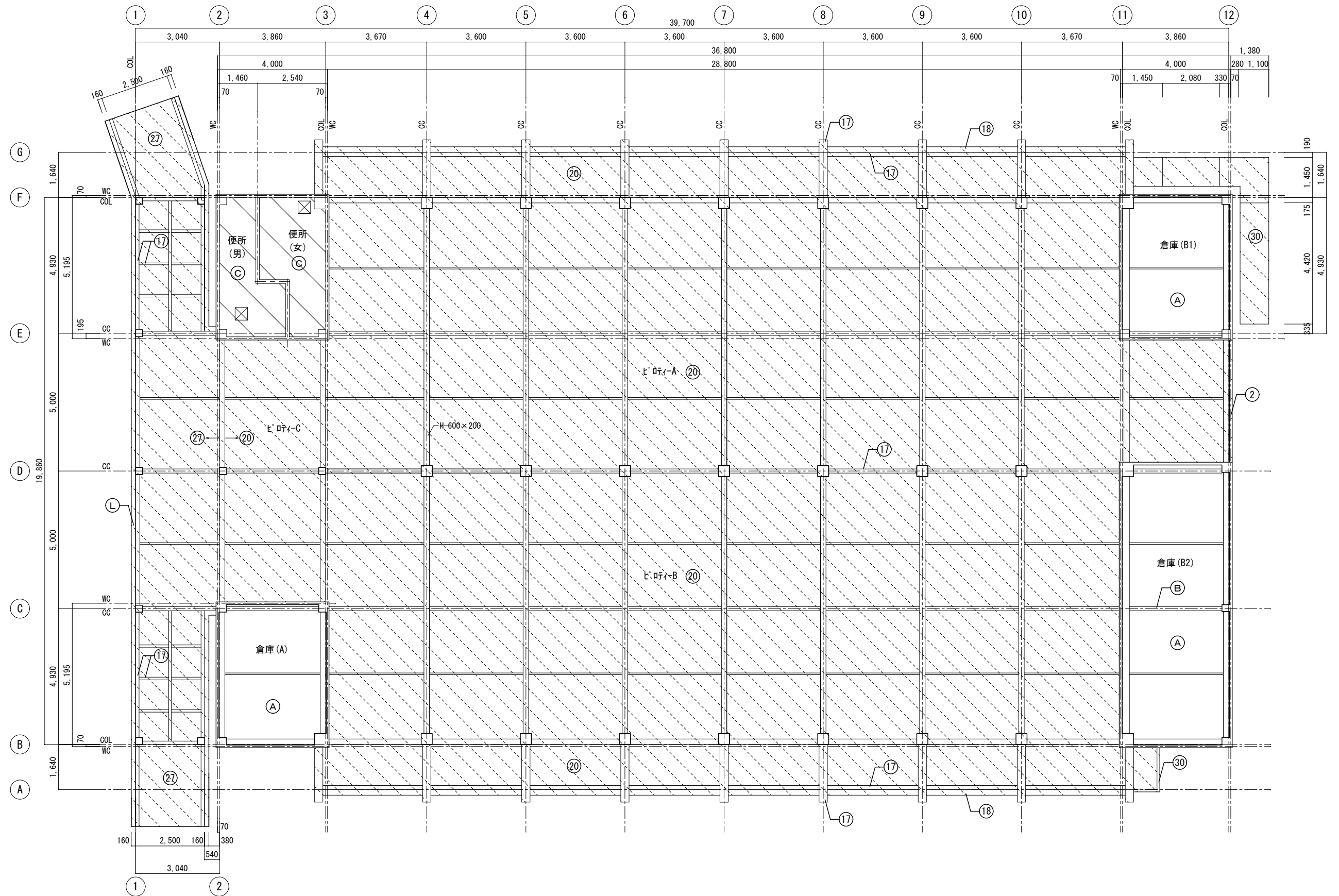
C

D

凡例

	改修範囲を示す
	撤去・新設を示す
	カッター切を示す。

事業年度 年度 令和 年度	設計 令和 年月	三原市都市部建築課	大 中 小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/100 (A3版=71%縮小)	図番 A-40
------------------	-------------	-----------	-------	----	----	----------	---------------------------	--	-----------------------------	------------



1階天井伏図 1/100

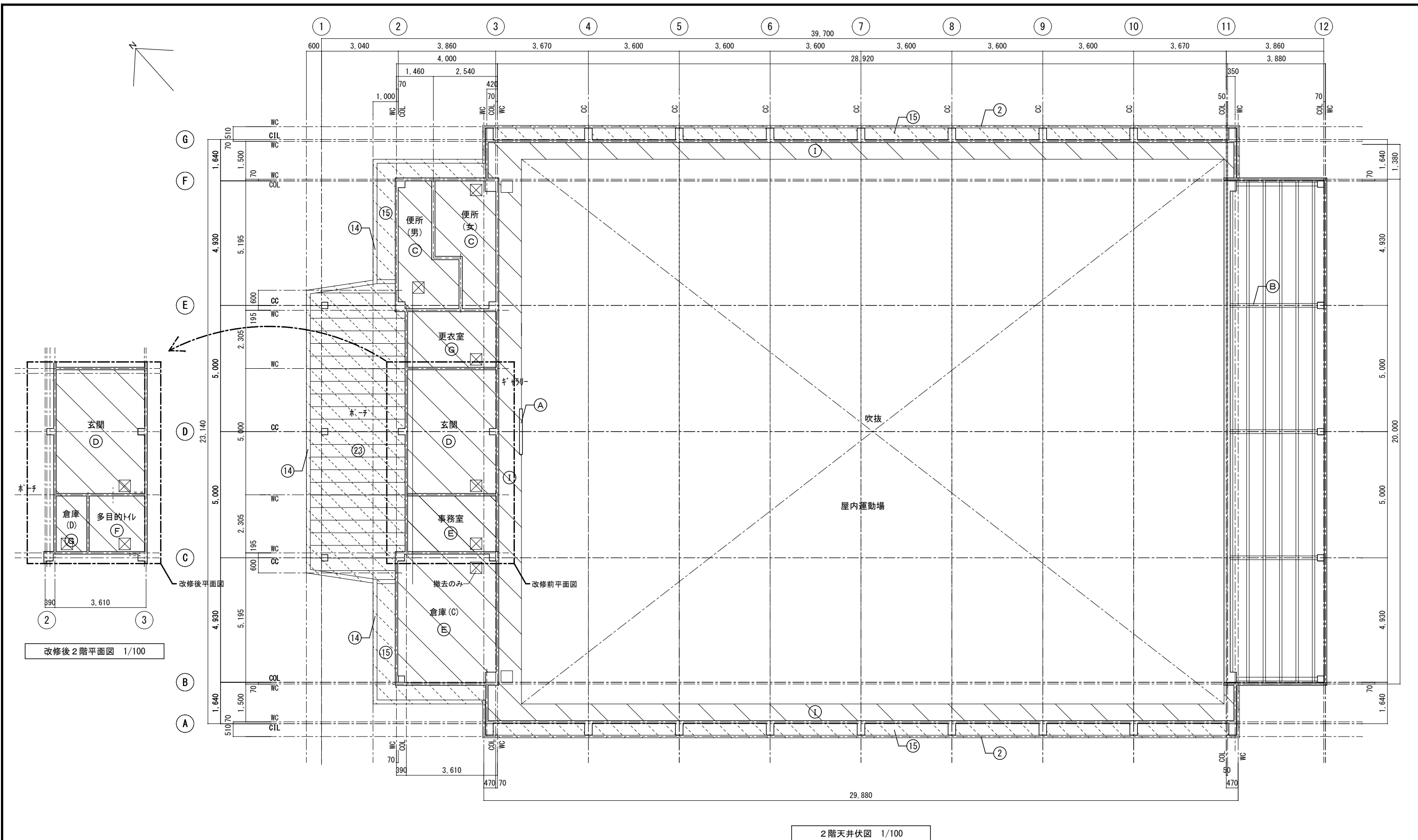
凡例

(A)	合板型枠コンクリート打放し(既存のまま)	(G)	GB-D t=9(撤去) GB-D t=9.5 EP-G(新設)
(B)	鉄骨現し OP(既存のまま)	(H)	GB-D t=9(既存のまま) EP-G(新設)
(C)	ケイカル板 t=6.0張り EP(撤去・新設)	(I)	T2シフト t=6下地 ビニルクロス張り(撤去・新設)
(D)	石膏ボード t=9.0捨張り 石綿吸音板 t=9.0張り(撤去) 石膏ボード t=9.5捨張り 石綿吸音板 t=9.0張り(新設)	(J)	22kg/L-フック グラスウール密度24kg/t(既存のまま)
(E)	GB-D t=9(撤去)	☒	天井点検口(455×455)
(F)	GB-D t=9(撤去) FK t=6(新設)		

凡例

	外部改修範囲を示す (符号は外部仕上げ表に依る)
	改修範囲を示す

事業年度	年度	設計	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名	図面名称・縮尺 S=1/100	(A3版=71%縮小)	図番
工事完成	年度	令和 年月						建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松本 靖之	1階天井伏図		A-42



2階天井伏図 1/100

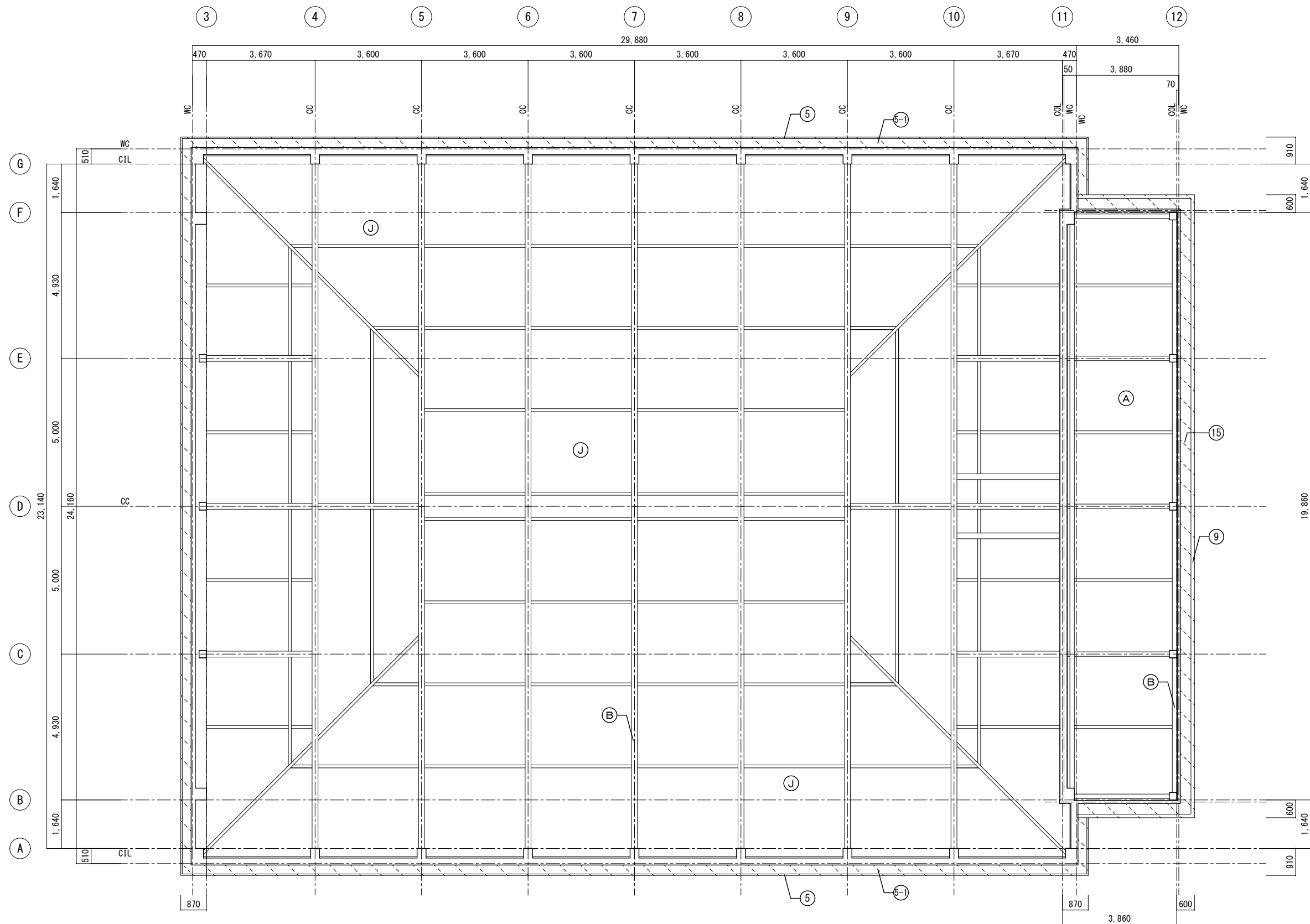
凡例

(A)	合板型枠コンクリート打放し 下地調整塗材C-2(新設)	(G)	GB-D t=9(撤去) GB-D t=9.5 EP-G(新設)
(B)	鉄骨現し OP(既存のまま)	(H)	GB-D t=9(既存のまま) EP-G(新設)
(C)	ケイ化板 t=6.0張り EP(撤去・新設)	(I)	T2シフトニキt=6下地 ビニルクロス張り(撤去・新設)
(D)	石膏ボードt=9.0捨張り 石綿吸音板t=9.0張り(撤去) 石膏ボードt=9.5捨張り 石綿吸音板t=9.0張り(新設)	(J)	22kg/L-フロンク グラスウール密度24kg/m ³ (既存のまま)
(E)	GB-D t=9(撤去)	☒	天井点検口(455×455)
(F)	GB-D t=9(撤去) FK t=6(新設)		

凡例

	外部改修範囲を示す (符号は外部仕上げ表に依る)
	改修範囲を示す

事業年度	年度	設計	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名	図面名称・縮尺 S=1/100	(A3版=71%縮小)	図番
工事完成	年度	令和 年月						建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	2階天井伏図		A-43



R階天井伏図 1/100

凡例

(A)	合板型枠コンクリート打放し(既存のまま)	(G)	GB-D t=9(撤去) GB-D t=9.5 EP-G(新設)
(B)	鉄骨現し OP(既存のまま)	(H)	GB-D t=9(既存のまま) EP-G(新設)
(C)	ケイカル板 t=6.0張り EP(撤去・新設)	(I)	T2シナベニートt=6下地 ビニルクロス張り(撤去・新設)
(D)	石膏ボードt=9.0捨張り 石綿吸音板t=9.0張り(撤去) 石膏ボードt=9.5捨張り 石綿吸音板t=9.0張り(新設)	(J)	22kg/L-フロンク グラスウール密度24kg/m ³ シート(既存のまま)
(E)	GB-D t=9(撤去)	☒	天井点検口(455×455)
(F)	GB-D t=9(撤去) FK t=6(新設)		

凡例

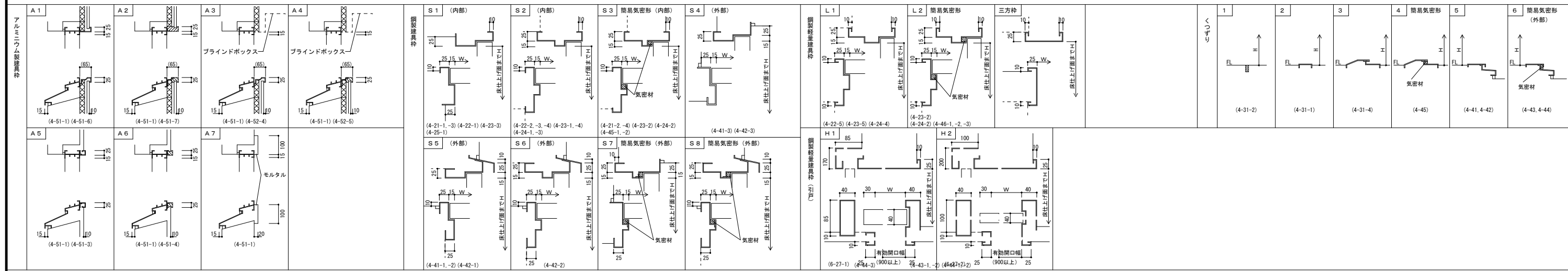
	外部改修範囲を示す (符号は外部仕上げ表に依る)
--	-----------------------------

事業年度	年度	設計	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名	図面名称・縮尺 S=1/100	(A3版-71%縮小)	図番
工事完成	年度	令和 年月						建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	R階天井伏図		A-44

共通事項

表示略号	略号	建具	略号	ガラス	平面図表示建具物記号	アルミニウム製建具の見込み寸法(mm)	特記なき場合は、形式が引違い・片引き・上げ下げ窓で、複層ガラスを使用する場合は、枠見込み100mmとする。	外部	内部	防火戸	
AD		アルミ製戸	P	フロート板ガラス	ドアクローザー (ストップ付)	SD 40 (H=2,400以下、扉一枚の幅=950以下) 及び 50 (H=2,400超える、扉一枚の幅=1,600以下) SSD 50 (H=2,700以上、扉一枚の幅=1,500以下) 60 (H=3,200以上、扉一枚の幅=2,000以下) LD 36	H 19.5 (戸ぶすまは30mm) PA 30 WD 30 (H=1,000未満、扉一枚の幅=950以下) 36 (H=2,000未満、扉一枚の幅=950以下) 40 (H=2,400未満、扉一枚の幅=950以下) WD (かまち戸) 36mm	外部 一般扉 自由開き扉 自動ドア (スライディングドア)	内部 一般室 浴室 便所、洗面所 自閉式上吊り引戸 随時閉鎖式防火戸 点検扉 自由開き扉 窓	防火戸 (1) ヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動は「備考」欄による。 (2) 防火戸の種類は下表により、適用は「防火戸の種類」欄による。 (3) 防火戸の解放機構は別途とする。 (4) 扉にラッチ受運用切込み開口補強を行う。	
AW		アルミ製窓	F	型板ガラス	ドアクローザー (ディレード アクション機能付)	形状 (1) SDのうち、点検扉は特記以外は片面フラッシュ戸とする。 (2) 排煙窓の適用は「備考」欄による。 (3) 特殊な性能(簡易気密、防音、断熱、耐震)の建具の適用は「備考」欄による。 (4) 水切りの幅は、「備考」欄による。 (5) 標準型建具の適用は「標準型建具の適用」欄に○が付いたものとする。					
AG		アルミ製がらり	NF	網入型板ガラス	平面図表示建具符号	仕上げ (1) ST、SD、SW、SG、SS及びLDの仕上げは特記以外はSOPとする。 (2) SD及びLDのドアがらりは、鋼板(2)にSOPとする。 (3) ふすまの上張りの種類は、「備考」欄による。					
ST		鋼製三方枠	WF	網入型板ガラス	整理番号	建具金物 (1) ドアクローザーの適用は建具配置図(平面図)による。なお、ドアクローザーの取付は室内側を原則とする。 (2) 壁当たりとなる開き戸は壁面からの逃げ寸法を100mm程度とし、ドアクローザーの有無にかかわらず戸当たりを設ける。 (3) クレセントの高さは1,500mm以下、排煙窓オペレーター設置の高さは800mmから1,500mmとする。 (4) 扉の把手は特記なき場合は、レバーハンドルとし握り玉の適用は「建具金物」欄による。 (5) 扉の握り玉、把手類の取付位置は床面から1,000mmとし、押板類は1,100mmとする。 (6) 防犯建物部品は「建具金物」欄による。 (7) 建具金物は下表により、それ以外は「建具金物」欄による。					
SST		鋼製三方枠	NP	網入型板ガラス	建具略号						
SD		鋼製戸	WP	網入型板ガラス							
SW		鋼製窓	HAP	熱線吸収フロート板ガラス							
SG		鋼製がらり	T	強化ガラス(材料板ガラス)							
SS		重量シャッター	IG(O)	複層ガラス(材料板ガラス)							
LD		鋼製量戸		(O) は断熱性、日射取得性・日射遮蔽性による区分を示す							
SSD		ステンレス製戸	HR	熱線反射ガラス(材料板ガラス)							
SSW		ステンレス製窓	DS	強化ガラス(材料板ガラス)							
SSG		ステンレス製がらり	L	合わせガラス(材料板ガラス)							
OHD		オーバーヘッドドア									
ACW		アルミ製カーテンウォール	Low-E	低放射ガラス							
PD		樹脂製戸									
PW		樹脂製窓									
H		ふすま									
PA		紙張り障子									
WD		木製戸									
WW		木製窓									
A		アルミ製縦格子									
TB		トイレブース									
(O-OO-OO)、(O-OO) は国定省標準詳細図の詳細番号を示す。 複層ガラスは、室内・室外側を使用するガラスは下記のとおりとする。 【内(材料板ガラス) + A + 外(材料板ガラス)】 【内: 室内側ガラス、外: 室外側ガラス、A: 空気、AR: アルゴン】 網入りガラスの網の形状は(※)ひし形・かか網とする。											

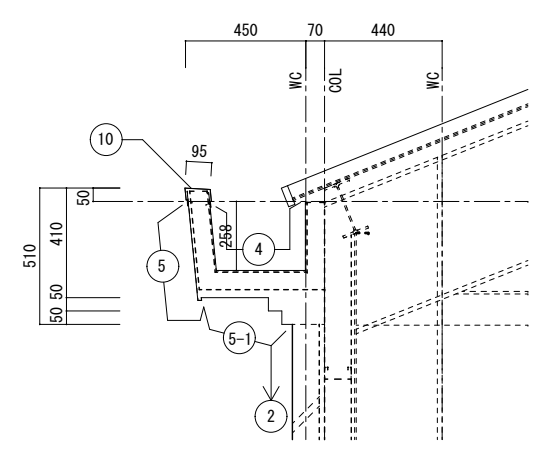
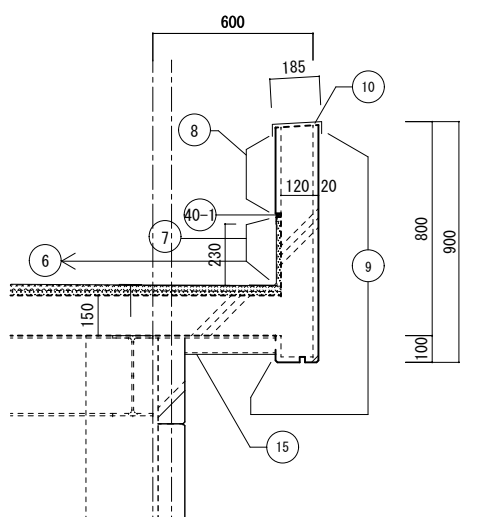
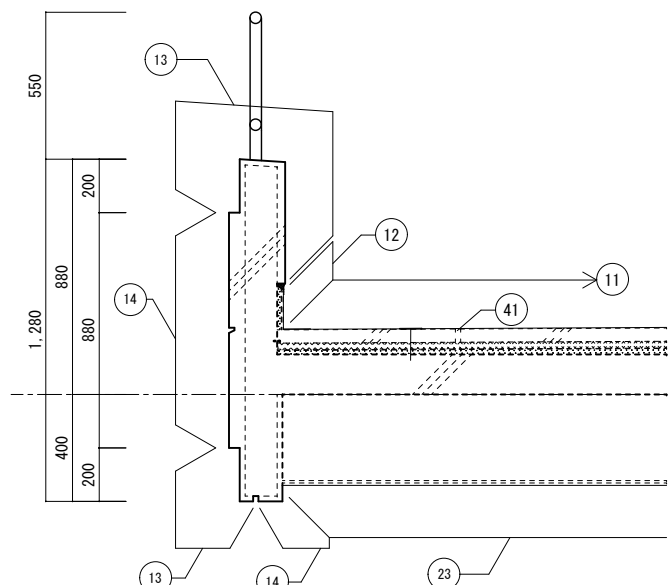
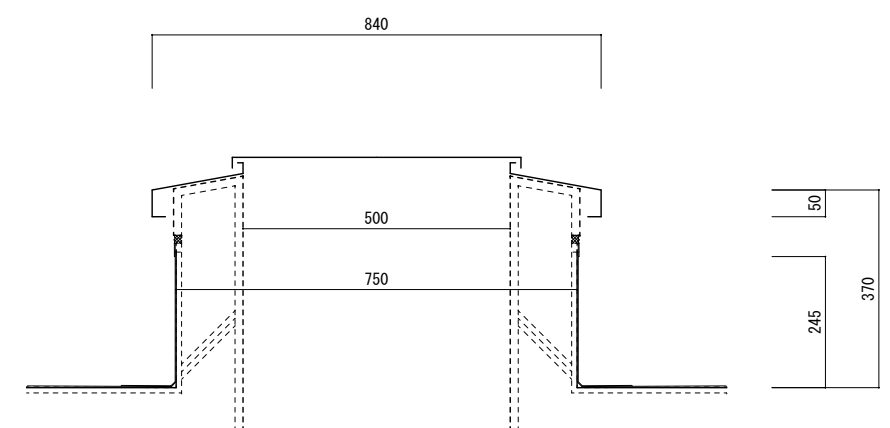
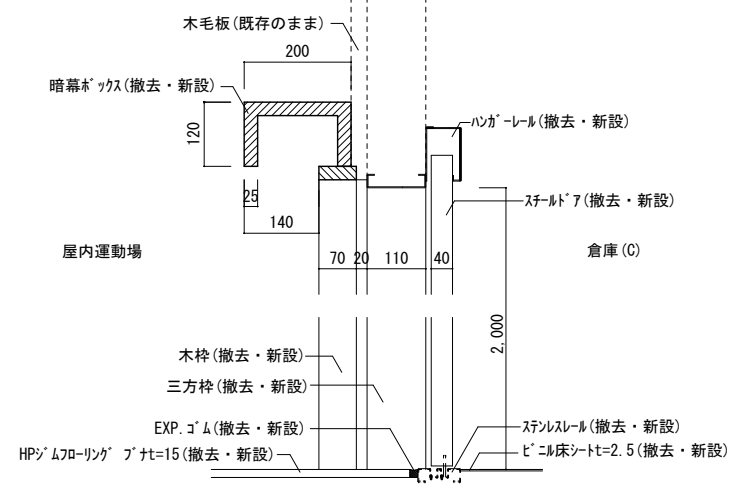
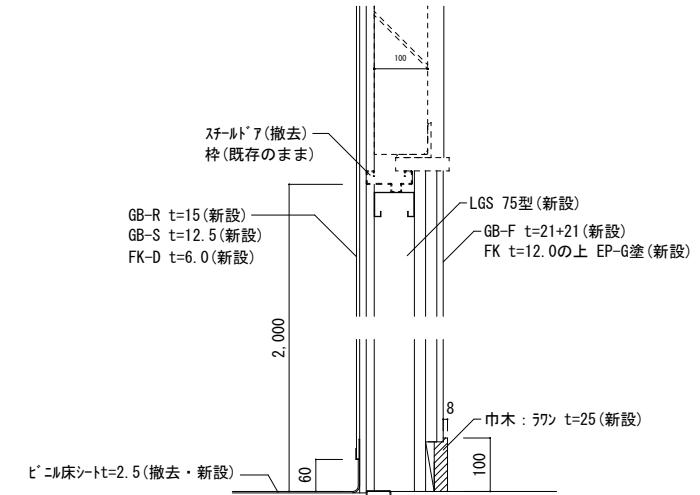
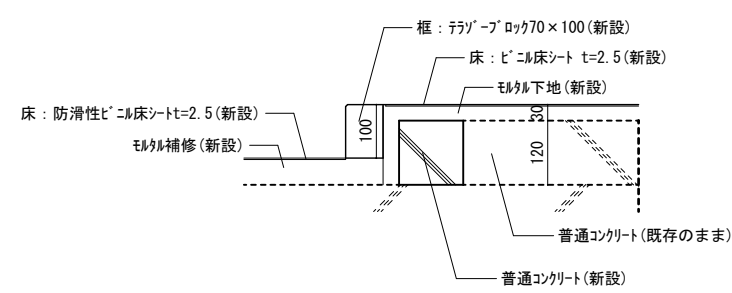
建具枠・くつづり詳細図(枠廻り記号)

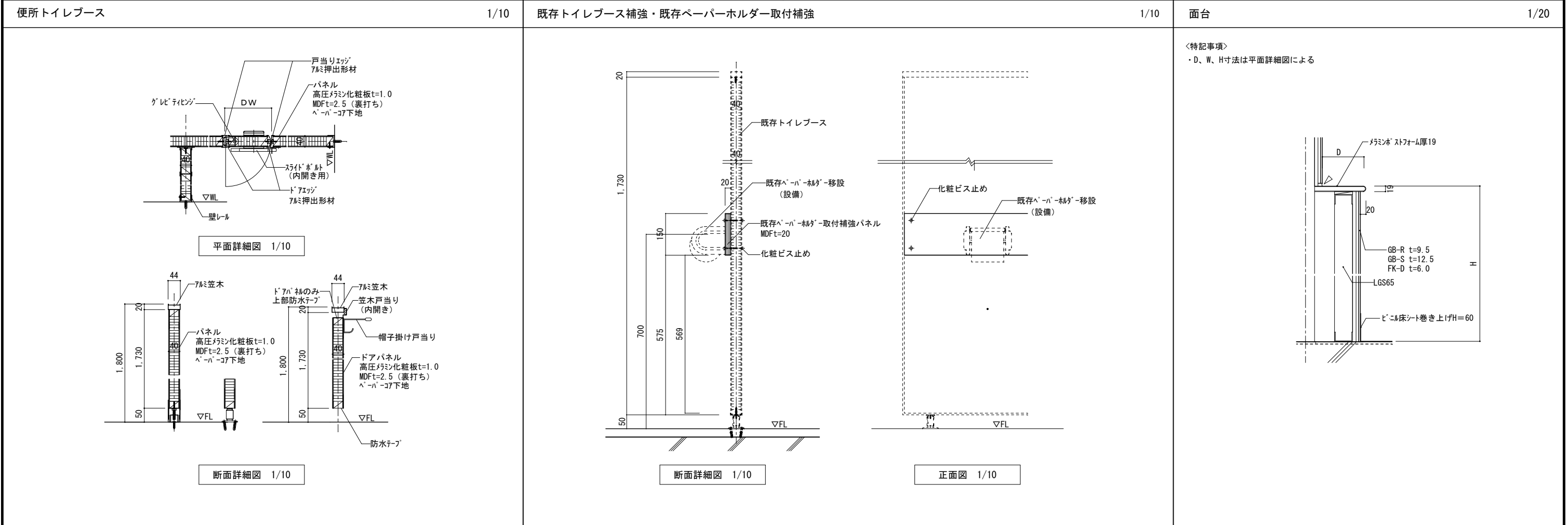
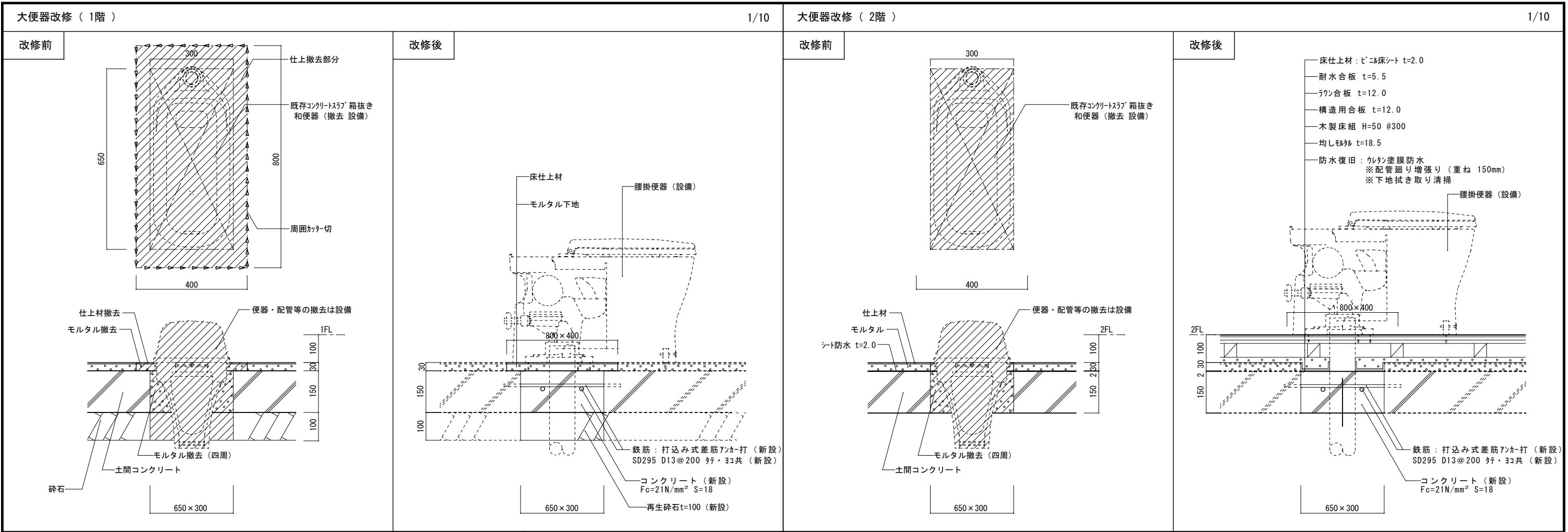


符号・数量	(1) SUSD × 2	(1) SD × 3	(2) SD × 1	(2) SD × 3	(3) SD × 2
改修内容	フロアヒンジ取替 DP塗替、建具調整、外部シーリング打替	撤去・新設(カバー工法) 外部シーリング打替	扉: 撤去 枠・額縁: 既存のまま	丁番・DC取替 SOP塗替(枠・額縁共)、建具調整	戸当り・戸車・取手取替 SOP塗替(枠・額縁・ハガレール共)、建具調整
図示					
室名	2階 玄関	1階 倉庫(A・B1・B2)	屋内運動場 2階 事務室	屋内運動場 2階 更衣室・控室	2階 玄関
付属金物	フロアヒンジ(撤去・新設) 押棒・錠・附属金物一式(既存のまま)	握り玉付シリンダ錠・フランス落とし・DC(撤去) ヒョウットヒンジ(撤去)	握り玉付シリンダ錠・フランス落とし・DC(新設) 丁番(新設)	丁番・DC(撤去・新設) 握り玉付シリンダ錠(既存のまま)	戸当り・戸車φ40(撤去・新設) 舟底引手(撤去)・丸棒取手(新設)
枠巾見込	100	86	86	86	40
硝子	T-12(既存のまま)、ランマFIX:P-5(既存のまま) 飛散防止フィルム貼付(新設)	F-4(撤去)	F-4(新設)		
備考		ステンレス金網付(撤去)	ステンレス金網付(新設)	沓摺: ステンレス(既存のまま)	ガイドローラーφ40(既存のまま) 受フック M.S=75×75×9・ステンレス製t=2加工(既存のまま)

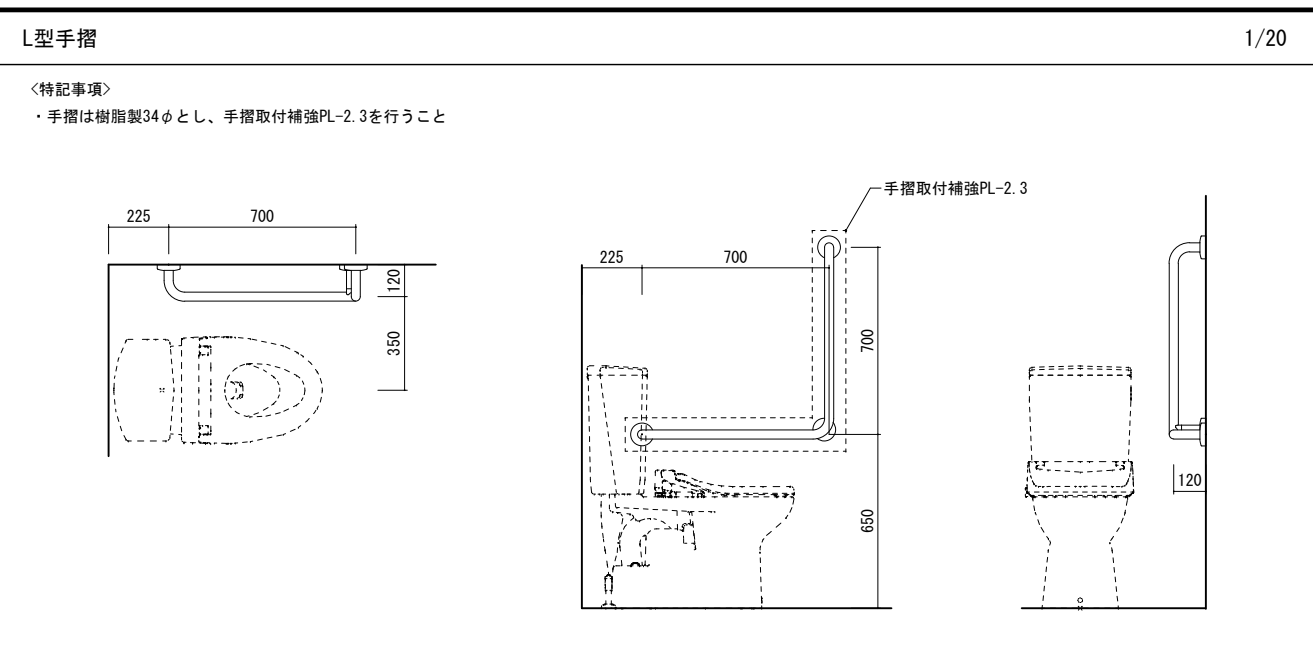
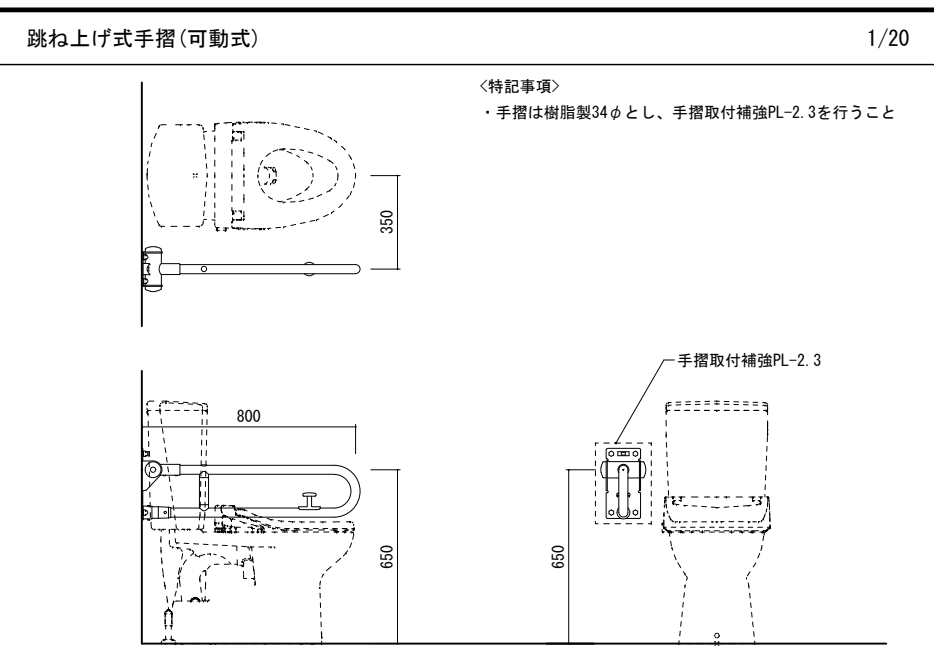
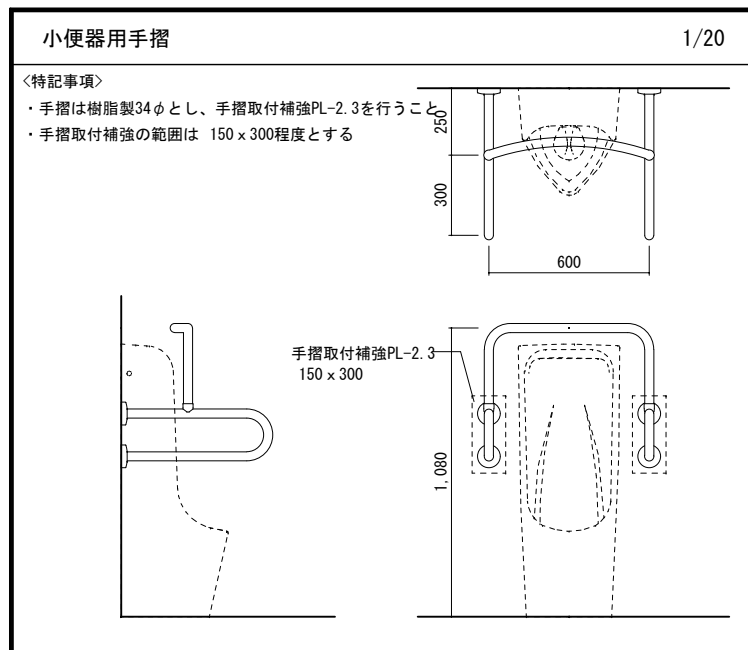
符号・数量	$\frac{4}{SD} \times 1$	$\frac{4}{SD} \times 1$	$\frac{5}{SD} \times 2$	$\frac{6}{SD} \times 3$	$\frac{7}{SD} \times 1$	$\frac{1}{SW} \times 12$
改修内容	撤去	新設	DC取替、DP塗替(枠共)、額縁(既存のまま) 建具調整、外部シーリング打替	取手取替、DP塗替(枠・額縁共) 建具調整、外部シーリング打替	新設	DP塗替(枠・額縁共)、外部シーリング打替
図示				<p>取手: 北鉄骨階段出入口 両面シリンダ錠 北控室出入口 両面シリンダ錠 南バムコ-出入口 ケースハンドル</p>		
室名	2階 倉庫(C)	2階 倉庫(C)	屋内運動場キヤリ-	屋内運動場 2階 鉄骨外部階段、バムコ-	2階 倉庫(D)	屋内運動場
付属金物	受アングルス=75×75×9・ハンガーレールOP塗り・戸当り(撤去) スチールレールt=2加工・戸車φ40・舟底引手・ガイドローラφ40(撤去)	受アングルス=75×75×9・ハンガーレールSOP塗り・戸当り(新設) スチールレールt=2加工・戸車φ40・舟底引手・ガイドローラφ40(新設)	DC(撤去・新設) 丁番・握り玉付シリンダ錠(既存のまま)	握り玉錠: 両面シリンダ錠×2(撤去) ケースハンドル×1(撤去) サムターン付シリンダ錠(新設)×3 DC(撤去・新設)、ビレットピン・戸当り(既存のまま)	握り玉付シリンダ錠・DC・丁番(新設)	防球格子付(DP塗替)、クレント(既存のまま)
枠巾見込	40	40	86	86	86	70
硝子						
備考						
符号・数量	$\frac{1}{LSD} \times 1$	$\frac{1}{G} \times 2$	$\frac{2}{G} \times 2$	$\frac{1a}{AW} \times 9$	$\frac{1b}{AW} \times 4$	$\frac{1c}{AW} \times 1$
改修内容	新設	既存のまま	DP塗替	既存のまま、外部シーリング打替、クリーニング	既存のまま(建具調整)、外部シーリング打替、クリーニング	クレント取替 建具調整、外部シーリング打替、クリーニング
図示						
室名	2階 多目的トイレ	屋内運動場	屋内運動場	屋内運動場キヤリ-	屋内運動場キヤリ-	屋内運動場キヤリ-
付属金物	ハンガーレール・ハンガーローラー・フレ止ローラー・自閉制動装置(新設) スチールハンドル(L=450)・他標準仕様書金物一式(新設)			クレント・附属金物一式(既存のまま)	クレント・附属金物一式(既存のまま)	クレント(撤去・新設) 附属金物一式(既存のまま)
枠巾見込	120	86	86	70	70	70
硝子				F-4(既存のまま) グレージングビ-ト 外部面(撤去・新設)	F-4(既存のまま) グレージングビ-ト 外部面(撤去・新設)	F-4(既存のまま) グレージングビ-ト 外部面(撤去・新設)
備考			防虫網付: スチール(既存のまま)			
符号・数量	$\frac{2}{AW} \times 1$	$\frac{3}{AW} \times 1$	$\frac{4a}{AW} \times 5$	$\frac{4b}{AW} \times 4$		
改修内容	撤去・新設(カバー工法) 外部シーリング打替	既存のまま、外部シーリング打替、クリーニング	撤去・新設(カバー工法) 外部シーリング打替	既存のまま、外部シーリング打替、クリーニング		
図示			<p>改修前 H 1F 便所(男)(女) 910 2F 便所(男)(女) 1080 2F 控室 980</p> <p>改修後 H 1F 便所(男)(女) 910 2F 便所(男)(女) 980 2F 控室 980</p>			
室名	1階 倉庫(A)	1階 倉庫(B2)	1階 便所(男)、2階 便所(男)(女) 2階 控室	1階 便所(女) 2階 倉庫(C)		
付属金物	クレント(撤去)、附属金物一式(撤去)	クレント(新設)、附属金物一式(新設)	クレント・附属金物一式(既存のまま) カムラッチハンドル・カムラッチハンドル受け(撤去) ア-ムビ-ット・ストップ(撤去)	カムラッチハンドル・カムラッチハンドル受け(新設) ア-ムビ-ット・ストップ(新設)		
枠巾見込	70	70		70		
硝子	F-4(撤去)	F-4(新設)	F-4(既存のまま) グレージングビ-ト 外部面(撤去・新設)	F-4(新設)		
備考	面格子(撤去)	面格子(新設)				

符号・数量	5a AW × 1		5b AW × 1		1a AD × 2		1b AD × 1	
改修内容	撤去・新設(カバー工法) SOP塗替(額縁)、外部シーリング打替		SOP塗替(額縁)、建具調整、外部シーリング打替 クリーニング		撤去・新設(カバー工法) 外部シーリング打替		DC取替 SOP塗替(額縁)、建具調整、クリーニング	
図示								
室名	2階 更衣室		2階 事務室		1階 便所(男)(女)		2階 便所(女)	
付属金物	クレット(撤去)、附属金物一式(撤去)		クレット(新設)、附属金物一式(新設)		握り玉シリング錠・丁番・DC・戸当り・アングルビス(撤去)		握り玉シリング錠・丁番・DC・戸当り・アングルビス(新設)	
枠巾見込	70		70		70		70	
硝子	F-4(撤去)		F-4(新設)		F-4(既存のまま)		F-4(新設)	
備考	網戸サッシ(撤去)		網戸サッシ(新設)		網戸サッシ(既存のまま)		網戸サッシ(既存のまま)	
符号・数量	1c AD × 1		1a TB × 1		2a TB × 3		3a TB × 1	
改修内容	既存のまま SOP塗替(額縁)、建具調整、クリーニング		既存のまま		既存のまま		既存のまま	
図示								
室名	2階 便所(男)		1階 便所(男)(女)		1階 便所(男)(女)		2階 便所(男)(女)	
付属金物	DC(既存のまま) 握り玉シリング錠・丁番・戸当り・アングルビス(既存のまま)		ラバーヒンジ・握り玉・表示錠・帽子掛け(既存のまま) 頭つなぎ(ステンレス)・受け金物(ステンレス)(既存のまま)		ラバーヒンジ・握り玉・表示錠・帽子掛け(既存のまま) 頭つなぎ(ステンレス)・受け金物(ステンレス)(既存のまま)		ラバーヒンジ・握り玉・表示錠・帽子掛け(撤去・新設) 頭つなぎ(ステンレス)・受け金物(ステンレス)(撤去・新設)	
枠巾見込	70		40		40		40	
硝子	F-4(既存のまま)		F-4(撤去)		F-4(撤去)		F-4(撤去)	
備考			フミン化粧合板		フミン化粧合板		フミン化粧合板	
符号・数量	3b TB × 1		3b TB × 1		1 WD × 9		1 WD × 9	
改修内容	撤去		新設		撤去		新設	
図示								
室名	2階 便所(男)(女)		ステージ下		1階 ビロイ-B			
付属金物	ラバーヒンジ・握り玉・表示錠・帽子掛け(撤去・新設) 頭つなぎ(ステンレス)・受け金物(ステンレス)(撤去・新設)		引手×2(撤去・新設)		アルミ製縦格子			
枠巾見込	40		35					
硝子								
備考	片面化粧化粧合板(木目)、片面ラワンベニヤ							

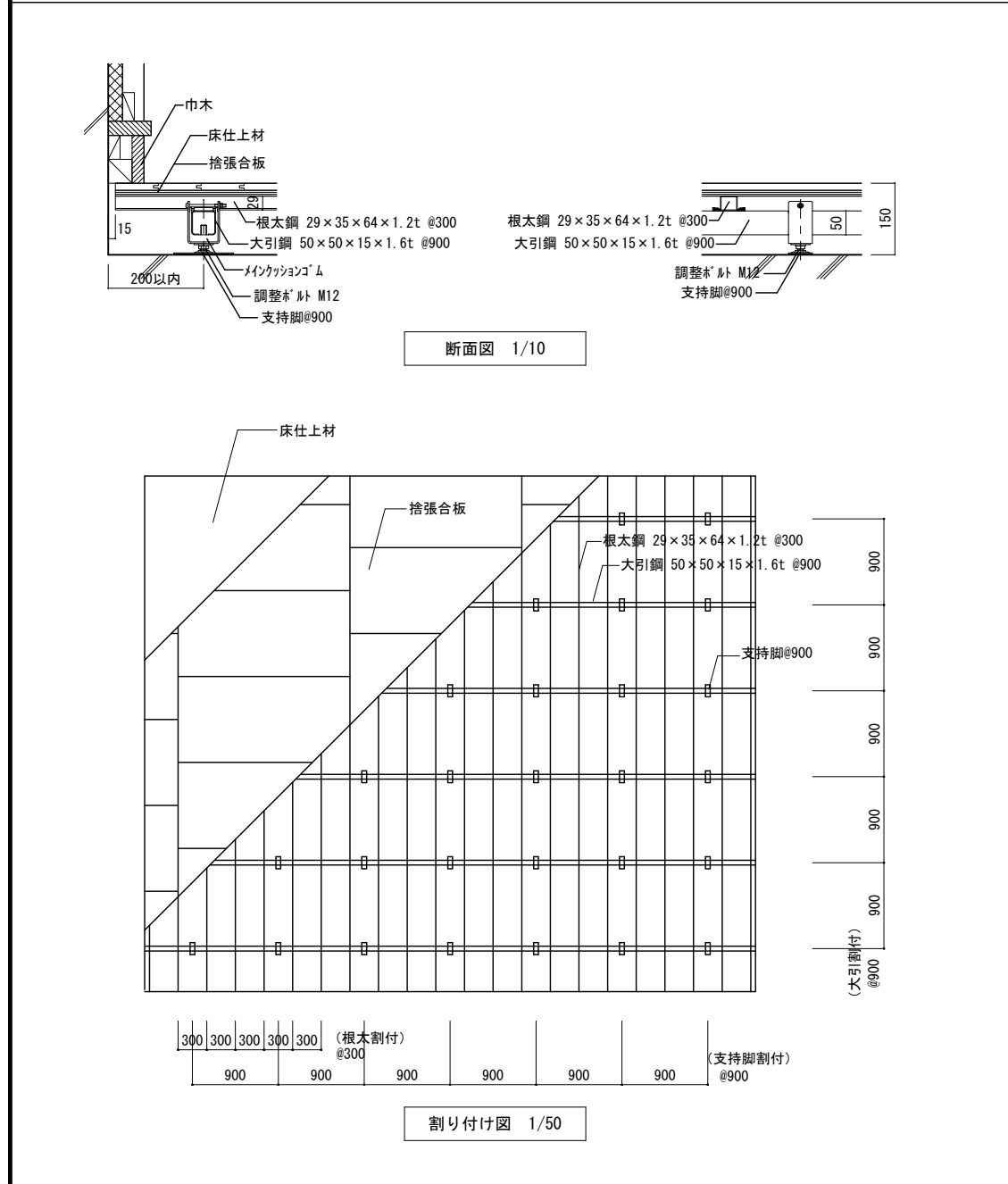
<p>屋根 1 軒先部詳細図 1/20</p>  <p>Diagram showing roof eave details with dimensions: 510, 410, 50, 50, 50, 95, 450, 70, 440, 600, 10, 5, 4, 5-1, 2.</p>	<p>屋根 2 軒先部詳細図 1/20</p>  <p>Diagram showing roof eave details with dimensions: 600, 185, 10, 8, 40-1, 120, 20, 9, 800, 900, 100, 150, 7, 6, 15.</p>	<p>テラス 詳細図 1/20</p>  <p>Diagram showing terrace detail with dimensions: 550, 13, 12, 11, 14, 41, 13, 14, 23, 1,280, 880, 880, 200, 400, 200.</p>							
<p>屋根マンホール 断面詳細図 1/10</p>  <p>Diagram showing roof manhole section with dimensions: 840, 500, 750, 50, 245, 370.</p>	<p>SD-4 詳細図 1/10</p>  <p>Diagram showing SD-4 detail with labels: 木毛板(既存のまま), 200, 暗幕ボックス(撤去・新設), 120, ハンガーレール(撤去・新設), 140, スチール7(撤去・新設), 70, 20, 110, 40, 倉庫(C), 2,000, 木枠(撤去・新設), 三方枠(撤去・新設), EXP.ゴム(撤去・新設), HPゴムローリング プレート15(撤去・新設), ステンシルール(撤去・新設), ビニール床シート2.5(撤去・新設).</p>	<p>SD-2・壁新設部 1/10</p>  <p>Diagram showing SD-2 wall new section detail with labels: スチール7(撤去), 枠(既存のまま), GB-R t=15(新設), GB-S t=12.5(新設), FK-D t=6.0(新設), LGS 75型(新設), GB-F t=21+21(新設), FK t=12.0の上 EP-G塗(新設), 巾木: ラワン t=25(新設), ビニール床シート2.5(撤去・新設), 2,000, 80, 100, 8.</p>							
<p>上がり框 (玄関) 1/10</p>  <p>Diagram showing upstairs frame (entrance) detail with labels: 床: 防滑性ビニール床シート2.5(新設), モルタル補修(新設), 100, 120, 20, 普通コンクリート(既存のまま), 普通コンクリート(新設), 床: ビニール床シート t=2.5(新設), モルタル下地(新設), 枠: テラス70×100(新設).</p>	<p>上がり框 (玄関) 1/10</p>								
<p>事業年度 年度 工事完成 年度</p>	<p>設計 令和 年月</p>	<p>三原市都市部建築課</p>	<p>大 中 小</p>	<p>地域 施設</p>	<p>種類 建築</p>	<p>工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事</p>	<p>事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之</p>	<p>図面名称・縮尺 S=1/20・1/10 (A3版=71%縮小) 部分詳細図(1)</p>	<p>図番 A-48</p>



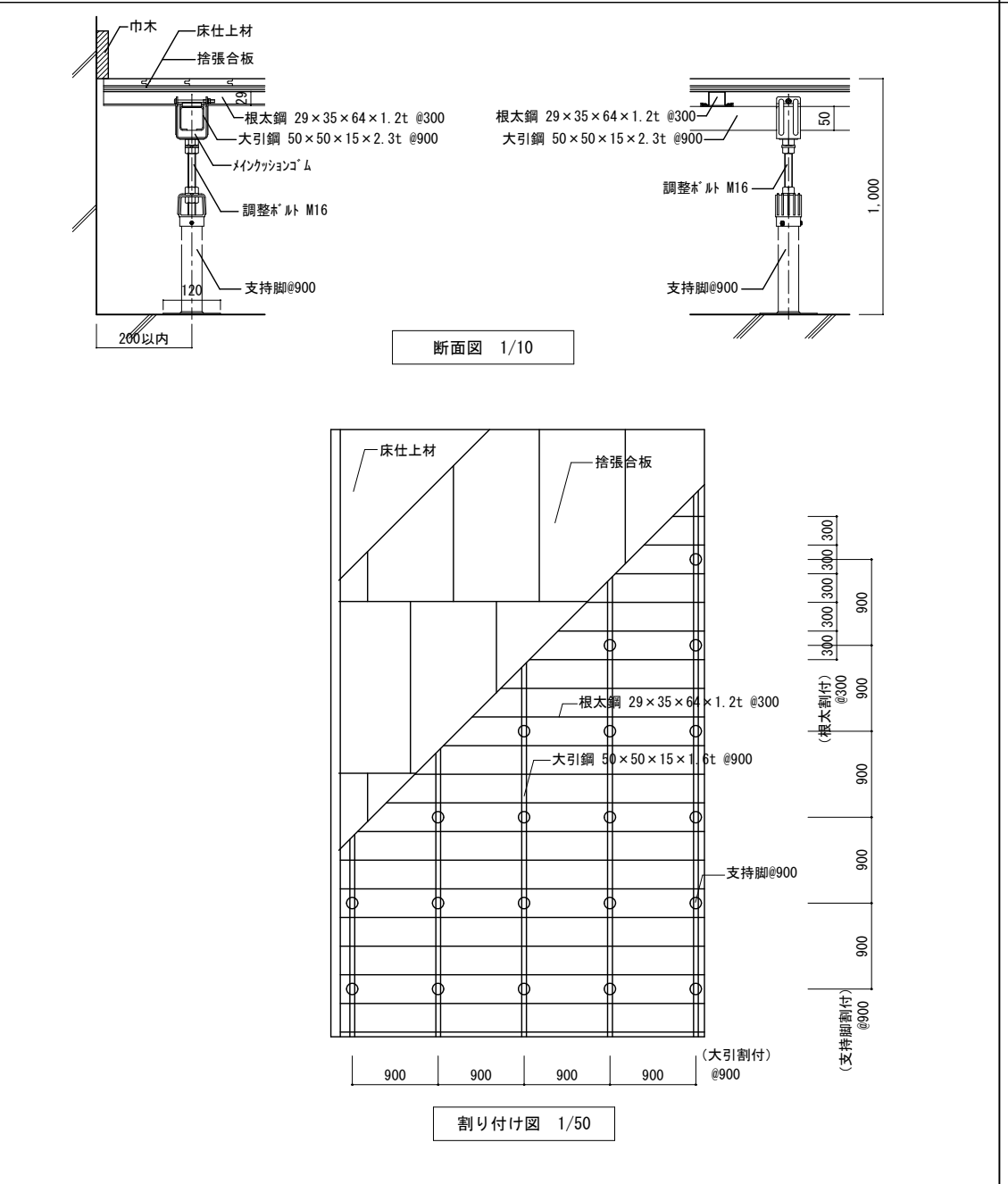
事業年度	年度	設計	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名	図面名称・縮尺	(A3版=71%縮小)	図番
工事完成	年度	令和 年月						建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松 靖之	部分詳細図 (2)	S=1/10	A-49



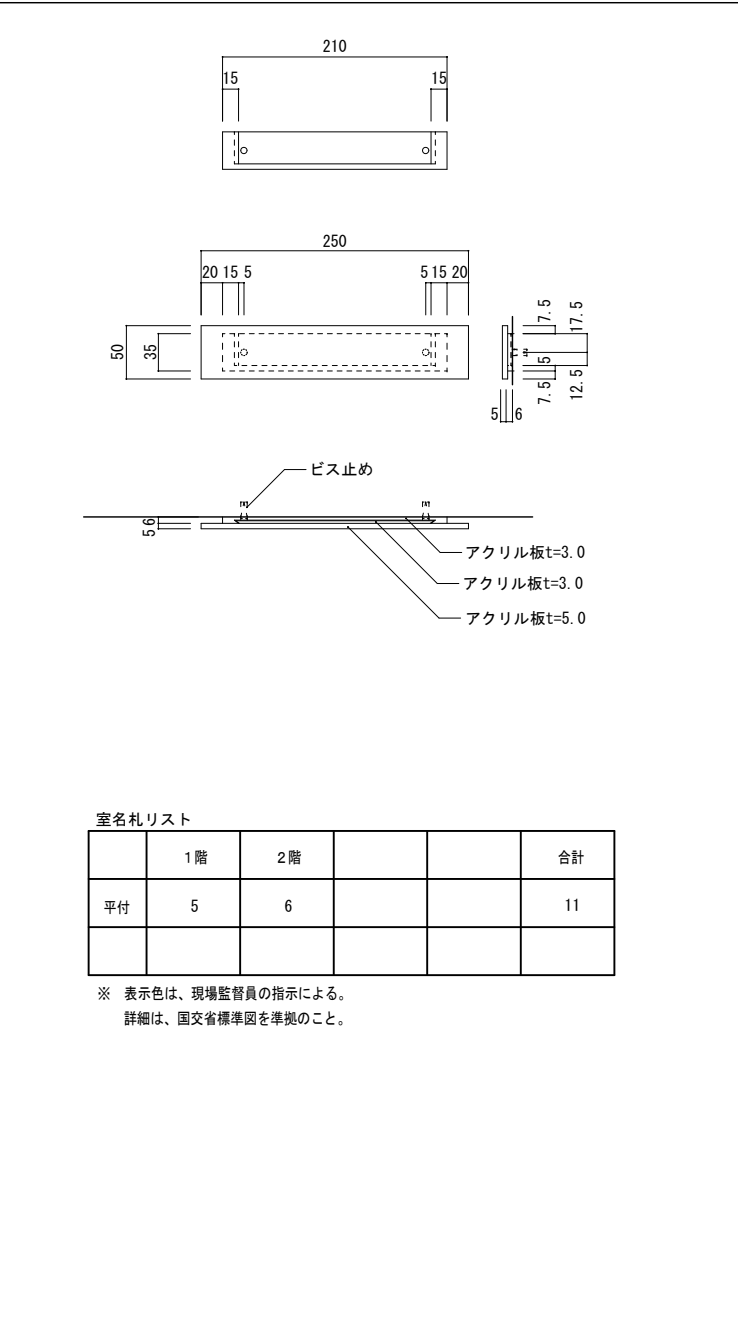
鋼製床 (低床用 H=150) 1/10・1/50

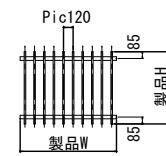
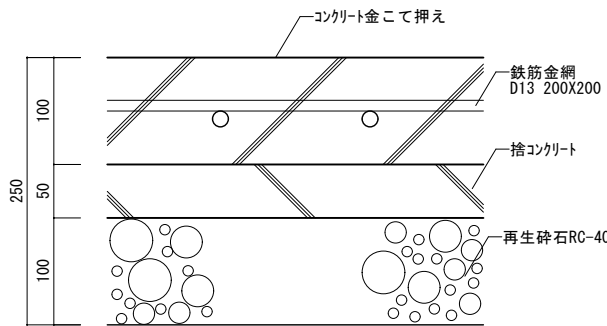
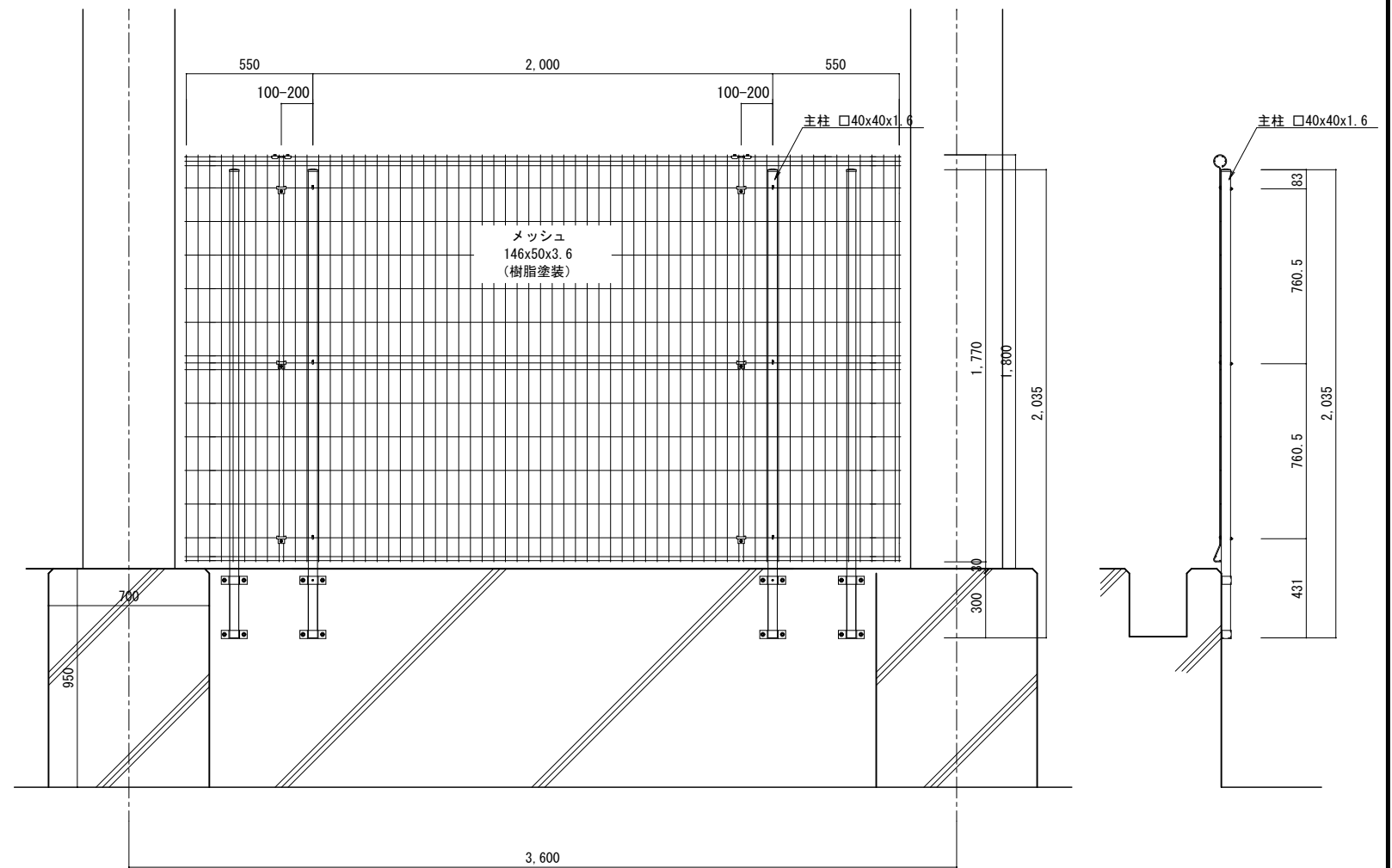
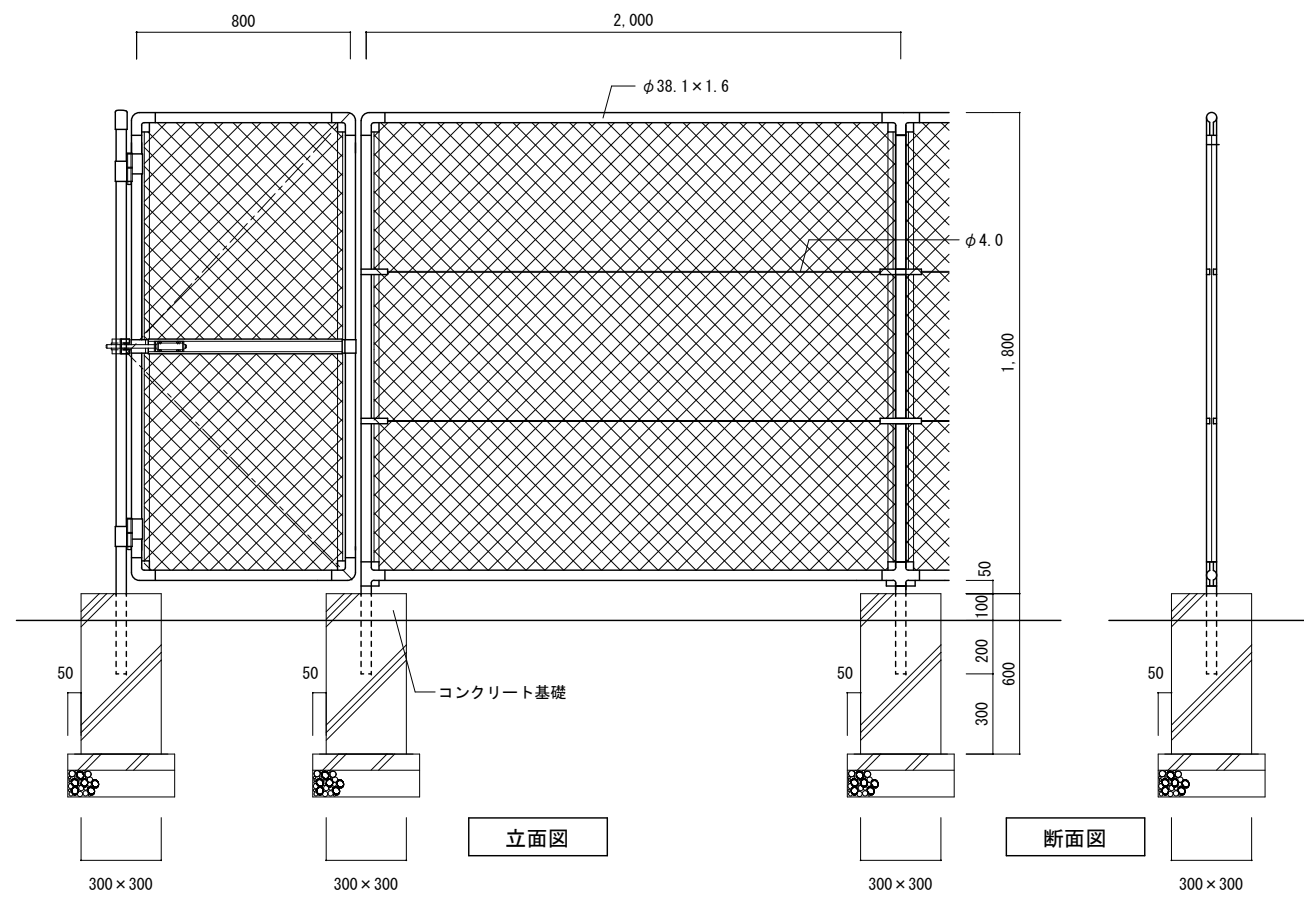


鋼製床 (高床タイプ H=1000) 1/10・1/50

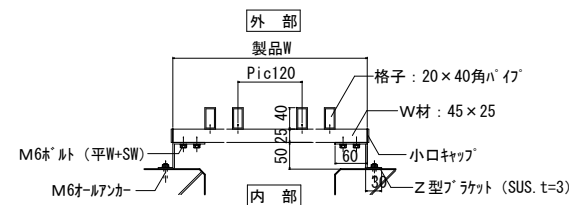


室名札 (平付け型) 1/5





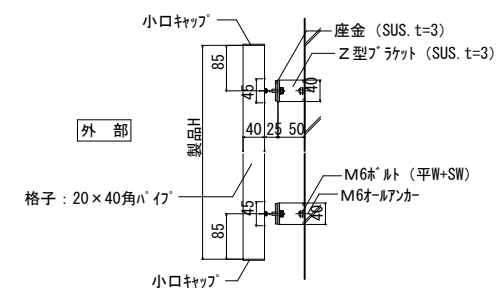
外観姿図



横断面図 1/10

鉄筋: 接着系差筋アンカー打 (新設)

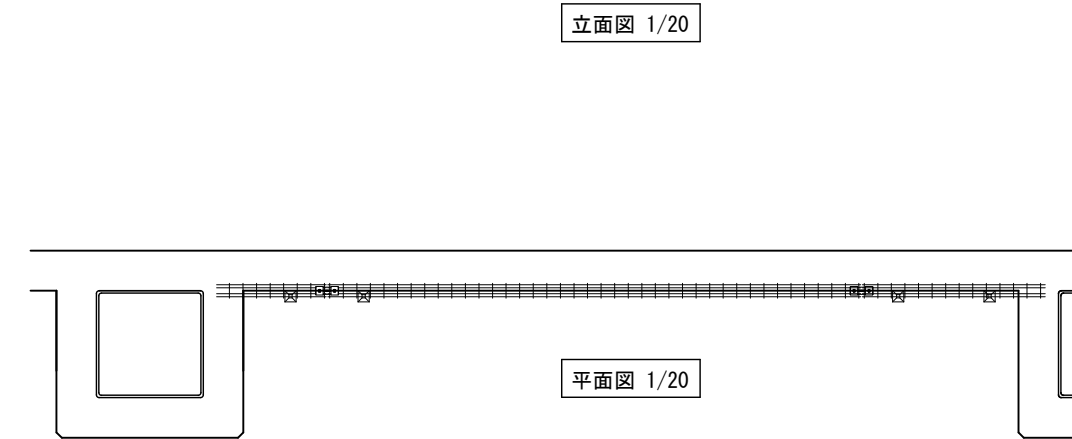
SD295 D13@200 打・ココ共 (新設)



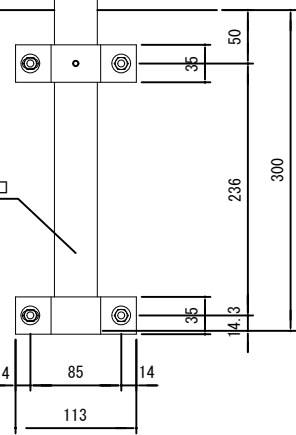
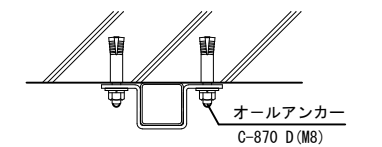
縦断面図 1/10

立面図 1/20

断面図 1/20

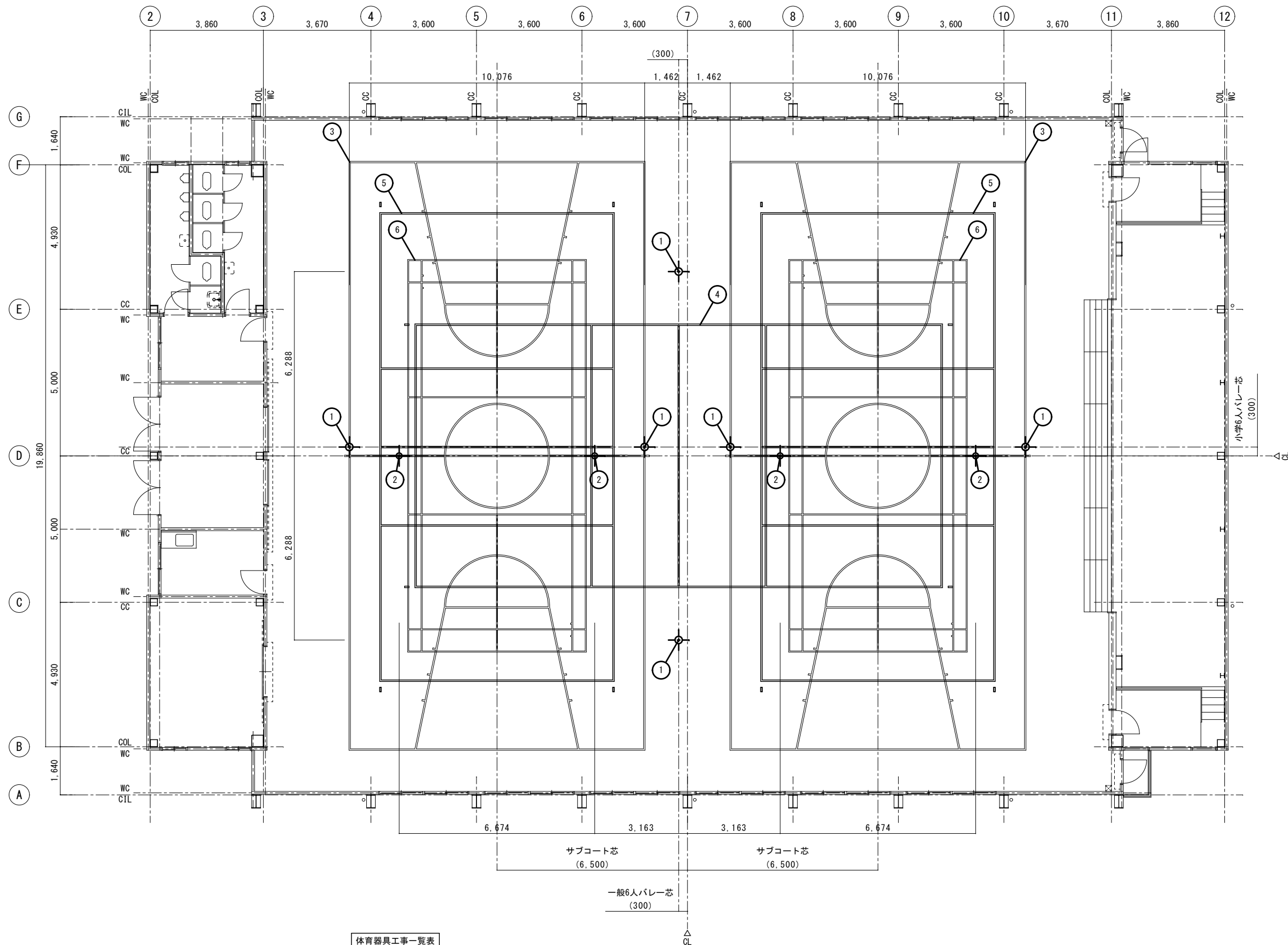


平面図 1/20



柱脚部詳細図 1/10

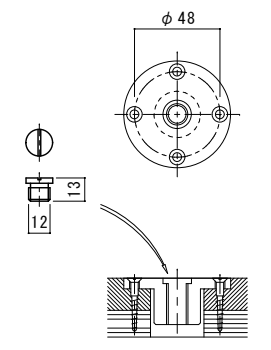
事業年度	年度	設計	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/5・1/10・1/20 (A3版=71%縮小)	図番
工事完成	年度	令和 年月		建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	部分詳細図 (4)	A-51						



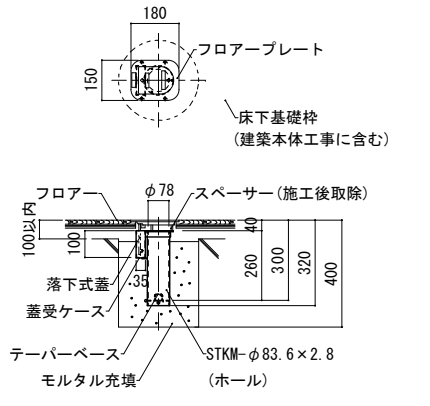
NO	品番	数量	品名 / 仕様	ライン色	ライン巾	優先順位
1	BV401	3対	バレー用床止金具 フローリング用 完全落蓋型 亜鉛ダイカスト製			
2	BD613	2組	バドミントン(T字ねじ止式)用 床止金具 フローリング用 ビス止式			
3	SL212	2面	ミニバスケットボールコート 20,000×10,000(※但し、既存バスケット台合わせとする) 全線		50mm	
4	SL213	1面	一般6人制バレーコート 18,000×9,000 全線		50mm	
5	SL213	2面	小学生6人制バレーコート 16,000×8,000 全線		50mm	
6	SL215	2面	バドミントンコート 13,400×6,100 全線		40mm	

※優先順位・ライン色は、打合せ等により決定のこと
 ※バスケット・バレーコート配置位置は参考とする。既存バスケット台及び、既存床下基礎位置確認後決定のこと

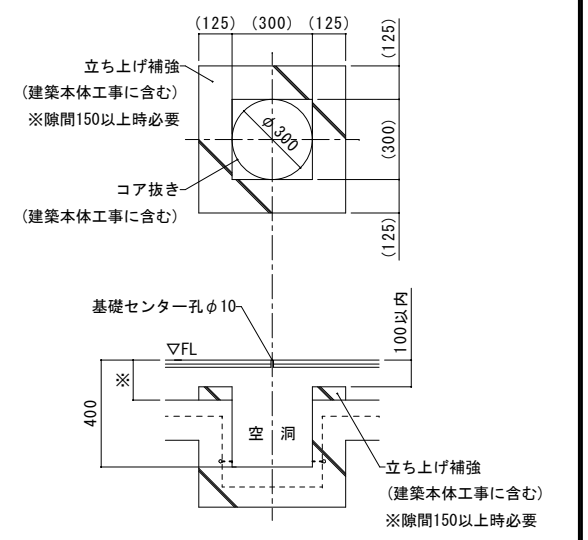
BD613 バドミントン(T字式)用床止金具 S=1:3



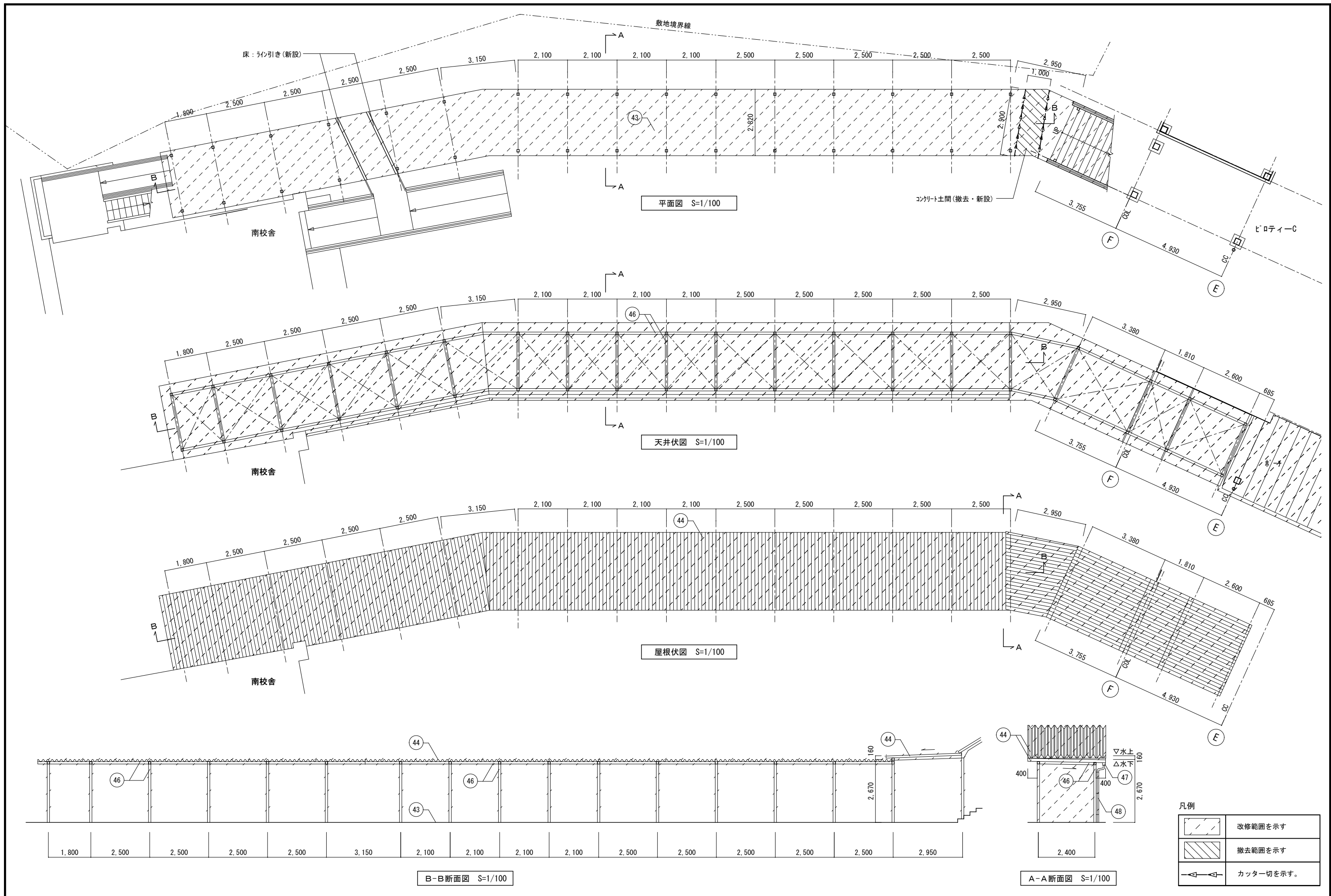
BV401 バレー床金具 S=1:20



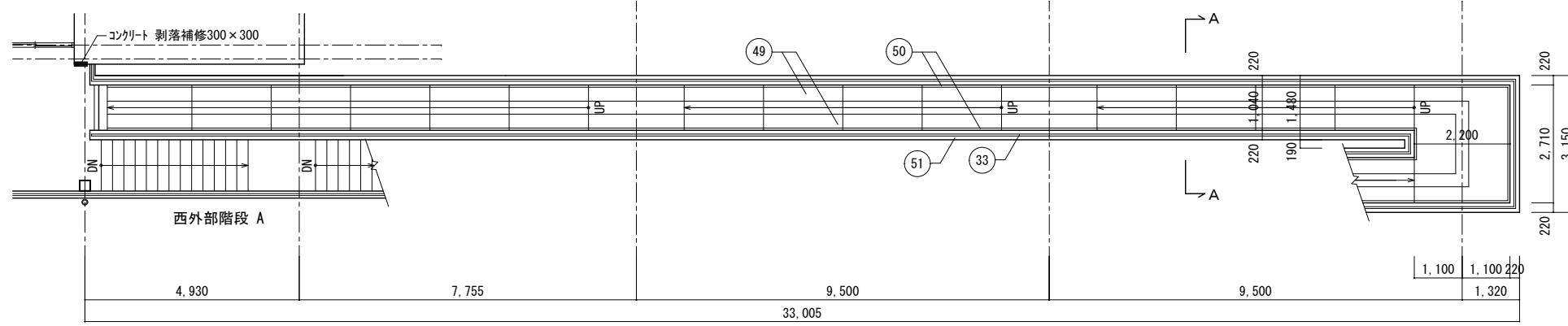
※既存床下基礎枠図は参考図示とする 既存床下基礎枠図 S=1:20
 ※図中括弧内寸法は参考記入とする (建築本体工事に含む)



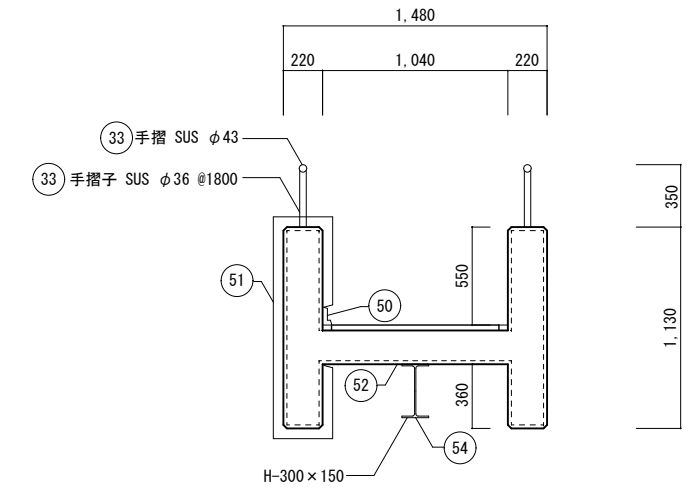
●図中※寸法(フロー仕上げ面~既存基礎枠先端迄の隙間)が100以上の場合、立ち上げ補強(建築本体工事に含む)を新設願います



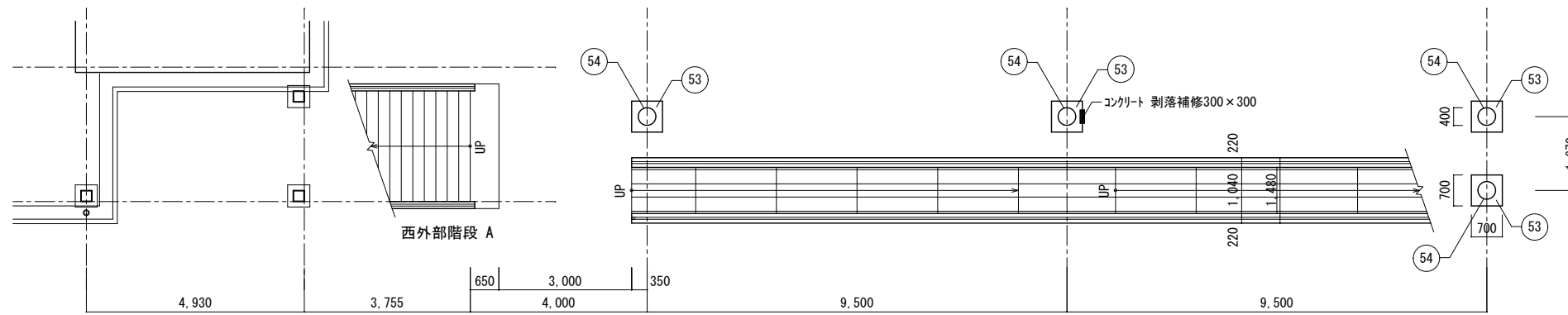
事業年度	年度	設計	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名	図面名称・縮尺 S=1/100	(A3版=71%縮小)	図番
工事完成	年度	令和 年月						建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松本 靖之	渡り廊下 平面図・天井伏図・屋根伏図・断面図		A-53



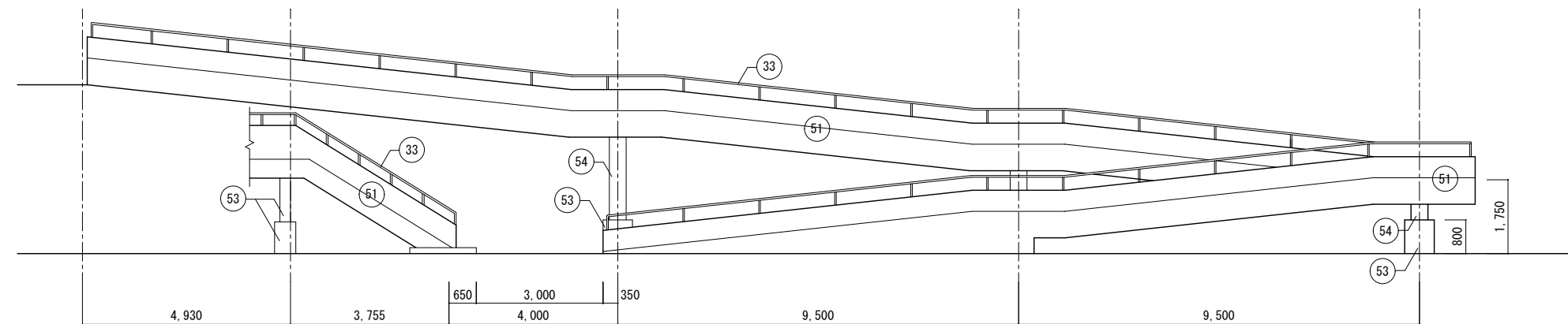
1階平面図 S=1/100



A-A断面図 S=1/30

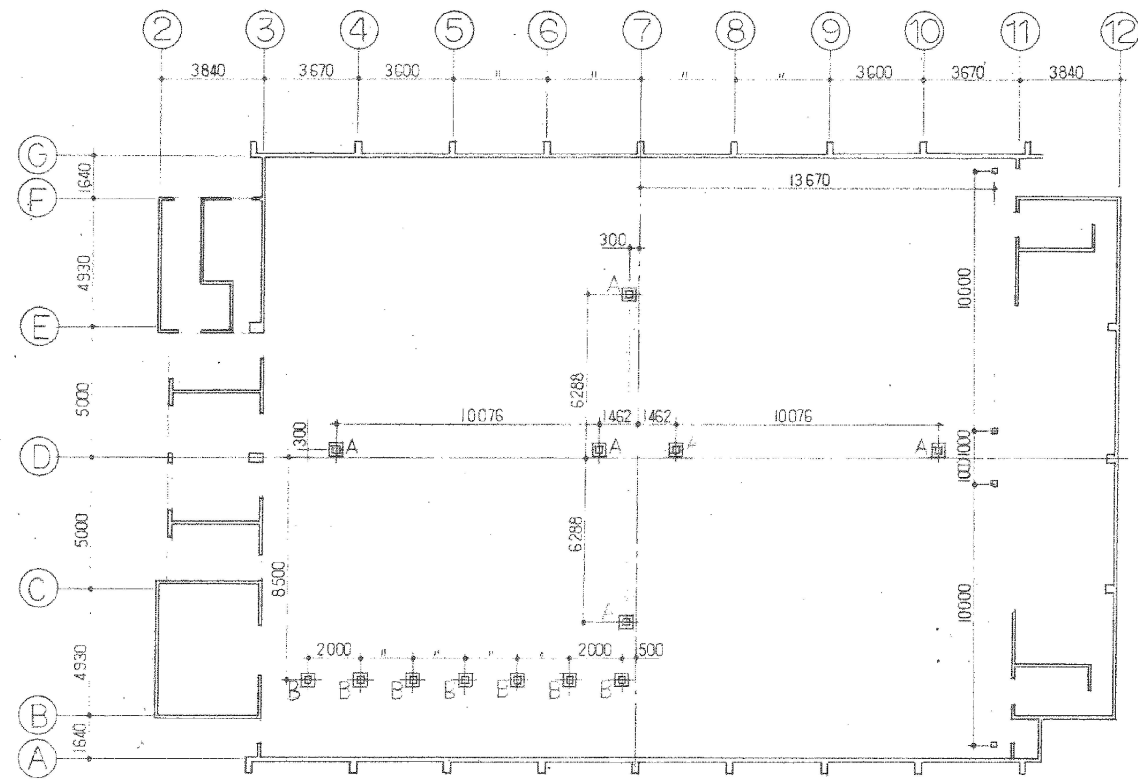


2階平面図 S=1/100



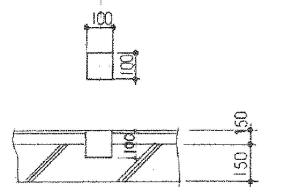
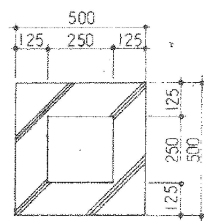
立面図 S=1/100

事業年度	年度	設計 令和 年月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/30・100 (A3版=71%縮小)	図番
工事完成	年度			建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事			知-フ'平面図・立面図・断面図		A-54			

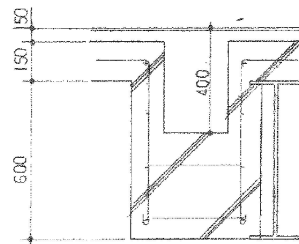


体育器具用基礎平面図 1/200

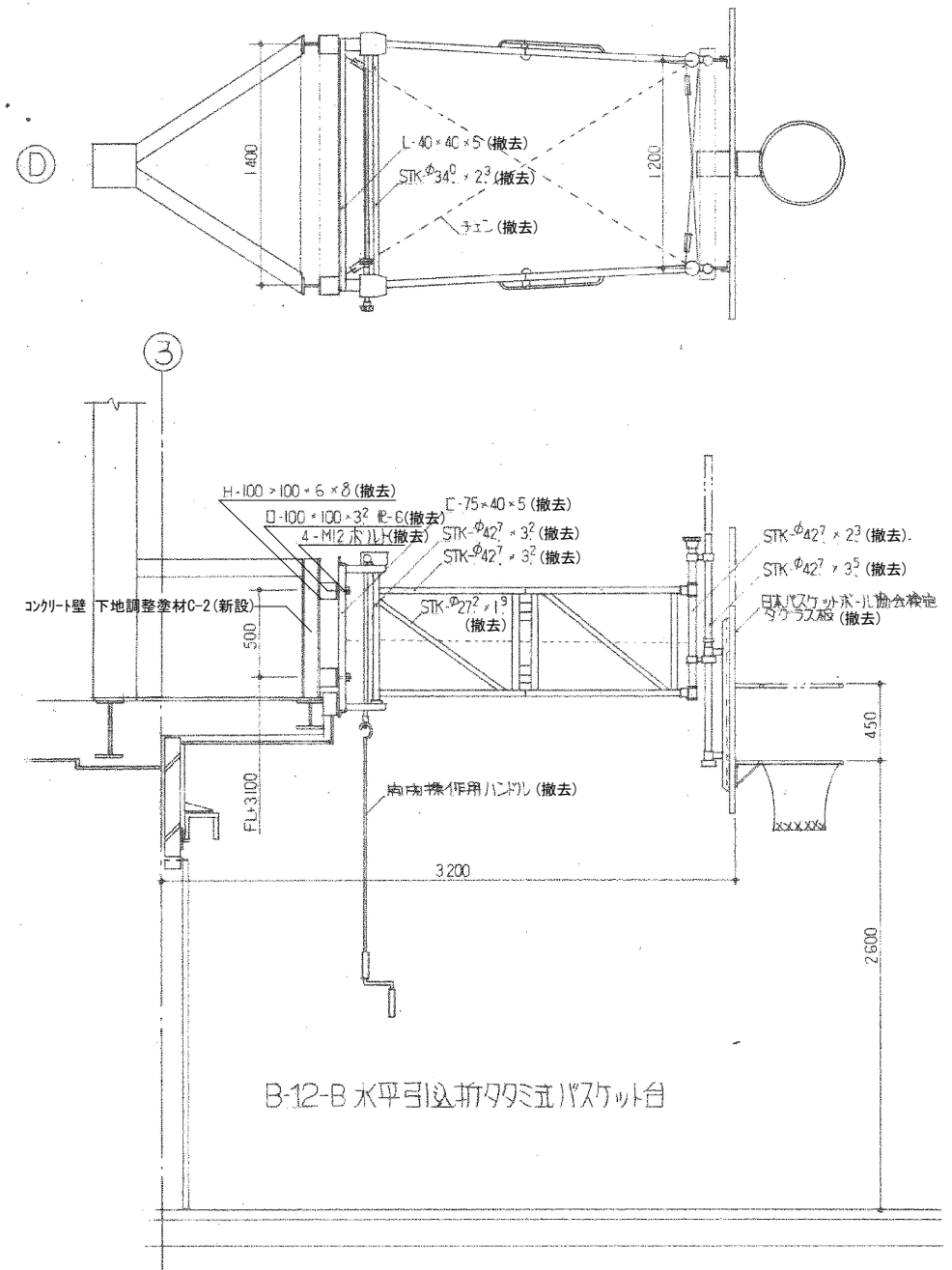
記号	名称	数量
A	12L-用	6
B	低鉄棒用	7
計		13



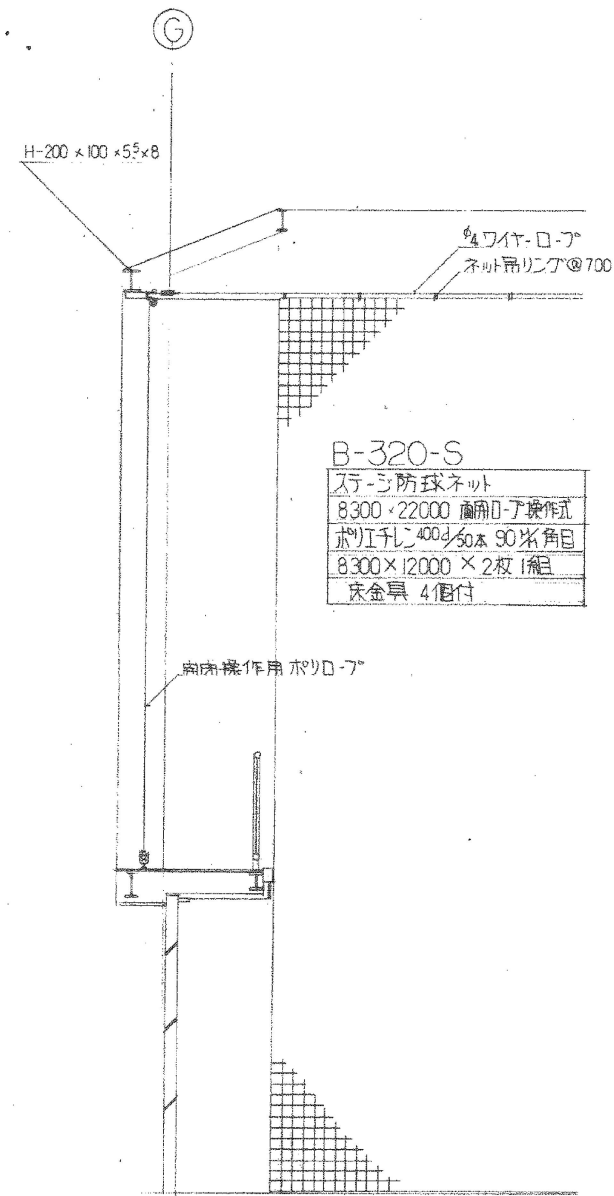
防球ネット用基礎 4個



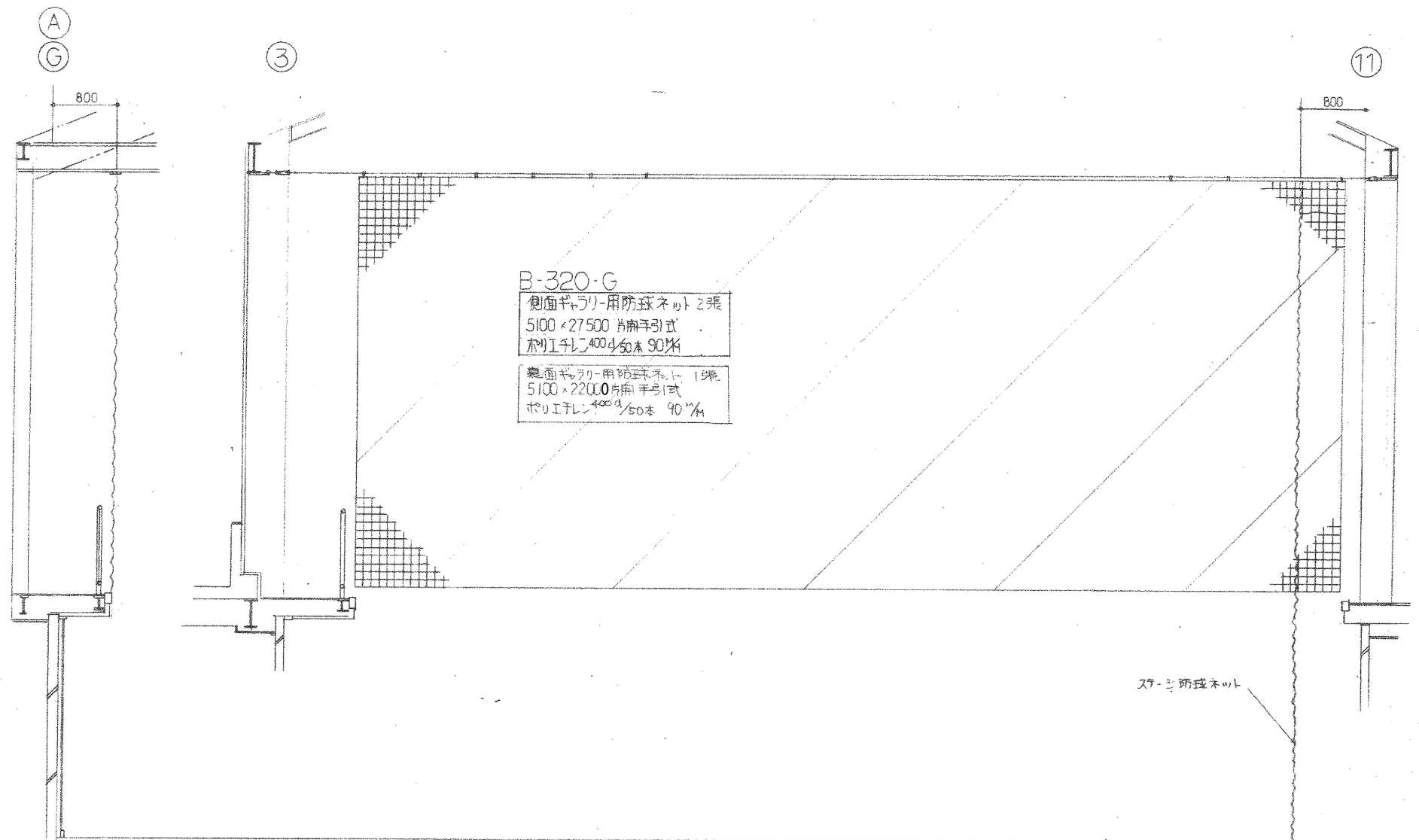
体育器具用基礎詳細図 1/20



水平引込折りたたみ式バスケット台撤去図 1/30

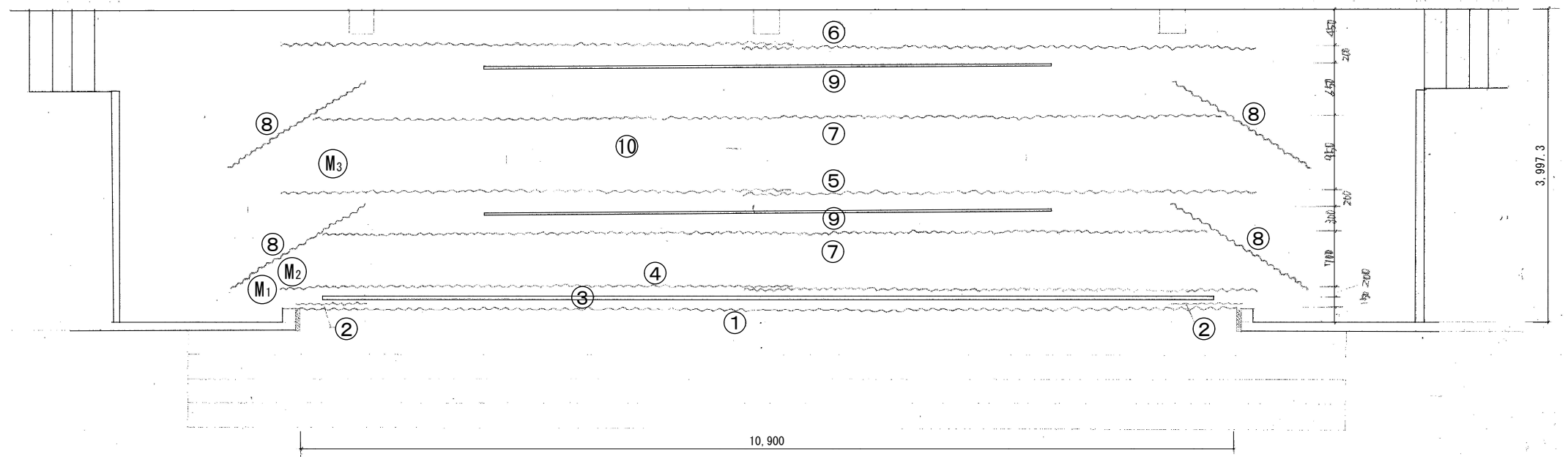


ステージ防球ネット詳細図 1/50

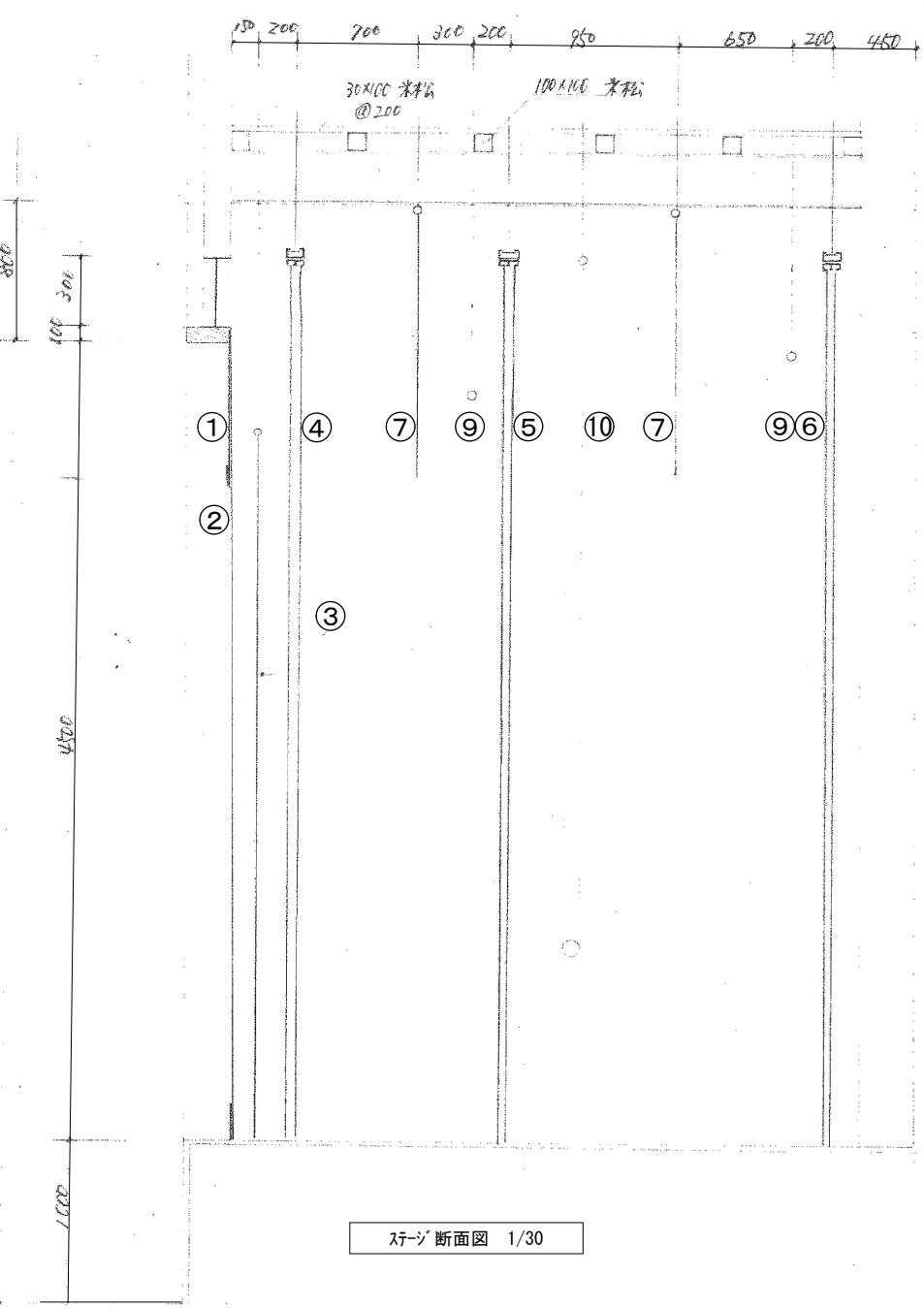


側面・裏面防球ネット詳細図 1/50

事業年度	年度	設計	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名	図面名称・縮尺 S=1/50	(A3版=71%縮小)	図番
工事完成	年度	令和 年月						建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	(参考図2) 防球ネット詳細図		A-56



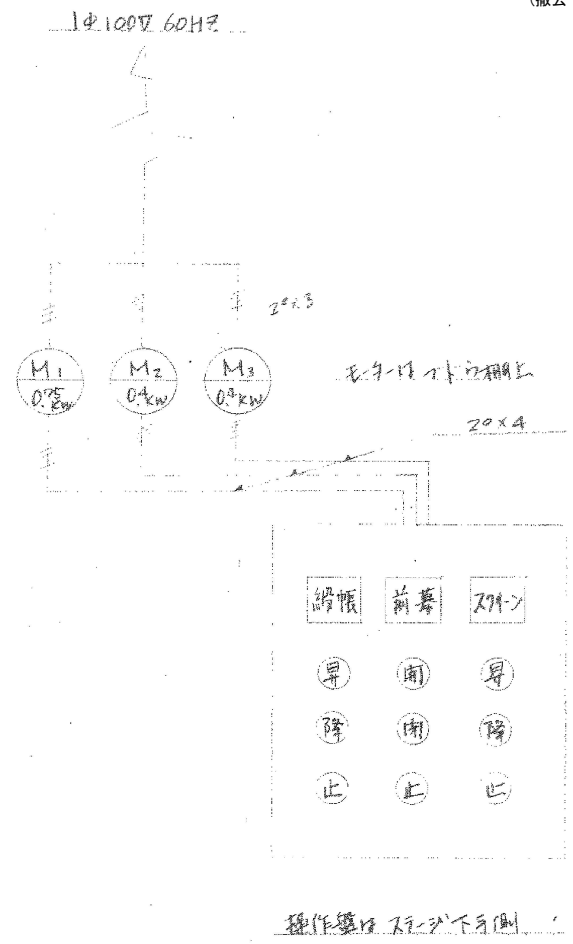
ステージ平面図 1/50

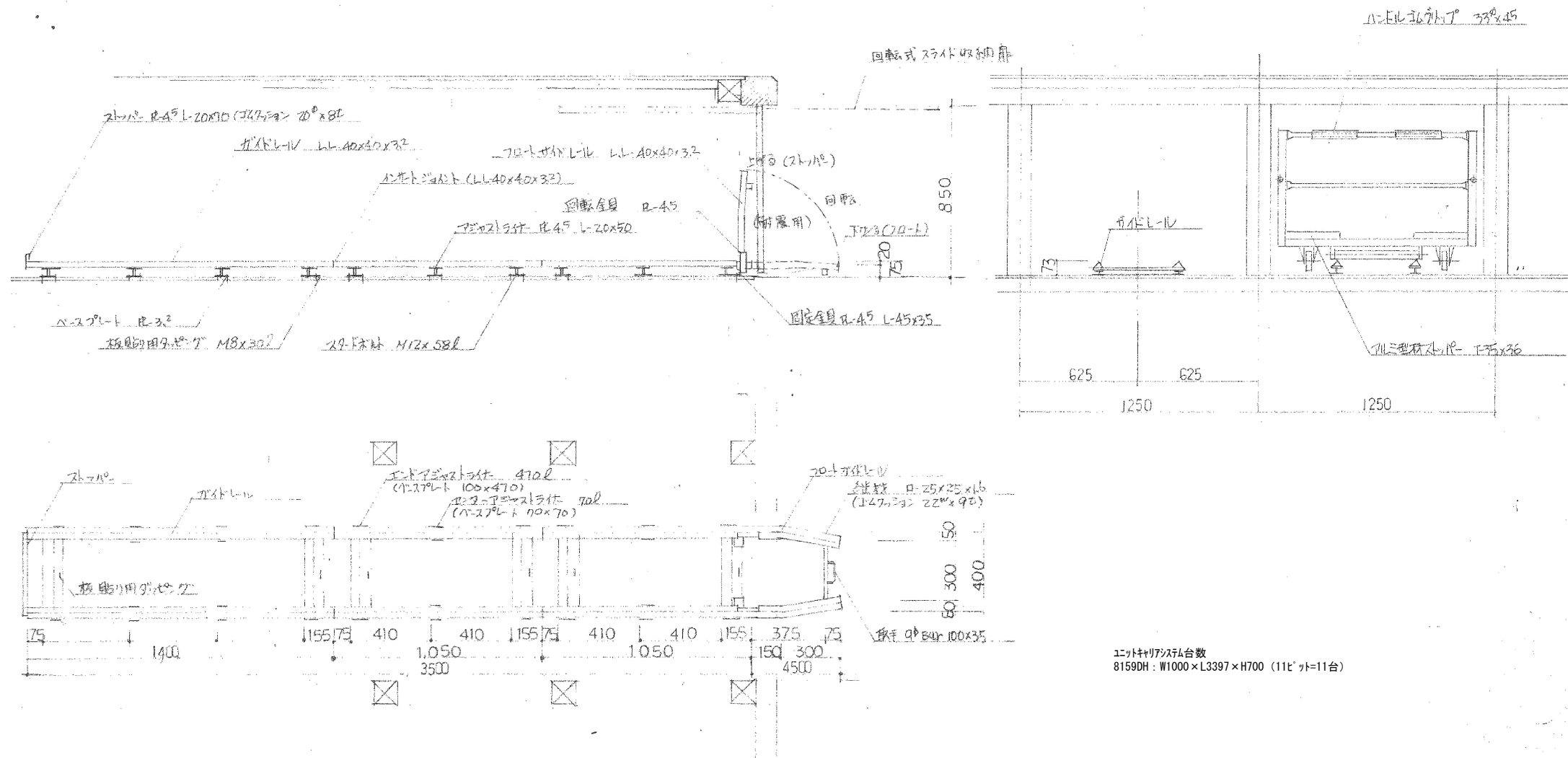


ステージ断面図 1/30

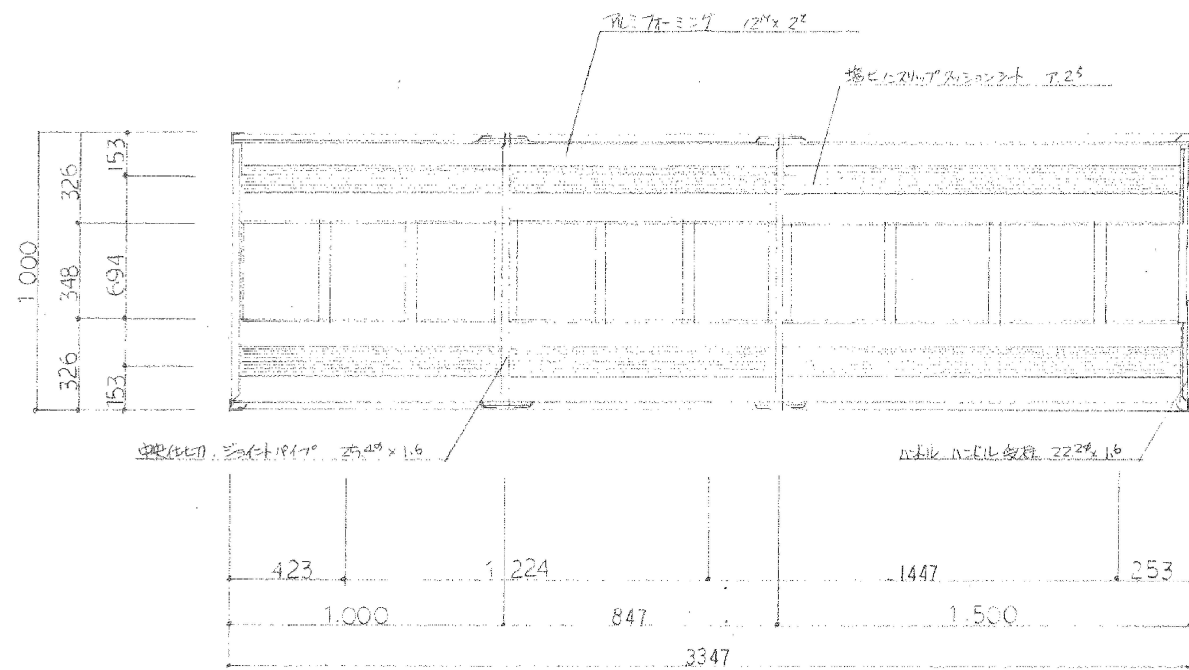
ステージ幕・緞帳

No	名称	数	方式	備考	幕仕様	幕寸法		枚数	
						巾	高さ		
①	一文字幕	1式	固定	釘打 プレート747-子内面	カワシマ バルコ	フレンジ120 校章717 裏地	11,500	900	1
②	袖幕	1対	固定	釘打 プレート747-子内面	カワシマ バルコ	フレンジ210 倍ヒダ 裏地	900	4,600	2
③	緞帳	1式	電動折上式	YM-B8 100V×0.75kw 親滑車170φ ワイヤ4φ	カワシマ 山波	裏地	11,000	4,000	1
④	前幕	1式	電動開閉式	YMB-4 100V×0.4kw	カワシマ バルコ	フレンジ210 倍ヒダ	6,300	5,000	2
⑤	中幕	1式	手動ロープ引分式	Z40型レール	カワシマ バルコ	フレンジ210 倍ヒダ	6,300	5,000	2
⑥	後幕	1式	手動ロープ引分式	Z40型レール	カワシマ バルコ	フレンジ210 倍ヒダ	6,300	5,000	2
⑦	カスミ幕	2式	固定	パイプ吊	カワシマ バルコ	フレンジ210 倍ヒダ	11,000	1,500	2
⑧	脇幕	2対	固定	パイプ吊	カワシマ バルコ	フレンジ210 倍ヒダ	2,000	5,000	4
⑨	ボタン	2ヶ所	手動昇降簡易型	L=7000 38φ					
⑩	スクリーン	1式	手動巻上式	イメージ寸法 W6000×H2300 YMB4 100V×0.4kw					

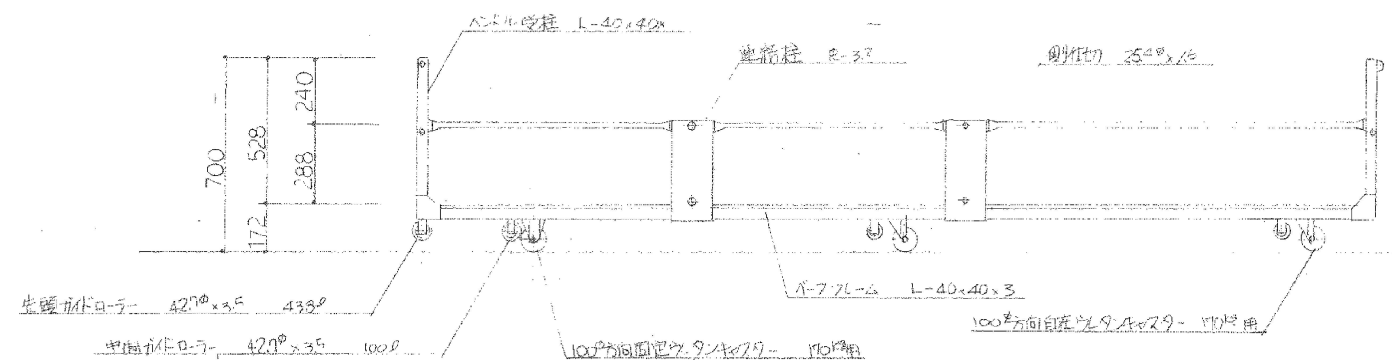




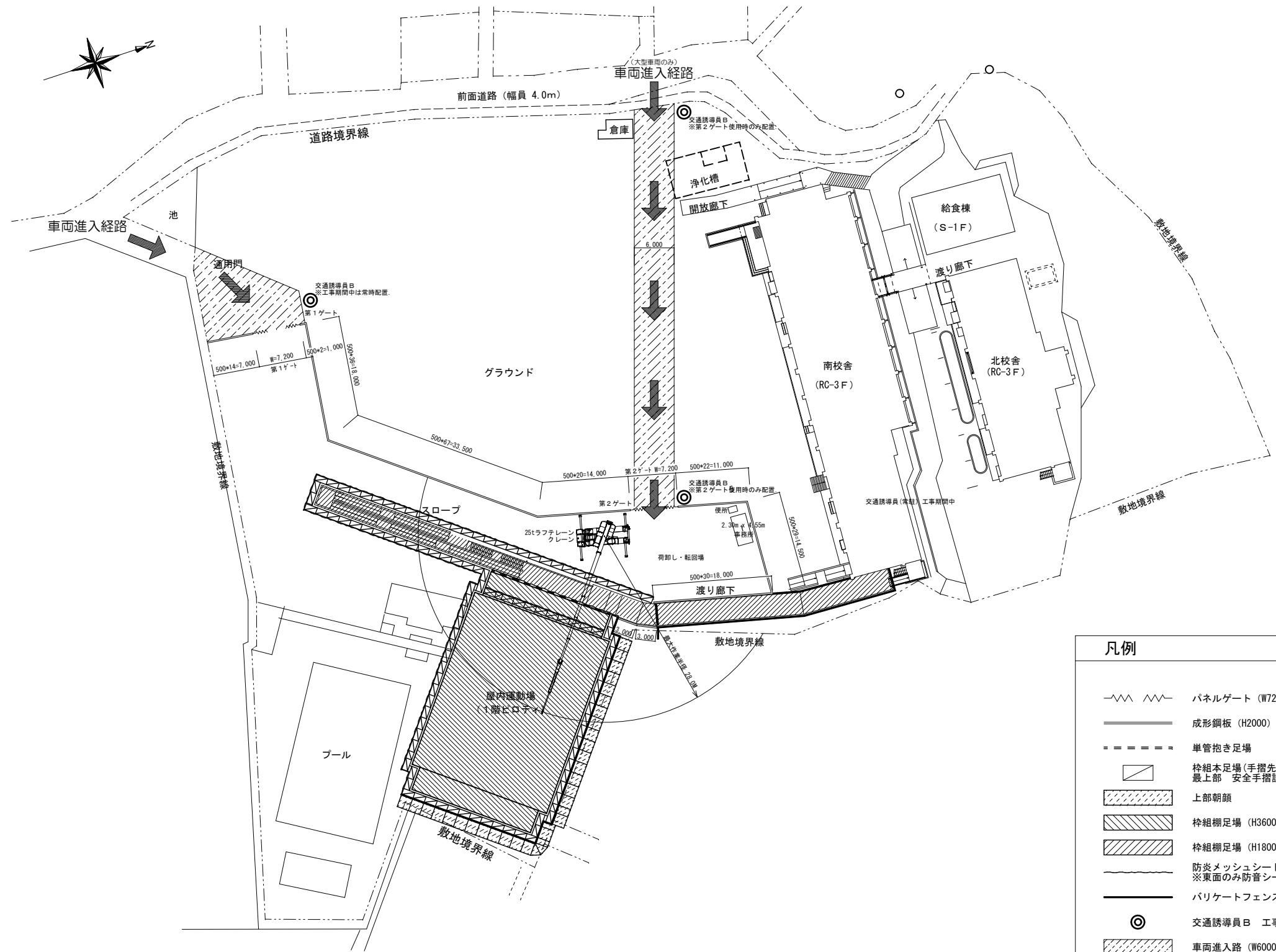
ユニット78159DH E' 内詳細図 1/20



ユニット78159DH詳細図 1/20



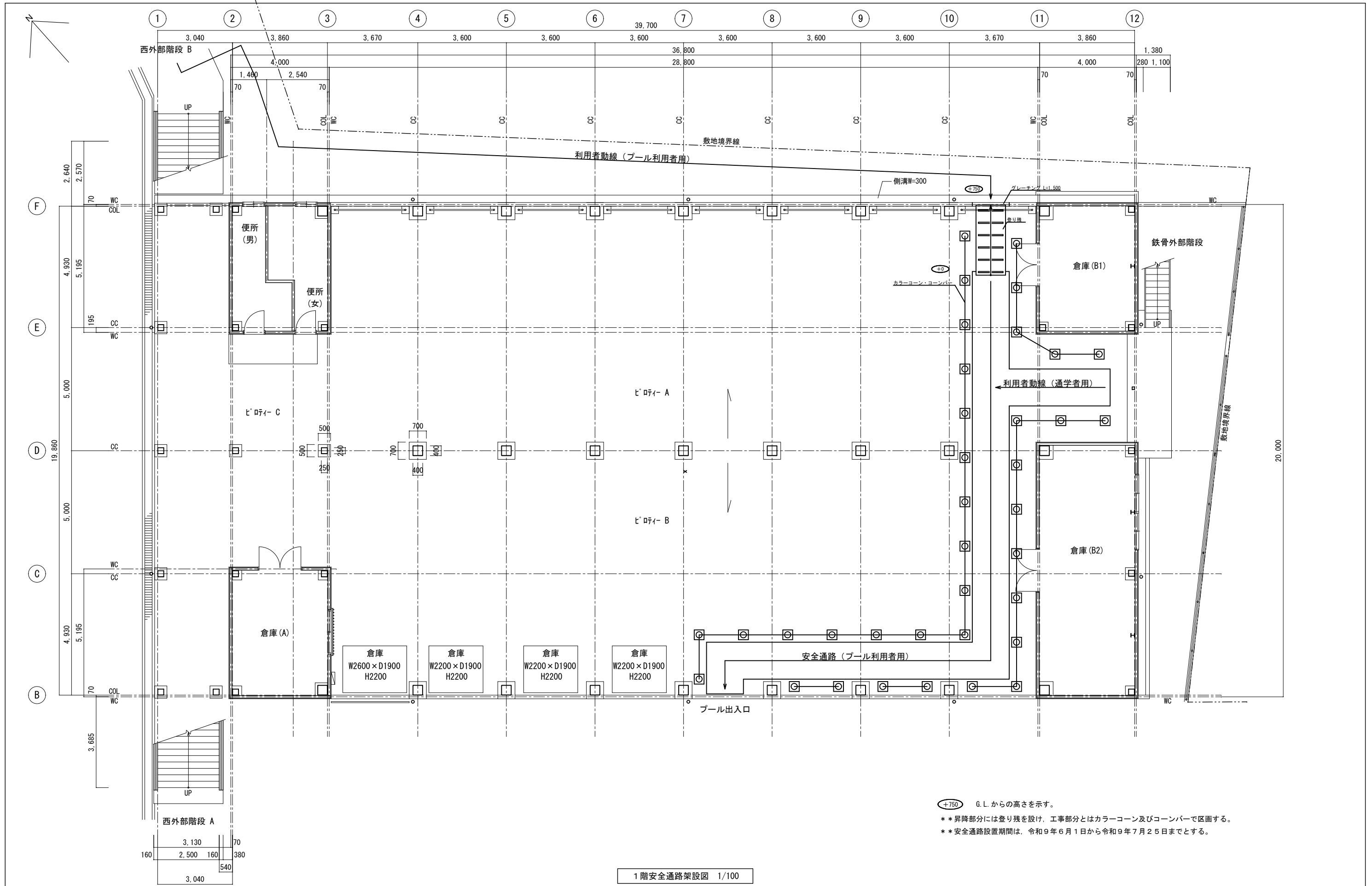
事業年度	年度	設計	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名	図面名称・縮尺 S=1/20	(A3版=71%縮小)	図番
令和	年月	三原市都市部建築課						建築	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	(参考図4) ユニット78159DH E' 内詳細図		A-58



仮設計画図 1/500

凡例	
	パネルゲート (W7200)
	成形鋼板 (H2000)
	単管抱き足場
	枠組本足場(手摺先行方式) W=900 最上部 安全手摺設置
	上部朝顔 ※北面・東面
	枠組棚足場 (H3600) ※1階ピロティ
	枠組棚足場 (H1800) ※渡り廊下・スロープ
	防災メッシュシート貼 ※東面のみ防音シート貼
	バリケードフェンス (H1800)
	交通誘導員B 工事期間中は常時配置すること
	車両進入路 (W6000)

・工事関係車両の入退場は、児童との接触事故を防止するため、7:40~8:15及び15:40~16:00を除く時間帯とすること。
 ・第2ゲートを使用して搬入を行う際は、事前に学校関係者及び監督員と搬入時刻、車両台数等について協議した上で計画すること。
 ・車両進入経路及びグラウンドの工事使用部分については、工事完了後、整地及び転圧(程度によっては真砂土の入替)を行い、現状復旧すること。

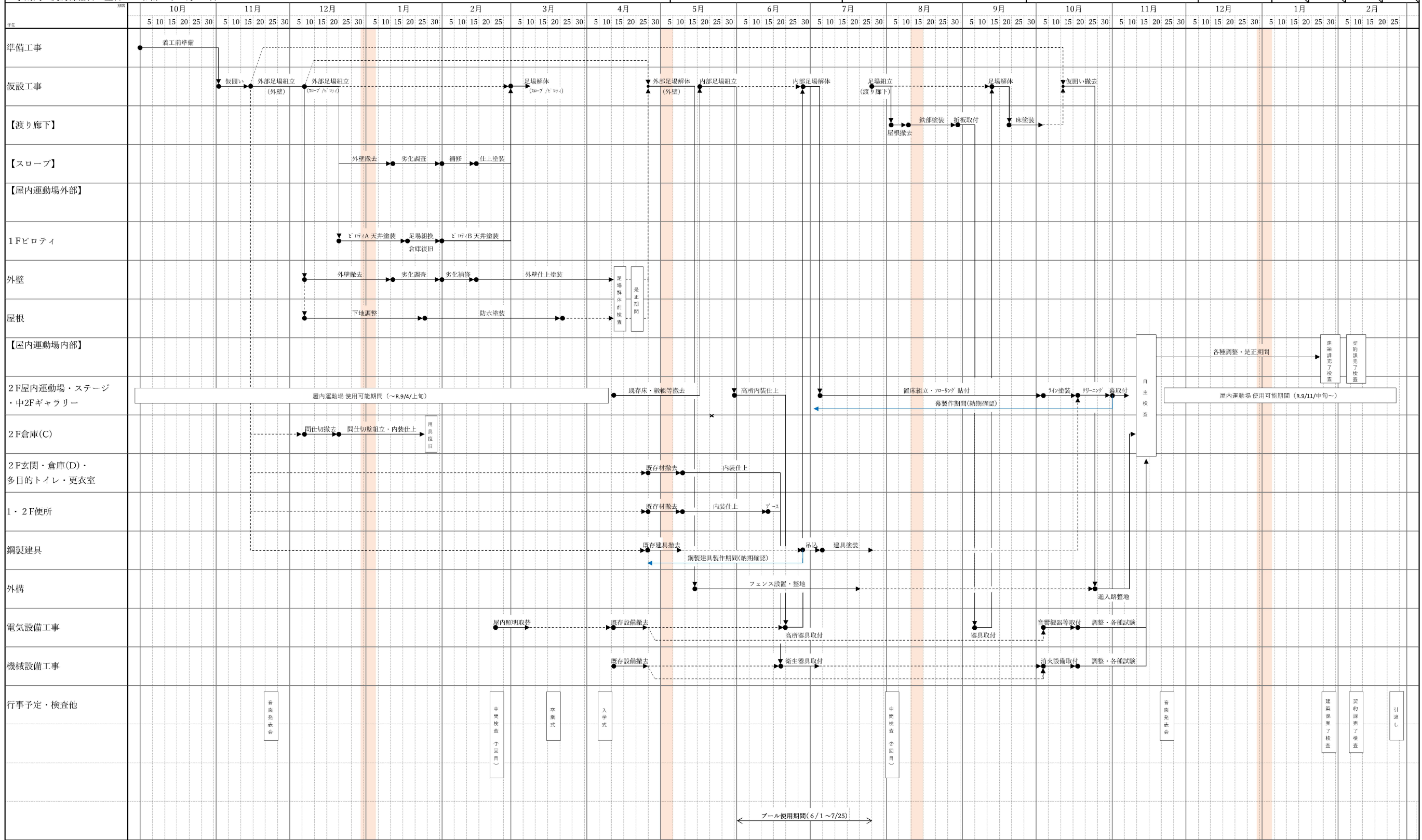


(+750) G.L.からの高さを示す。
 **昇降部分には登り残を設け、工事部分とはカラーコーン及びコーンバーで区画する。
 **安全通路設置期間は、令和9年6月1日から令和9年7月25日までとする。

1階安全通路架設図 1/100

三原市役所 <small>三原市港町3丁目5番1号 TEL(0848)64-2111</small>	課長	係長	設計	校閲	日付	備考	業務名称 本郷小学校屋内運動場寿命化改修工事(建築主体工事)	図面名称 安全通路架設図(参考図)	縮尺 S=1/100	図面番号 A-60

本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事（建築主体工事）		発注者 三原市長 岡田吉弘	構造 鉄骨造	階数 2階建て	三原市都市部建築課			
全体工程表（参考）		設計者 株式会社MasMas	延面積 923.00㎡	着工 契約締結日の翌日	課長	係長	係員	作成
		受注者 未定	工事場所 三原市本郷北三丁目	竣工 令和9年2月28日				
工事期間 契約締結日の翌日 ~ 令和9年2月28日								



三原市役所
三原市港町3丁目5番1号 TEL(0848) 64-2111

課長	係長	設計	校閲	日付	備考

業務名称
本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事（建築主体工事）

図面名称	全体工程表（参考）	縮尺	N.S.	図面番号	A-61
------	-----------	----	------	------	------

参考数量書

工事名称 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事（建築主体工事）

工事場所 三原市本郷北三丁目

[工事概要]

用途、構造、面積

屋内運動場、鉄骨造2階建て、床面積925㎡

工事範囲

改修工事一式（建築主体工事）

別途発注工事

本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事（設備工事）

工期

契約締結日の翌日 ～ 令和10年2月28日

一般事項

《 工事予算内訳 》

合計金額

〈内 訳〉

区分

金額

概要

設計金額

消費税額

合計金額

工事費内訳

名 称	数 量	単 位	金 額	備 考
直接工事費				
建築工事	1	式		
計				
共通費				
共通仮設費	1	式		
現場管理費	1	式		
一般管理費等	1	式		
計				
工事価格	1	式		
消費税等相当額	1	式		消費税率 10 %
工事費	1	式		

建築工事 中科目別内訳

屋内運動場					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
直接仮設		1	式		
計					
防水改修	撤去	1	式		
防水改修	防水	1	式		
防水改修	屋根及びとい	1	式		
計					
外壁改修	撤去	1	式		
外壁改修	改修	1	式		
計					
建具改修	撤去	1	式		
建具改修	改修	1	式		
計					
内装改修	撤去	1	式		
内装改修	内装改修	1	式		
内装改修	ユニット及びその他改修	1	式		

建築工事 中科目別内訳

屋内運動場					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
計					
塗装改修	改修	1	式		
計					
環境配慮改修		1	式		
計					
外構改修	撤去	1	式		
外構改修	土間改修	1	式		
外構改修	外構改修	1	式		
計					
発生材処理	運搬	1	式		
発生材処理	処分	1	式		
計					

建築工事 細目別内訳

屋内運動場		直接仮設				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
単管抱足場	6か月	149	m ²			
枠組本足場 (手すり先行方式)	W=900 6か月	2,395	m ²			
安全手すり	枠組本足場用 6か月	202	m			
足場外部養生シート	防災マッシュシート I 類 6か月	2,157	m ²			
足部外部養生シート	防音シート 6か月	238	m ²			
朝顔	1段 6か月	1	式			
内部仕上足場 (手すり先行方式)	枠組棚足場 H=3600 6か月	788	m ²			
内部仕上足場 (手すり先行方式)	枠組棚足場 H=1800 6か月	293	m ²			
内部仕上足場	脚立足場 2か月	764	m ²			
ローリングタワー	5段 2か月	1	台			
墨出し	一般 RC・SRC造 地上階	764	m ²			
養生	一般 RC・SRC造 地上階	764	m ²			
整理清掃 後片付け	一般 RC・SRC造 地上階	764	m ²			
計						

建築工事 細目別内訳

屋内運動場		防水改修		撤去		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
既存防水層撤去	屋上防水層 シート防水層 集積共 平面	76.2	m ²			
既存防水層撤去	屋上防水層 シート防水層 集積共 立上り	23.7	m ²			
巾木モルタル撤去	集積共	11.6	m ²			
押え金物撤去	集積共	108	m			
シーリング [°] 撤去	押え金物シーリング [°] 集積共	108	m			
シーリング [°] 撤去	外壁 集積共	2,360	m			
バックアップ [°] 撤去	屋根 集積共	3,447	m			
ルーフトレイン撤去	100φ 集積共	12	か所			
フロアトレイン撤去	50φ 集積共	2	か所			
伸縮目地材撤去	集積共	148	m			
角型屋根マンホール 撤去	集積共	1	か所			
折板屋根撤去	集積共	154	m ²			
たてどい撤去	鋼管 集積共 SGP139.8φ	20	m			
たてどい撤去	VP管 集積共 100φ	142	m			
たてどい撤去	VP管 集積共 65φ	10.7	m			

建築工事 細目別内訳

屋内運動場		防水改修		防水		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
既存塗膜除去 下地調整	劣化部補修 下地調整RB種(塗替え面) 錆止め塗料As種(鉛・クロムフリー種)	117	m ²			
水洗い	屋根1 9MPa以上	1,172	m ²			
塗膜防水(材工共)	X-2H 密着工法 ウレタンゴム系高強度形 表面塗装メーカー標準色 遮熱仕様	1,172	m ²			
水洗い	屋根2 9MPa以上	88.3	m ²			
下地調整	エポキシ樹脂モルタル塗り	88.3	m ²			
塗膜防水(材工共)	X-1 緩衝工法 ウレタンゴム系 平面 表面塗装メーカー標準色 遮熱仕様 脱気筒共	76.2	m ²			
塗膜防水(材工共)	X-2 密着工法 ウレタンゴム系 立上り 表面塗装メーカー標準色 遮熱仕様	12.1	m ²			
水洗い	テラス 9MPa以上	137	m ²			
塗膜防水(材工共)	X-1 緩衝工法 ウレタンゴム系 平面 表面塗装メーカー標準色 遮熱仕様 ポリマーセメントモルタル共 脱気筒共	126	m ²			
塗膜防水(材工共)	X-2 密着工法 ウレタンゴム系 立上り 表面塗装メーカー標準色 遮熱仕様 ポリマーセメントモルタル共	11.6	m ²			
シーリング	一般部 ポリウレタン系(PU-2) 15×10	108	m			
シーリング	一般部 ポリウレタン系(PU-2) 20×10	2,360	m			
シーリング	一般部 ポリウレタン系(PU-2) 25×10	3,886	m			
シーリング	一般部 ポリウレタン系(PU-2) 30φ ホルト部	1,208	か所			
改修用ルーフトレイン	100φ	12	か所			

建築工事 細目別内訳

屋内運動場		防水改修		屋根及びとい			
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考	
折板屋根	H90	154	m ²				
タイトフレーム	折板H90	96.2	m				
止面戸	折板H90	96.2	m				
縦樋養生管	径139.8	20	m				
DP塗装	縦管養生管 径139.8	20	m				
硬質ポリ塩化ビニル管とい(カラー)	径100	142	m				
硬質ポリ塩化ビニル管とい(カラー)	径65	10.7	m				
硬質ポリ塩化ビニル管とい(カラー)	径50	4	m				
塩ビ角樋	120×120	33.8	m				
集水器	角ます	2	か所				
掴金物	SUS製	120	か所				
計							

建築工事 細目別内訳

屋内運動場		外壁改修		改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
施工数量調査 (外壁改修)	打放し面・仕上塗材改修	1,826	m ²			
サンダーケレン	根廻り	120	m ²			
水洗い	根廻り 9MPa以上	120	m ²			
下地調整塗材 改修仕様	C-2 厚1~2mm程度 こて塗り 塗装下地 コンクリート面	120	m ²			
下地調整 改修仕様	コンクリート面 RB種(塗替え面)	120	m ²			
防水形複層塗材E	コンクリート面 凹凸状 吹付け アクリル系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費別途	120	m ²			
サンダーケレン	外壁	479	m ²			
水洗い	外壁 9MPa以上	1,546	m ²			
下地調整塗材 改修仕様	C-2 厚1~2mm程度 こて塗り 塗装下地 コンクリート面	479	m ²			
下地調整 改修仕様	ALC面 RB種(塗替え面)	1,546	m ²			
外壁用遮熱塗装	水性ホモイウォールSi(日本ペイント)同等品 シリコン系 水系 つやあり 上塗2回 平滑仕上げ 下地調整費別途	1,546	m ²			
カットシール材充填工 法	1.0mm以上 挙動 有り	773	m			
シール工法		309	m			
充填工法	ポリアセメントモルタル	15.6	m ²			
サンダーケレン	軒天	113	m ²			

建築工事 細目別内訳

屋内運動場		外壁改修		改修		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
水洗い	軒天 9MPa以上	160	m ²			
下地調整塗材 改修仕様	C-2 厚1~2mm程度 こて塗り 塗装下地 コンクリート面	113	m ²			
下地調整 改修仕様	コンクリート面 RB種(塗替え面)	113	m ²			
下地調整 改修仕様	けい酸カルシウム板面 RB種(塗替え面)	46.9	m ²			
可とう形 外装薄塗材si		160	m ²			
段鼻タイル貼り	垂れ付き段鼻 I 類 無ゆう 150*66	200	m			
床クリーニング		89.3	m ²			
壁クリーニング		20.3	m ²			
天井クリーニング		721	m ²			
柱脚腐食部補強		0.1	t			
計						

建築工事 細目別内訳

屋内運動場		建具改修		撤去		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
鋼製戸撤去	両開き戸 扉のみ 集積共	22.3	m ²			
鋼製戸撤去	両開き戸 枠共 集積共	3.6	m ²			
建具金物撤去	SUSD1：フロアヒンジ 撤去 SD1：握り玉付シングル錠・フランス落とし・DC・ヒポットヒンジ SD2：丁番・DC SD3：戸当り・戸車φ40・舟底引手 SD5：DC SD6：握り玉錠：両面シングル錠・DC SD6：ケースハンドル・DC AW1c：クレセント AD1b：DC	1	式			
アルミ面格子撤去	1700*900 集積共	1	か所			
ガラス撤去	集積共	9.7	m ²			
シーリング撤去	建具廻り 集積共	446	m			
シーリング撤去	ガラスとめ 集積共	51.9	m			
ガラスとめ撤去	外部面 集積共	200	m			
計						

建築工事 細目別内訳

屋内運動場		建具改修			改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考	
SUSD1	フロアビンジ・建具調整	2	か所				
SUSD1	飛散防止フィルム貼り	3.9	m ²				
SD1	新設(カバ-工法・)握り玉付シンダー錠 ・フラス落とし・DC・丁番	3	か所				
SD2	丁番・DC・握り玉付シンダー錠・建具調整	3	か所				
SD3	戸当り・戸車φ40・丸棒取手・建具調整	2	か所				
SD4	新設	1	か所				
SD5	DC・建具調整	2	か所				
SD6	握り玉錠：両面シンダー錠・サムターン付シンダー錠・DC・建具調整	3	か所				
SD7	新設	1	か所				
LSD1	新設	1	か所				
TB1b	TA40アルミエッジ メラミン化粧板 巾木	1	組				
TB2b	TA40アルミエッジ メラミン化粧板 巾木	3	組				
TB3b	TA40アルミエッジ メラミン化粧板 巾木	1	組				
AW1b	建具調整	4	か所				
AW1c	クレセント・建具調整	1	か所				

建築工事 細目別内訳

屋内運動場		建具改修		改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
AW2	新設(カバ-工法)・アルミ面格子	1	か所			
AW4a	新設(カバ-工法)	5	か所			
AW5a	新設(カバ-工法)	1	か所			
AW5b	建具調整	1	か所			
AD1a	新設(カバ-工法)	2	か所			
AD1b	建具調整	1	か所			
AD1c	建具調整	1	か所			
シーリング	一般部 ポリウレタン系(PU-2) 15×10	446	m			
DP塗り 改修仕様	鉄鋼建具面 1級 下地RB種(塗替え面)	40.8	m ²			
SOP塗り 改修仕様	鋼製建具面 工程B種 塗料1種 錆止工程C 下地RB種(塗替え面)	28.2	m ²			
型板ガラス	厚さ4 特寸 2.18m ² 以下 ガラスとめ材別途 清掃別途	9.7	m ²			
ガラスとめ(シーリング) (両面)	シリコン 1成分形 SR-1 ガラス規格2.18m ² 以下	51.9	m ²			
ガラスとめ(カスケット)	ガラス規格2.18m ² 以下	148	m ²			
建具清掃	内外両面 ガラスコーティング含む	202	m ²			
計						

建築工事 細目別内訳

屋内運動場		内装改修			撤去		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考	
鋼製床組撤去	つか立て 集積共	731	m ²				
床下地板撤去	集積共	731	m ²				
フローリング撤去	集積共	731	m ²				
エキスパンションゴム撤去	集積共	144	m				
框撤去	テラゾブロック 集積共	7.1	m				
框撤去	木製框 180*85 集積共	10.7	m				
幅木撤去	木製幅木 集積共	8.6	m				
幅木撤去	ビニル幅木 集積共	21.7	m				
壁クロス撤去	集積共	150	m ²				
廻り縁撤去	塩ビ製 集積共	115	m				
天井点検口撤去	集積共	8	か所				
天井下地撤去	集積共	47.2	m ²				
天井クロス撤去	集積共	145	m ²				
室名札撤去	集積共	8	か所				
下足入撤去	集積共	1	か所				

建築工事 細目別内訳

屋内運動場		内装改修			撤去		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考	
天井見切材撤去	アルミ製 集積共	4.9	m				
アライントBOX 暗幕BOX撤去	集積共	3	か所				
流し台撤去	L=1200 集積共	1	台				
行事黒板撤去	1200*90 集積共	1	か所				
トイレブース撤去	集積共	5	か所				
便所手すり撤去	塩ビ製 I型 集積共	3	か所				
消火器表示板撤去	集積共	2	か所				
昇降ハコ撤去	集積共	1	か所				
バスケットゴール撤去	集積共	1	か所				
カッター入れ	コンクリート面 厚さ20~30mm	20.3	m				
コンクリート撤去	鉄筋切断共 コンクリートブレイカ 集積共	0.4	m ³				
床モルタル撤去	集積共	12.5	m ²				
床タイル撤去	下地モルタル共 集積共	6	m ²				
ALCパネル撤去	人力 集積共	1.2	m ³				
計							

建築工事 細目別内訳

屋内運動場		内装改修		内装改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
砂利地業	再生クワッション	0.1	m ³			
鉄筋金網敷き	D13@200 アンカー共	9.8	m ²			
普通コンクリート	JIS A5308 FC=24 S18 粗骨材20	0.8	m ³			
コンクリート打設手間	土間 ポンプ打設 50m ³ /回程度 S15~S18 - 圧送費、基本料別途	0.8	m ³			
コンクリートポンプ 圧送	30m ³ 以上 50m ³ /回未満 基本料金別途加算	0.8	m ³			
コンクリートポンプ 圧送基本料金	30m ³ 以上 50m ³ /回未満	1	回			
塗膜防水(材工共)	X-2 密着工法 ウレタンゴム系 平面 表面塗装メーカー標準色	1.3	m ²			
床モルタル塗り	金ごて モルタル仕上げ 厚30	33.1	m ²			
素地ごしらえ	ポルト面 工程A種	6.7	m ²			
素地ごしらえ 改修仕様	ALC面 工程A種	136.3	m ²			
壁 下地調整塗材	C-2 厚1~2mm程度 こて塗り 塗装下地 コンクリート面	4	m ²			
目荒し	タイル面	58.5	m ²			
木製床組	ころばし	20.8	m ²			
針葉樹構造用合板 貼り	t=12	20.8	m ²			
ラワンベニヤ貼り	t=12	20.8	m ²			

建築工事 細目別内訳

屋内運動場		内装改修			内装改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考	
耐水合板貼り	t=5.5	20.8	m ²				
鋼製床組		731	m ²				
構造用合板貼り	t=12	731	m ²				
ﾌﾞﾗｽ複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	t=15	731	m ²				
エキスパﾝションジョイント	12*25	144	m				
上り框 テラゾブロック	幅100 厚さ30	6.7	m				
上り框	ﾗｯﾝ 180*85	12.8	m				
床見切縁	SUS製	2.1	m				
防滑ビニル床シート	柄 厚さ2.5 複層ビニル床シートFS 一般床 熱溶接工法 防滑仕様	7.2	m ²				
ビニル床シート	柄 厚さ2.5 複層ビニル床シートFS 一般床 突付け -	69.6	m ²				
ビニル床シート 立上げ	柄 厚さ2.5 複層ビニル床シートFS 一般床 突付け -	2.1	m ²				
壁見切縁	アルミ製	35.7	m				
木製幅木	ﾗｯﾝ 100*25	8.2	m				
ビニル幅木	高さ100	17.5	m				
ﾌﾟﾗﾝｸ補修	ﾗｯﾝ 30*45	2.6	m				

建築工事 細目別内訳

屋内運動場		内装改修		内装改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
軽量鉄骨壁下地	65形 下地張りなし @300	16.2	m ²			
軽量鉄骨天井下地	19形(屋内) ふところ1.5m未満 下地張りなし @300 インサート別途	26.4	m ²			
天井廻縁	塩化ビニル製	101	m			
天井点検口	一般タイプ アルミ製 内外枠共額縁 450角	8	個			
グラスウール断熱材 敷込調整		1	式			
壁 せっこうボード 張り (GB-R)	厚12.5 不燃 鋼製、木、ボード下地 突付け -	15.6	m ²			
壁 せっこうボード 張り (GB-R)	厚15.0 不燃 鋼製、木、ボード下地 突付け -	5.5	m ²			
壁 シーリング せっこうボード 張り (GB-S)	厚12.5 不燃 鋼製、木、ボード下地 突付け -	20	m ²			
壁 強化せっこう ボード張り (GB-F)	厚21.0 不燃 鋼製、木、ボード下地 突付け 下張GB-F 厚21.0共	1.6	m ²			
壁 けい酸 カルシウム板張り	タイプ2(ノアス)0.8FK 厚 6 鋼製、木、ボード下地 突付け -	78.6	m ²			
天井 化粧 せっこうボード 張り (GB-D)	厚 9.5 準不燃 トラバーチン 突付け	12.3	m ²			
天井 ロックウール 化粧吸音板張り (DR)	フラット内部用 厚 9 不燃 下張GB-R 厚12.5共	18.1	m ²			
天井 けい酸 カルシウム板張り (FK)	タイプ2(ノアス)0.8FK 厚 6 突付け	46.9	m ²			
天井下地貼り	ワロンベニヤ t=5.5	145	m ²			
壁紙貼り	壁 ボード面 工程B種 - 素地ごしらえ共	147	m ²			

建築工事 細目別内訳

屋内運動場		内装改修		ユニット及びその他改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
室名札	平付け型 アクリル板 t=5 白 UV印刷 8-43-1 250×50	11	個			
暗幕BOX	木製 120*200	2.1	m			
手洗いライニング	L2130*H900*D150	1	か所			
便所手すり	固定手すり (L型) 6-22-5, 6-23, 6-25-1, 6-26 樹脂被覆タイプ	9	か所			
便所手すり	可動手すり (はねあげロック式) 6-23, 6-25-1, 6-26 樹脂被覆タイプ	1	か所			
便所手すり	小便器用手すり 6-28-1 樹脂被覆タイプ	6	か所			
便所手すり補強板		1	か所			
昇降ハンコ		1	か所			
消火器表示板	塩ビ製 蓄光文字	2	枚			
スチールラック		2	台			
緞帳・幕・飾り板		1	式			別紙 00-0001
下足入	一時撤去再取付け	1	か所			
肋木	一時撤去再取付け	1	か所			
掛け時計	一時撤去再取付け	1	か所			
校歌 2600*1300	一時撤去再取付け	1	か所			

建築工事 細目別内訳

屋内運動場		塗装改修		改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
DP塗改修仕様	鉄部 1級 下地調整RB種(塗替え面) 錆止め塗料As種(鉛・クロム7-1種)	1,277	m ²			
DP塗改修仕様	鉄部細幅 1級 下地調整RB種(塗替え面) 錆止め塗料As種(鉛・クロム7-1種)	570	m			
EP塗り改修仕様	ポ-ト-面 工程B種(一般) 下地調整RB種(塗替え面)	41.6	m ²			
EP-G塗り	けい酸カルシウム板面 工程B種 素地ごしらえ	5.3	m ²			
EP-G塗り改修仕様	ポ-ト-面 工程B種(一般) 下地調整RB種(塗替え面)	6.7	m ²			
EP-G塗り改修仕様	コンクリ-ト面 工程B種(一般) 下地調整RB種(塗替え面)	136.3	m ²			
SOP塗り改修仕様	巾木 工程B種 下地調整RB種(塗替え面)	224	m			
SOP塗り改修仕様	木部細幅 工程B種 下地調整RB種(塗替え面)	2,787	m			
SOP塗り改修仕様	鉄部細幅 工程B種 下地調整RB種(塗替え面)	589	m			
ウレタン樹脂塗装	3回塗り	731	m ²			
樹脂ワックス仕上げ		731	m ²			
コ-ト-イン引き		1	式			別紙 00-0002
水洗い	外部階段(踏面・蹴上・巾木) 渡り廊下	196	m ²			
下地調整改修仕様	モルタル面 RB種(塗替え面)	176	m ²			
下地調整改修仕様	鉄鋼面 RB種(塗替え面)	19.8	m ²			

建築工事 細目別内訳

屋内運動場		外構改修	土間改修			
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
すきとり	積み込み共 H300程度	0.6	m ³			
砂利地業	再生クラッシュ	0.4	m ³			
鉄筋金網敷き	D13@200 アンカー共	7	m ²			
普通コンクリート	JIS A5308 FC=18 S18 粗骨材20	0.2	m ³			
コンクリート打設手間	捨てコンクリート 人力打設 S15～S18	0.2	m ³			
普通コンクリート	JIS A5308 FC=24 S18 粗骨材20	0.8	m ³			
コンクリート打設手間	土間 ポンプ打設 50m ³ /回程度 S15～S18 圧送費、基本料別途	0.8	m ³			
コンクリートポンプ 圧送	30m ³ 以上 50m ³ /回未満 基本料金別途加算	0.8	m ³			
コンクリートポンプ 圧送基本料金	30m ³ 以上 50m ³ /回未満	1	回			
床コンクリート直均し 仕上げ	金ごて 直均し仕上げ	4.1	m ²			
床モルタル塗り	金ごて モルタル仕上げ 厚30	2.9	m ²			
計						

建築工事 別紙明細

屋内運動場		内装改修		ユニット及びその他改修		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
緞帳・幕・飾り板		1	式			別紙 00-0001
飾り板	700*1200*32	9	か所			
緞帳	一時撤去再取付け	1	組			
前幕	撤去新設 6300*5000 2枚	1	組			
一文字幕	撤去新設 11500*900	1	枚			
袖幕	撤去新設 900*4600 2枚	1	組			
中幕	撤去新設 6300*5000 2枚	1	組			
後幕	撤去新設 6300*5000 2枚	1	組			
カスミ幕	撤去新設 11000*1500 2枚	1	組			
脇幕	撤去新設 2000*5000 4枚	1	組			
バトン	撤去新設 2か所 L7000 38φ	1	か所			
スクリーン	撤去新設 6000*2300	1	枚			
計						

